



同志社大学大学院

博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」

Advanced Doctoral Program in

Global Resource Management

Doshisha University

2018 (平成30) 年度

年次報告書



同志社大学
Doshisha University

目 次

1. プログラムの目的・大学の改革構想	1
2. プログラムの進捗状況概要	
(1) 学修環境の維持	2
(2) コースワーク運営・全学開放への取組	2
(3) プログラムの評価	2
(4) キャリア形成支援	3
(5) 優秀な学生の確保と説明責任	4
(6) 経済的支援	4
3. 実施・運営体制の構築状況	
(1) 指導・支援体制	4
① 正課科目	4
② 正課外活動	5
(2) 企画・運営・連携体制	6
4. コースワークの実施	
(1) GRM共通科目	
① オンサイト実習	7
② 国際会議の組織と実践	8
③ GRMフィールドリサーチ	9
④ GRMインターンシップ	10
(2) サブ・メジャー科目	11
① GRMインフラストラクチャー基礎実験	11
② GRMグローバル・キャリア・デザイン論	11
③ GRMグローバル・スタディーズ基礎理論	11
④ GRM共生論	12
⑤ GRM資源管理論	12
(3) GRMコモン演習	13
5. 優秀な学生の獲得・学修研究環境	
(1) 入学する大学院生に対する理念の共有	13
(2) 国内リクルーティング	13
(3) 海外からの優秀な学生との共修	14
(4) 海外インターンシップ	14
6. 優秀な学生獲得のための広報活動	
(1) GRMジャーナルの発行	15
(2) Webコンテンツの充実	15
(3) 事業告示ポスター、パンフレット、リーフレット	15
(4) 年次報告書	15
(5) 高度情報発信システム	15

7. 平成 30 年度の主な活動実績	
(1) GRMに関する活動一覧	1 5
(2) 高等研究教育機構委員会の開催状況	1 7
(3) 「グローバル・リソース・マネジメント」 プログラム委員会の開催状況	1 9
(4) 「グローバル・リソース・マネジメント」 プログラム運営委員会の開催状況	2 1
(5) キャリア形成支援セミナー開催状況	2 4
(6) GRMフィールドワーク実施状況（再掲）	2 4
(7) GRMインターンシップ実施状況（再掲）	2 5
資 料	2 7

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、人間生存の基盤たる「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と「地球規模の課題群に関わる人文・社会科学」を融合した新たな学際領域「グローバル・リソース・マネジメント」を設定し、現在の困難を解決し、将来に生じうる隘路を事前に察知して対策を講じうる能力を有する、新興国、及び最困難国で活躍するグローバル・リーダーの養成を目指すものである。

同志社大学は、博士課程教育リーディングプログラムを推進することで、現在、世界が直面する多様な課題に対して、知識偏重的な学習・研究から脱したうえで、広い視野から主体的に問題を発見し、その解決に向けて創造的な思考をもって行動できる高度専門人材の養成を図る。そのため、既存研究科の主流となっている学問系統別の教育研究方法ではなく、issue-focused（課題追究型）かつ solution-oriented（解決志向型）な教育研究方法を大胆に取り入れる。本プログラムは、その先駆として位置づけられるものであり、複数の研究科の協力・連携による領域横断的・応用的教育プログラムを設置し、知のイノベーションによって大学院修了者のキャリアパスの拡大を目指す。

2. プログラムの進捗状況概要

本学大学院の博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下、「GRM」）は、プログラムの確実な実施と充実化を図っており、平成 30 年度は新たに文系学生 4 名、理系学生 2 名の計 6 名がプログラムを修了し、修了者の累積数は、文系 8 名、理系 9 名となった。修了者の進路は国内外の企業、大学等多様である。平成 30 年度末に実施した Preliminary Examination（以下「PE」）では 3 名、Qualifying Examination（以下「QE」）では 3 名を選抜し、GRMは合計 32 名（休学者 3 名）のプログラム履修生で平成 31 年度を迎えることになる。

リーディング大学院構築事業費による補助期間の最終年度となる本年度は、常置化の方針に基づき、既存の学修環境やコースワークのさらなる運営の効率化と博士課程教育リーディングプログラムとしての質の保証の両立を図る。補助期間終了後の持続的な発展に向けて、これまでに実践してきた各種事業を通じて協力関係にある海外諸大学や国際 NGO、国際機関、企業、国内公的機関との連携を確立する。

GRM履修生の推移

	2019.4			2018.4			2017.4			2016.4			2015.4			2014.4			2013.4		
研究科	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期
グローバル・スタディーズ	16	1	15	18	1	17	19	0	19	19	3	16	16	3	13	8	1	7	7	3	4
理工学	11	4	7	11	2	9	18	8	10	12	2	10	11	3	8	8	3	5	4	3	1
神学	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0
文学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	1	1	1	0	1	1	1	0
法学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
商学	0	0	0	1	0	1	2	0	2	2	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0
総合政策	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	2	0	0	0	0
合計	32	5	27	35	3	32	44	8	36	38	5	33	34	8	26	21	8	13	12	7	5

(1) 学修環境の維持

「GRMコモンルーム」は、異なる校地で学ぶ文理の学生が物理的距離を意識することなく、日常的にコミュニケーションを図り、互いの情報共有や意見交換により文理融合課題の解決に主体的に取り組むラーニングスペースである。基礎工学実験科目である「GRMインフラストラクチャー基礎実験」や、文理の学生が共修する「GRMコモン演習」、「GRMオンサイト実習」等の事前・事後指導、さらには「GRMレクチャーシリーズ」等の正課外の特別講義の教室として幅広く使用し、文理の学生が互いに切磋琢磨する融合空間として定着している。文部科学省による支援期間終了後も本学の自己財源で継続運営する。

平成30年度は、今出川校地・京田辺校地の両GRMコモンルームに配備した情報機器や実験器具の維持・管理にあたり、プリンター用トナー等の消耗品を購入し、TV会議システム等の配備機器の保守点検に必要な経費を執行した。上述の計画的な利用に加え、「出口」(キャリア支援)の強化を念頭に、「GRMグローバル・キャリア・デザイン論」の一環としてPROGテストの実施やキャリア形成支援セミナー(例:社会を変えるマハトマ・ガンディーのリーダーシップ、State of the art of industry 4.0:Strategy and Vision of France)等を開催し、特にGRM履修生のキャリア開発・就職を意識したイベントを積極的に開催することで、学生の自律的なキャリア開発・設計に貢献した。

(2) コースワーク運営・全学開放への取組

GRMの学位プログラムは、学知の修得と現場での実践の絶えざる連環によって構成される点に特色を有することから、学位プログラムの実施過程において、産官学民の連携によるPBL型の教育手法を積極的に取り入れており、複数の文理融合型授業(GRMオンサイト実習、GRMコモン演習、GRMフィールドワーク)で展開した。

平成30年度は本学の独自事業「他研究科・専攻科目履修促進事業」と連動させ、11科目を全研究科・専攻に開放し、平成31年度からのプログラムの全学開放に備えた。

GRMの常置化に向けたカリキュラムの見直しは、GRM科目間でのテーマの共有と連携による運営コストの削減、科目ナンバリングとPrerequisiteの導入による修了要件の設計に取り組み、平成31年度からのGRMプログラムの全研究科開放に向けた準備を完了した。

(3) プログラムの評価

平成30年度は、内部自己点検・評価の実施とそれに基づく外部評価委員会評価を受けた。内部自己点検・評価は、補助期間終了後のプログラムの運営方針として、GRMが育成しようとする博士人材と社会が求める高度職業人材の間で乖離がないかをGRMの講義等で招聘したゲスト講師、インターンシップ受入機関、GRMプログラム修了生を対象としたアンケート形式ならびにアドバイザー及び2名(実人数)以上の協力を得た機関及び修了生の就職先等を対象にした訪問調査によるインタビューによって実施した。回収したアンケート結果は、GRMプログラムに対する定性的な評価を数値化した上で分析を行い、外部からの広く受けた評価結果とともに自己点検・評価結果報告書にまとめ、プログラム責任者から学長に報告した。

その後、内部自己点検・評価をもとに、学外者6名と学内者1名で構成する外部評価委員会を開催し、中間評価で受けた課題の改善状況、その後の進捗状況と成果に対する評価を受けた。外部評価委員会からは、今後は、定量的なエビデンスとなる評価指標を取り入れ、GRMで実施している取り組みがどのように学生の能力育成に結びついているのかを知り、更なる改善に繋げて欲しいという評価体制への期待が示された一方で、GRMが文理融合型高度人材育成を実現するプログラムとして、専門の方向性が全く違う文系理系の教員組織をまとめ、実際の社会課題を題材にしたオンサイト実習など多様な教育コ

ンテンツの開発を進めており、企業や官公庁さらに国際機関との連携体制を組むなど特徴のある取り組みを実施していることを高く評価された。結果として「計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。」との総合評価を得た。平成30年度に実施した内部自己点検・評価と外部評価委員会評価は、平成31年度からの全学展開に向けての最終チェックの場としても有効に機能させることができた。

（４）キャリア形成支援

平成30年度は、キャリアコーディネーター（以下「CC」）を中心にプログラム履修生に新たな進路（とりわけノンアカデミア分野）を開拓した。博士人材の活躍するフィールドや活用されている環境に着目し、博士学位取得者の採用が多い日本企業や外資系企業での採用の実態調査や企業・機関訪問を行った。国内外において文理双方のプログラム担当教員が持つネットワークを活用し、Country Garden（中国）、特定非営利活動法人 道普請人、富士フィルム株式会社、正興電機製作所、（株）アソウ・ヒューマニーセンター、西日本技術開発株式会社、麻生介護サービス株式会社を訪問し、プログラム運営の協力と採用窓口の開拓に努めた。この結果、平成30年度も当初計画通り、インターンシップの受入先機関を確保することができ、2名のプログラム修了生の就職に繋がる実績を得た（独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所、ダイキン工業株式会社）。

平成30年度に博士学位を取得した6名の進路が、例年度と同様に国内外の企業、研究所等におたる実績は、専従CCによるキャリア指導がGRM履修生の社会適応力に繋がっていることを証する結果となった。キャリア形成の理論と実践知を身に付ける正課科目である「GRMグローバル・キャリア・デザイン論」と、現場で求められる実践力を身に付ける「GRMインターンシップ」による理論と実践を統合したパッケージ型のキャリア形成支援教育プログラムを完成させた。両科目はプログラム在籍者の半数以上がこの科目を履修済みであり、平成31年度以降も継続して開設する。

チームワーク力、情報発信力、説明力の鍛錬や学生の研究活動の活発化を促進する活動として、博士課程教育リーディングプログラム・フォーラム2018（主催：東京工業大学）にGRM履修生2名が参加した。うち1名は、本フォーラムにて募集された「社会に新しい価値を実装する提案」するセッションの事前選考を通過し、「Using Virtual Reality Technology to Help Elder People from Dementia and Alzheimer Diseases」と題した発表を行った。1名の学生は、当日の文部科学省の講演「リーディングプログラムの成果と展開」を聴講した後に、『社会に新しい価値を実装する』ために、リーディング学生にさらに必要なものは何か。そのために大学は何ができるか」をテーマに、他大学のリーディングプログラム参加学生とのグループディスカッションを通じて問題提起・提案を行った。また、「NISTEP/奈良女子大学共催 人材ワークショップ「博士のキャリアデザイン」の参加を通じて、最新の博士課程取得者の就職状況の把握、他大学のキャリア支援関係者との情報交換等にも努めた。産業界等との交流イベントは、企業人事担当者との採用意識や、求められているスキルにおける温度差を実感する場でもあり、学生に緊張感と就業意識を目覚めさせる機会となることから、規模の大小に関わらず継続的な開催を望むところである。

（５）優秀な学生の確保と説明責任（成果公表と情報公開）

平成 30 年度に実施した P E 及び Q E の結果、平成 31 年度から新たに G R M に加わる学生は、博士前期課程で 5 名、後期課程で 1 名である。平成 31 年 4 月 1 日のプログラム履修生は 32 名（内 3 名は休学者）となった。

（６）経済的支援

G R M 特別奨励金制度により平成 30 年度は給付条件となる P E 合格者より 2 名、Q E 合格者（継続給付希望者を含む）19 名の受給申請があり、P E 合格者には月額 15 万円、Q E 合格者には月額 20 万円の奨励金を給付する経済的支援を行った。

本奨励金は、G R M 履修生の経済的負担を軽減し、G R M の活動に専念できる時間を確保する上で効果的な事業である。通常の博士課程学生より 20 単位以上多いワークロードを課す G R M にとって、本奨励金の給付は、学生の学修と研究時間の確保という目的において、必要不可欠な事業であった。

平成 31 年度以降は、G R M 履修生のうち、平成 30 年度までに G R M プログラム履修生選抜試験に合格した外国人留学生に限定し、国費留学生相当額の奨励金を本学の自己財源で継続給付する。なお日本人学生については、学会等における発表や G R M プログラムが企画、提供する正課外の事業で必要となる旅費等を経費支援することで、学生の経済的負担軽減に努める。

3. 実施・運営体制の構築状況

（１）指導・支援体制

平成 30 年度は、プログラム担当教員が国際機関、日本政府関連機関、民間企業、研究機関、NGO 等と密接に連携し、また新たな機関との連携により下表の通り事業を実施した。

①正課科目

事業	連携・協力機関	テーマ・連携内容
G R M オンサイト実習Ⅰ	琵琶湖博物館、湖西浄化センター、蹴上水力発電所、滋賀県立大学	京都の水供給と琵琶湖水質
G R M オンサイト実習Ⅱ	神山市役所、とくしま新未来創造オフィス、認定特定非営利活動法人グリーンバレー、一般社団法人神山つなぐ公社、徳島県立城西高等学校神山分校	まちづくり・地方における雇用創出や人口減少の現状、社会情報学・情報技術
G R M 国際会議の組織と実践Ⅰ（文系）	リュブリャナ大学	民族紛争と平和構築
G R M コモン演習Ⅱ	JICA	防災と情報発信
G R M グローバル・スタディーズ基礎理論	JICA	先進国と発展途上国の地方自治
G R M 共生論、G R M 資源管理論	リーガル・コンサルタント在ヨルダン米国弁護士会、日本医療政策機構、東北大学	共存と文化共生のための資源管理
G R M 国際会議の組織と実践Ⅰ・Ⅱ（理系）	キングモンクット工科大学、和歌山工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校、モントリオール理工科大学	インフラストラクチャーと E M C と過渡現象

GRMグローバル・キャリア・デザイン論	論理的なコーポレート・ガバナンスのためのガンディー・フォーラム、エコール・セントラル・リール	博士のキャリアパス開発
---------------------	--	-------------

②正課外活動

GRMプログラムの構想時に、事業目標として多文化共生社会を実現するための教育方法の開発と実践を掲げている。補助期間終了後の持続的な発展に向けて、本年度は、これまでに実践してきた各種事業を通じて協力関係にある海外諸大学や国際NGO、国際機関、企業、国内外公的機関（トルコ、スロベニア、カタール、フィリピン、UNIDO、宮古島）との連携を確立する。相手先機関・大学等からの教育の提供、国際的専門家会議（パネル等）の構想と実現する場の提供、相手先機関が持つ教育研究ネットワークをGRMに結びつけることで、バイラテラルの関係をマルチラテラルに発展させるグローバル教育拠点「多文化共生コンソーシアム」を本学に設置する。本コンソーシアムはこれまでのGRMによる成果の集大成であり、連携先諸外国からの資金調達を可能とするように設計することで、GRMの持続的な発展を目指す。CCを中心に、プログラム履修生の新たな進路（とりわけノンアカデミア分野）を開拓する。そのため、国際機関、グローバル企業等の博士学生の採用状況を調査すると同時に、学生に即戦力として必要な知識、技能を身につけさせる事業を正課外で実施する。

フィリピンでの連携については、プログラム担当教員とGRM履修生が設立に関わったフィリピン真空学会を定期的に開催し（平成28年度、30年度）、学生派遣を行ってきた。この間、フィリピン真空学会は国際的に認知されるようになり、フィリピン科学技術省（DoST）と共同事業を行うまでに発展し、平成30年度は、平成27年に実施した設立会合以来の学会事業の見直し案として、大学を起点とする全国規模研究所の設立シナリオと、そのシーズ研究についてGRM履修生が発表・討議を行った。日比間の科学技術分野での国際協力を実践する場となった。

トルコとの連携は、プログラム・コーディネーターと研究支援員（アソシエイト・プログラム・アドミニストレーター）がイブン・ハルドゥーン大学の学長と本学への学生派遣の仕組みづくりについて、協議を行った。また、トルコへの2度の訪問では、プログラム・コーディネーターがJETRO・イスタンブール事務所にて講演を行い、現地企業や日系企業の約60名の参加者に対してGRMの広報を行うとともに、ファンドレイジングに向けたネットワーキングを行った。

カタールでは、プログラム・コーディネーターと研究支援員がハマド・ビン・ハリーファ大学との連携協定の調印式に出席し、ジョイントディグリーなどの具体案を盛り込んだ協議を開始した。またカタール財団とファンドレイジングに向けた実務的な協議を行った。これらの取組により、「多文化共生教育コンソーシアム」が目指す、GRMを軸とするマルチラテラルな教育ネットワークの構築が、イブン・ハルドゥーン大学（トルコ）、ハマド・ビン・ハリーファ大学（カタール）との間で実現し、平成31年度以降の重点課題である難民を対象にした教育問題に取り組む。

国	連携・協力機関	事業内容
フィリピン	フィリピン科学技術省（DOST）	フィリピン真空工学会に出席、多文化共生コンソーシアムについて打合せ
トルコ	イブズ・ハルドゥーン大学、 ジェトロ・イスタンブール事務所	イブズ・ハルドゥーン大学の学長と本学への学生派遣の仕組み作り、プログラムコーディネーターによる講演
カタール	ハマド・ビン・ハリーファ大学、 カタール財団	博士共同指導、ジョイントディグリーなどの協議

（２）企画・運営・連携体制

平成 30 年度末時点で次の通り進捗している。

- ・ 高等研究教育機構の高等教育院を全学的な大学院教育組織とし、GRMをその下に置く全学的な大学院共通教育プログラムとして実施している。この位置づけにより、本プログラムが理工学研究科とグローバル・スタディーズ研究科（基幹 2 研究科）のみのプログラムではなく、学長のリーダーシップによる全学展開を可能としている。
- ・ 高等研究教育機構の下にGRMプログラム委員会を設置し、プログラムの教育課程、履修方法、プログラム履修学生の選抜、継続履修、修了審査、奨励金奨励生の推薦、補助金の予算執行、委員会の組織及び運営に関する事項を審議している。全プログラム担当教員の合議による運営方法を採用することで、研究科や分野の垣根を超えた運営体制が構築できている。
- ・ GRMプログラム委員会の下に、少人数の委員で構成され運営の核となるGRMプログラム運営委員会を置くことで、審議・協議事項について事前の整理と精査を行っている。このことにより、効率的な委員会の運営を実現し、プログラム実施の円滑化と担当教員の負担感の軽減を図っている。
- ・ 高等教育院には、GRMに専従するプログラム・オフィサー（PO）2 名、キャリアコーディネーター（CC）2 名を配置している。POは、主に文理融合演習や実習の立案から実施、各種事業の橋渡し、連携を担い、CCはキャリア形成支援プログラムの開発から実施までを担っている。また、両者はプログラム履修生と指導教員の間をつなぐ役割を担っている。このことにより、学生は所属研究科の教育課程とサブ・メジャーとしてのGRMの学修の趣旨を正しく理解し、効果的に履修している。
- ・ また、POは各研究科に所属するプログラム担当教員の要望に応じて、授業に企画の段階から関与し、当該授業の実施に向けての調整を担うなど、カリキュラム・コーディネーターとしても機能している。
- ・ 基幹 2 研究科にそれぞれアシスタント・プログラムコーディネーターを置き、文・理固有の課題や困難等に対して調整や解決を図る体制を整備し、効果を上げている。

4. コースワークの実施

(1) GRM共通科目

①オンサイト実習

文理の学生が共修する「GRMオンサイト実習Ⅰ」を滋賀県大津市と草津市および京都市にて、「GRMオンサイト実習Ⅱ」を徳島県神山町でそれぞれ実施し、多文化共生社会の形成に必要となるグローバル・リソース・マネジメント（インフラ科学、資源・エネルギー科学とグローバル・スタディーズ）の融合実践知を学ぶ教育を実施した。両オンサイト実習は、各関係機関の協力を得て、大きな成果を得ることができた。

GRMオンサイト実習Ⅰは、GRMにかかる基礎知識の習得、データ収集と分析による問題発見能力を身につける、GRMの導入科目としての明確な位置付けをもって、本実習授業を実施した。平成30年度は、テーマを「京都の水供給と琵琶湖水質」に絞り、授業では調査手法についての座学を経て、利用者（京都市民）へのアンケート調査を実施した。履修生は、滋賀県立琵琶湖博物館と湖西浄化センターを訪問し、近畿圏の水資源である琵琶湖の歴史、生態系、水質問題、近畿圏の水供給体制を学び、京都市民へのアンケート調査を通じて、人間生活の物質的基盤である水資源にかかる利用・消費者側の問題意識を把握し、問題点への理解を深めた。グループワーク、成果発表を通じて「水供給」の課題報告と改善提案を授業内で行うことで本授業の目的を達成し、同時に地域連携事業のプロセスと運用ノウハウを効果的に身につけさせることができた。

GRMオンサイト実習Ⅱは、GRMオンサイト実習Ⅰの発展科目として位置付ける科目である。講義形式による事前学習ではまちづくり・地方における雇用創出、地方における人口減少の現状、社会情報学・情報技術に対する理解を深めた。現場実習では、ICTによる地方創生に取り組んでいる事例として、徳島県神山町に注目し、GRM履修生3名は現地への二度の訪問・調査を通じて、地域が抱える問題への解決策を報告書にまとめ神山町役場、とくしま新未来創造オフィス、認定特定非営利活動法人グリーンバレー、一般社団法人神山つなぐ公社、徳島県立城西高等学校神山分校に提案した。一回目の訪問では現地での問題点や課題を抽出する基礎調査として、現地NPOや企業等を視察した。神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスでは徳島県地方創生局地方創生推進課の担当者より、神山町の特徴である「豊かな自然環境」、「全国屈指の光ブロードバンド環境」、「古民家・遊休施設の利活用」を融合した人口減少対応施策の「とくしまサテライトオフィスプロジェクト（平成24年3月～）」の説明を受け、神山町での移住者・企業誘致促進政策の内容、情報発信戦略、産官民協働の活動内容等への理解を深めた。また、認定NPO法人グリーンバレーの理事より、神山町の空家対策と雇用創出に貢献している「ワークインレジデンス（地域内での企業間連携を念頭にした業種を指定した企業誘致）の募集」や「神山塾（厚生労働省の求職者支援訓練『地域枠』認定）」等の活動内容・実績を通じて、ICTインフラ整備と多様な働き方を実現できるビジネスの場の提供による、持続可能な地域への取り組みを学んだ。二回目の訪問においては、GRM履修生3名は現地（神山町役場、製材所・工務店等、神山塾）でインタビュー調査を行うことで、一回目の訪問で抽出した問題への理解を深めた。現地スタッフとの直接的な意見交換の場は、多文化共生社会構築の要素を学ぶ上で欠くことのできない教育方法であり、支援期間終了後の演習・実習科目の運営において、積極的に取り入れることにした。

テーマ	場所	協力機関
京都の水供給と琵琶湖の水質	滋賀県大津市、草津市、 京都市	琵琶湖博物館、湖西浄化センター、 蹴上水力発電所、滋賀県立大学
まちづくり・地方における雇用創出や人口減少の現状、 社会情報学・情報技術	徳島県名西郡神山町	神山町役場、とくしま新未来創造オフィス、 認定特定非営利活動法人グリーンバレー、 一般社団法人神山つなぐ公社、 徳島県立城西高等学校神山分校

②G R M国際会議の組織と実践

世界規模的課題を扱う「G R M国際会議の組織と実践Ⅰ・Ⅱ（文系）」では、難民支援の現状調査とボランティアの実践を経て、授業の最終目標をスロベニア政府が主催する「Bled Strategic Forum」（世界規模のフォーラム）における「Young Bled Strategic Forum」への参加、「Bled Strategic Forum」での同志社大学とリュブリャナ大学の合同パネルの設置・運営と位置付け、授業内容を企画、実施した。「Bled Strategic Forum」に参加した4名のうち2名の学生が、事前にプログラム担当教員の指導の下、「Young Bled Strategic Forum」への参加を目指しプロポーザルを作成し、2名ともに「Young Bled Strategic Forum」の正式メンバーとして氏名がアジェンダに掲載され、参加が承認された。平成30年度の「Young Bled Strategic Forum」では、世界各国から選ばれた学生・若手社会人が、「持続可能な安全保障—分裂した国々の橋渡しとしての若者の役割とは—」のテーマをもとに、政策案を提案した。今回の合同パネルの設置は、支援期間中のスロベニア政府、リュブリャナ大学との関係構築により実現した事業であり、G R Mが目指す「多文化共生教育コンソーシアム」の形成に大きく寄与した。

インフラ工学をテーマとする「G R M国際会議の組織と実践Ⅰ・Ⅱ（理系）」では、電力・通信の学生教育国際シンポジウムである「ISET2018 Symposium」（於：同志社大学）を、G R M履修生2名、当該科目を履修する理工学研究科学生10名が授業担当教員や招聘講師7名とともに企画し、会議当日は国内外の他大学院や工業高等専門学校より11名が参加した。本事業に関わった学生は同会議を主催する過程で生じる国際会議の企画、運営プロセス、また運営支援の実践能力と英語運用能力を身につけた。G R M履修生の1名は、前年度の学生プログラム委員会の運営委員長を務めた経験をもとに、本年度の運営委員長や科目履修生へのアドバイザー役を務め、プログラムの構成、企画、公式文書の作成、ホームページのコンテンツの企画、国際会議の論文収集等の相談役として、運営に大きく貢献した。本会議前の事前シミュレーションでも質疑応答の練習相手となることで、参加学生の不安感を払拭するなど、リーダーシップを発揮し、当日は遅滞なく会議が実施された。また、これまでG R Mプログラムが重点地域としてフィールドワーク等を重ねてきたフィリピンとの連携を総括し、「多文化共生教育コンソーシアム」構築へと発展させることを目的とする国際会議をフィリピン真空学会との共催で開催した。G R M履修生6名とプログラム担当者1名が将来的な産業応用を考えたプラズマ技術開発研究所の設立を通じて、社会制度の改革をテーマに議論を行った。参加が認められたG R M履修生は、プラズマ科学の新たなトピックを紹介するのみならず、「G R M資源管理論」で得た資源管理と社会制度改革に関する成果を発表し、現地の行政担当者、大学教員・学生と意見交換を行った。

日程	テーマ	場所
平成 30 年 9 月 6 日（木）～ 9 月 12 日（水）	Bled Strategic Forum	スロベニア、リュブリャナ市
平成 30 年 12 月 8 日（土）	ISSET2018 Symposium	同志社大学 寧静館 5 F

③GRMフィールドリサーチ

平成 30 年度は前年度に引き続き、GRMオンサイト実習の成果を踏まえ、学生自ら課題を設定し現地に赴く個人ワーク型「GRMフィールドリサーチ」として実施した。プログラム担当教員、授業担当教員と研究指導教員の連携による指導の下、8 名の学生が国内外の実習地に赴き、自身の研究テーマや業務のミッション遂行、現地における知の活用方法の考案等、研究活動を実践的なものにした。本年度は、フィールドリサーチの現地拠点大学に就職する学生が出るなど、GRM履修生の研究テーマや研究力が評価を受ける成果も得ることができた。活動状況は次のとおりである。（テーマ／国／期間／実習時間）

テーマ	国	期間	実習時間
JICAの理数科教育支援プログラムの研修を受けている教員や学校ベースで支援プログラムを実践している教員達が、それぞれ日本のメソッドに基づいた支援をどのように受け入れてきたのかの調査	ザンビア	平成 30 年 8 月 16 日～ 平成 30 年 9 月 11 日	100 時間： 平均 5h/日
勢力の拡大が懸念されている右派ポピュリズムが、現地で生活している人々にどのような影響を及ぼしているのかの調査	ドイツ	平成 30 年 8 月 23 日～ 平成 30 年 9 月 6 日	32 時間： 平均 2h/日
ガスシートモニタの開発	日本	平成 30 年 4 月 2 日～ 平成 30 年 9 月 30 日	907 時間： 平均 7h/日
Social Media use among young urban Syrian refugees	レバノン	平成 30 年 4 月 24 日～ 平成 30 年 9 月 25 日	1,248 時間： 平均 8h/日
An anthropologic approach to the issue of ethnicity in Iran	スペイン・ドイツ	平成 30 年 7 月 18 日～ 平成 30 年 7 月 31 日	83 時間： 平均 6h/日
Showcase and strengthen the input of several papers extracted from my PhD thesis and make them ready for publications	トルコ	平成 30 年 4 月 25 日～ 平成 30 年 5 月 25 日	270 時間： 平均 6h/日
中国における介護保険サービスの供給構造に関する調査	中国	平成 30 年 10 月 30 日～ 平成 30 年 11 月 15 日	42 時間： 平均 3h/日
Interview several Iranian scholars and writers living in Europe, and to analyze these interviews	フランス	平成 30 年 7 月 31 日～ 平成 30 年 9 月 15 日	174 時間： 平均 4h/日

④GRMインターンシップ

GRMのインターンシップは、GRM履修生が実社会での経験とそこで活躍するリーダー等に接することによって、彼らの着目点やプロジェクトの立案・計画、PDCAサイクル等を学び、英語以外の外国語運用能力を含め、多文化への理解力等、自らのキャリア形成に資する知識や技能を身につける上で、リーディング大学院事業に欠くことのできないプログラムである。インターンシップ受入先からは、「業務内容の理解が早く、処理能力が高い」という評価に加え、「自社の若手社員にも好影響を与える」との評価を得ており、すでに決定している継続実施に好材料を得ることとなった。活動状況は次のとおりである。(テーマ／国／期間／実習時間)

テーマ	国	場所	期間	業務時間
Internship at Wi-Elektrik company for research about Wireless Power Transfer System	トルコ	Yildiz Teknik Universitesi, Wi-Elektrik company	平成 30 年 9 月 1 日～ 平成 30 年 11 月 2 日	330 時間： 平均 6h/日
雷・サージ・電磁環境に関する研究実習	日本	電力中央研究	平成 30 年 9 月 11 日～ 平成 30 年 9 月 21 日	56 時間： 平均 7h/日
Have a closer look on its domestic development, international operation, etc	中国	Country Garden	平成 31 年 1 月 30 日～ 平成 31 年 3 月 4 日	135 時間： 平均 9h/日
不動産開発会社の高層住宅、商業施設、オフィスビル、その他関連分野の開発現状および先端技術を見学する	中国	Country Garden	平成 31 年 2 月 17 日～ 平成 31 年 3 月 4 日	90 時間： 平均 9h/日
To Learn and gain experience in current developments trends in ion source technology. To Develop an understanding of industry design and work standards. To further knowledge in advance plasma/ion source technology.	日本	日新イオン機器株式会社	平成 30 年 4 月 2 日～ 平成 30 年 7 月 11 日	258 時間： 平均 8h/日
「イスラーム主義」に関する実践的研究：研究広報、情報発信（研究成果発信）を含む「研究マネジメント」の体得およびアルジャジーラでの就労経験を通じた国際的なキャリア形成	カタール	アルジャジーラ研究センター	平成 30 年 9 月 30 日～ 平成 30 年 12 月 13 日	430 時間： 平均 5h/日
Effect of the RF impedance matching network on the H-beam and on the electron density and temperature in the plasma	ニュージーランド	Buckley Systems (D-Pace)	平成 31 年 1 月 18 日～ 平成 31 年 2 月 10 日	144 時間： 平均 7h/日

(2) サブ・メジャー科目

「グローバル・リソース・マネジメント」という新たな学際分野に係る専門的知識、実践的技能を学生に身に付けさせるために「GRMサブ・メジャー科目群」を設置する。人文・社会科学を専攻とする学生はインフラ工学、資源・エネルギー工学の理工学分野を、理工学を専攻とする学生は地球規模の課題群（グローバル・イシューズ）などの人文・社会学分野を、それぞれのサブ・メジャーとして、合計 8 単位を履修することになる。これらの授業では、学生により先端的、実践的な知識を身につけさせる目的で、国内外から専門家や実務家をゲストスピーカーとして招聘する。

① GRMインフラストラクチャー基礎実験

「GRMインフラストラクチャー基礎実験」は、インフラ工学の基礎知識を持たない人文・社会学のGRM履修生が、基礎的な工学知識や技能を学ぶ科目である。平成 30 年度は、最困難国や開発途上国等の現場でインフラ開発整備や事業マネジメントに従事する場合を想定し、太陽電池や充電器等の実験機材と教材をそろえ、学生はインフラ工学の知識と技能を身につけた。本実験科目の総括実験を、前年度同様、奈良工業高等専門学校、および奈良県山辺郡山添村の河川をフィールドとして実施し、自然現象（風、雷、水）を利用したエネルギーの生成に取り組んだ。また、平成 27 年度から継続し、本年度も小型重機の運転技能講習会に学生が参加した。

② GRMグローバル・キャリア・デザイン論

「GRMグローバル・キャリア・デザイン論」は、体系的な学習プロセスによる「博士人材のキャリア支援教育」の確立を目指し、キャリアコーディネーターが開発した講義、演習、実習の組み合わせにより実施する科目である。平成 30 年度は、学生との個別面談の結果から、GRM履修生のウィークポイントを把握した上で、自己分析テスト（PROGテスト）や自己PR講習、企業研究・訪問（Country Garden（中国）への企業訪問）、IoT教育、プレゼンテーションスキルアップ研修などを併せて実施した。「出口」戦略強化の一環として、学内外のゲスト講師（エコール・セントラル国立理工科学院、Gandhian Forum for Ethical Corporate Governance）による講義に留まらず、GRM修了生の就職先である Country Garden（中国（大手不動産、土地開発会社））とのネットワーク構築を実現することで、同社へのインターンシップ（2 名）も実現した。本インターンシップでは、GRM修了生が社員としてフィードバックを行うなど、リーディング大学院プログラムで学ぶ学生の強みを実感する場ともなった。GRMグローバル・キャリア・デザイン論は、社会人として必須である基礎的・汎用的能力の育成やプレゼンスキル向上、就業体験等を行う科目として、支援期間終了後も継続開設する。

③ GRMグローバル・スタディーズ基礎理論

「GRMグローバル・スタディーズ基礎理論」は、文理、国籍の異なる学生が価値観や主張の相互認識を深めることを目指す科目である。過年度に構築した関係をもとに、フィリピン大学との合同セミナーを二回にわたり実施した。一回目の 6 月 12 日には、GRMとフィリピン大学の合同セミナー（テーマ：持続可能な開発とガバナンス）を本学で行った。前半部では、GRMの研究支援員とプログラム担当教員各 1 名がGRMの説明と発表を行い、後半部では両校の学生が発表を行った。GRM履修生 2 名は「日本とフィリピンの比較研究～防災・減災政策、災害後の追悼文化の比較」、「持続可能な社会の

構築に向けた Environmental citizenship（人間も環境の一部であるという概念）と地方自治の関係」をテーマに発表を行い、フィリピン大学の学生との議論をリードし、研究の視野を広げた。また、平成 29 年度までプログラム担当教員として GRM の運営に関わったフィリピン大学の教員が、プロジェクト・サイクル・マネジメントの見地をもとに、学生の議論を理論面でサポートした。二回目の 12 月 7 日には、GRM とフィリピン大学とハサヌディン大学の合同セミナー・ワークショップを実施した。

（テーマ：Workshop on Public Finance for Global Resource Management）フィリピン財務省財務次官、財務課長、フィリピンとインドネシアの大学教員等を同志社大学に招聘し、GRM 履修生 4 名とともに国家開発問題についてのワークショップを開催した。本ワークショップを通じて、プログラム履修生は ASEAN 諸国における近年の開発事情と、それを取り巻くアカデミックな活動についての理解と知識を深めた。また本ワークショップでは、政府高官への個別インタビューを行うセッションを設けることができ、グローバル・リーダーとしての素養を培う上で貴重な機会となった。

平成 30 年度は、授業の運営において、討論時における助言等で JICA に協力を仰ぎ、グローバル・ガバナンスと官民連携事業をテーマにした集中討論合宿を GRM 履修生 3 名（理工学研究科生）とプログラム担当教員 1 名が岐阜市で行った。岐阜市は、市内の NGO 団体・農協・NOSA I 等が連携し、労働力人口の流出という課題に取り組んでいる。3 名の理系の学生は、同市の取組である観光開発事業・文化遺産保護事業の歴史、地方自治体・企業・地元住民による連携活動、農業経営と農家保護制度等から岐阜市の取組を複眼的に捉え、日本の地方自治体が抱える労働人口の流出・減少、地域活性化、協働等の課題を発展途上国の現状と比較調査する社会科学的視点での分析手法により、グローバルな視点で多文化共生社会の実現に向けた課題を捉える力を培うことができた。

④ GRM 共生論

「GRM 共生論」は、GRM の掲げる多文化共生を神学・社会学・法学・経済学の分野から考察し、GRM としてのより良い共生のあり方について議論し理解を深めることを目指す科目である。履修する文理双方の学生に対してガイダンスを実施し、宗教間の共生と政治、共生のための福祉実践思想、共生のための法思想、共生のための公共経済学の順に各プログラム担当教員が授業を行った。

前年度に引き続き、授業の最終回には、総括となるシンポジウムを同じく GRM の科目である「GRM 資源管理論」と合同で開催した。本シンポジウムは、履修学生が自らの考察をもって、多岐にわたる分野の担当教員、学外招聘者と議論する鍛錬の場として機能している。授業のまとめとして文理合同のシンポジウムを企画することで、異なる視点を持って常に授業に参加する意識を、履修学生に植え付けることができている。

⑤ GRM 資源管理論

「GRM 資源管理論」は、資源管理の概要を学ぶことで、ヒューマンセキュリティが脅かされる背景や資源、インフラの不均衡の存在、不均衡の是正による持続可能な発展の可能性について考え、理解を促すことを目指す科目である。履修する文理双方の学生に対してガイダンスを実施し、資源管理と環境地質学、電力資源、材料資源開発の現状と課題、エネルギー資源と情報のインフラストラクチャー、水資源の現状と管理における課題、先端的環境資源技術とイノベーションの順に各プログラム担当教員が授業を行った。前年度に引き続き、授業の最終回には、総括となるシンポジウムを先述の「G

RM共生論」と合同で開催した。

本シンポジウムの成果はGRM共生論の項に記載したとおりである。文理の異なる科目が授業内で合同企画を実施する運営形態は、文理融合教育を推進する上でも効果的であり、支援期間終了後も本企画を継続的に実施する。

（３）GRMコモン演習

文理の学生が共修する「GRMコモン演習」を実施し、文理融合の共通課題をもとに発想の転換と統合を鍛錬した。本演習は、海外でのフィールドワークや正課外事業の成果につながるように、コースワーク全体の体系性のみならず、授業間の連携性にも配慮している。主に博士前期課程の学生を対象とする「GRMコモン演習Ⅰ」は登録者不在を事由に休講としたが、すでに約 9 割のGRM履修生が本科目を履修済みであること、次年度以降も継続的に開設するため、今年度の休講がプログラムの計画、進捗と成果に及ぼす影響はない。

主に博士後期課程の学生を対象とする「GRMコモン演習Ⅱ」は、同演習Ⅰが人間生活の物質的基盤から発展途上国にアプローチをするのに対して、先進国でのケーススタディーとして、阪神・淡路大震災、東日本大震災等における「大規模災害時の緊急事態における効果的な防災計画・防災情報共有化」に着目し、効果的な防災情報システム・ネットワークの構築方法や災害時の防災関係機関、住民、NPO、企業等の各機関の効率的な連携方法について、グループワーク形式で学習・討議した。

文理双方の学生が異なるアプローチによりグループワークを行うことで、多文化共生社会の形成に求められる幅広い知識を身につけることができた。一方で、複合的な課題に対して、双方向からアプローチする有効性と同時にその困難さを学ぶことができたことは大きな成果である。

5. 優秀な学生の獲得・学修研究環境

（１）入学する大学院生に対する理念の共有

定例事業である大学院入学式後のプログラム説明会やプログラムガイダンスに加え、理工学研究科への進学を検討している学部4年次生が受験する語学試験での学生募集のアナウンスを実施した。しかし、優秀な学生の獲得という大きな成果には結びついていないのが実情である。GRMプログラムの履修生として、博士前期課程への進学者は父母等の理解なくしてありえない状況から、より広範なGRMプログラムの周知ならびに履修生獲得を目指し、今後は履修生の家族に向けてのチラシ送付などの広報活動等を検討している。

（２）国内リクルーティング

主にウェブサイトを通じたマルチメディア広報、プログラム履修生の研究活動を基にする情報発信、プログラム・オフィサーやキャリアコーディネーターによる対話型の情報発信により、GRMを全世界に向けて幅広くアピールした。SNSはプログラム履修生と教員のコミュニケーションツールとしてスタートし、彼等のネットワークの拡張とともにグローバルなコミュニティとして成り立っている。全プログラム履修生に占める他大学出身者は約 42%に上り、平成 29 年度末（平成 30 年度PE、QE履修生）の選抜者数は日本人学生で 4 名、留学生で 5 名であり、これらの広報活動は機能しているこ

とがうかがえる。本学の学部からの学内進学者の確保は、依然として解決すべき課題であり、引き続き改善を図りたい。

公開型の授業においては、大学院への進学を検討している学部生が聴講を申し出るなど、将来の学生確保につながる成果が現れている。また、GRMの正課外事業のキャリア形成支援セミナー、学生成果発表会を他大学の学生にも公開し、学内外の国際交流系学生団体等へのパンフレットをはじめとする広報物の配付等、積極的にGRMの理念の広報に努めている。

（３）海外からの優秀な学生との共修

平成 28 年度に、プログラム担当教員が持つ研究ネットワークを活用し、また現地実習等に参加するプログラム担当教員や履修生が、フィリピン大学（フィリピン）、リュブリャナ大学（スロベニア）、ハマド・ビン・ハリファ大学（カタール）、イブン・ハルドゥーン大学（トルコ）に対して留学生獲得に向けた広報活動を行ったことを契機に平成 30 年度末には新たにフィリピン、オランダ、ケニア出身の履修生を獲得した。また、これらの大学からGRMの広報イベントのゲストスピーカーとして招聘した。リュブリャナ大学においては、前述のとおり「Bled Strategic Forum」へ昨年度に続き参加した。フィリピン大学においては、前年度に続き平成 30 年度も年に 2 回、10 名を超える大学院生及び教員が往来を重ね、GRMが持続可能な社会をテーマに日本人学生とともに議論する場として発展するなど、日本人学生と海外の優秀な学生との共修環境の構築と定着は、順調に進捗していると考えている。本年度は広島大学との合同事業として「オンサイト研修」を島根県とインドにて 2 度実施し、テキサス工科大学やインド工科大学から多くの学生が参加した。

（４）海外インターンシップ

海外インターンシップは 5 件の実績を得たが、平成 30 年度は半年以上のインターンシップの実績がなく、3 ヶ月が最長となった。引き続き企業等への訪問を重ねることで長期インターンシップの派遣先の開拓が必要な状況に変わりはない。GRMでは身につけた研究力を実践する場として、「GRMフィールドリサーチ」を設置している。この授業科目は、現地での研究活動により高評価を得た学生が、次のステップとしてプロジェクト型の事業に長期インターンシップとして参画できることを企図したものである。この教育課程の体系が効を奏することを期待している。

6. 優秀な学生獲得のための広報活動

ホームページの運営や年次報告書の記事作成・編集業務、プログラム広報物の企画・製作、成果発表会運営補助等の業務を担当し、GRMの社会的認知度を高める成果を上げた。英語版の広報資料の作成も同様に注力することで、海外への広報にも貢献した。ホームページの運営では、情報発信の即時性を重視し、GRM履修生による活動状況や活動成果のアップロードをサポートするなど、学生のキャリア形成を間接的に支援した。さらに、GRMによる教育活動を動画メディアにより編集・保存し、GRM履修生等への貸し出す取り組みも行っている。GRM履修生の活動記録のデータ化、博士人材に関心のある企業情報の蓄積にも引き続き取り組み、大学院改革、博士のキャリア支援に資する基礎データの整理を継続的に行った。GRM履修生に定期的に活動内容をまとめる（活動報告書の作成）ことを指示することで、学生が博士人材データベース（J

GRAD) への情報入力を円滑に進めることができている。

研究支援員（アソシエイト・プログラム・アドミニストレーター）は、GRMの理念と繋がりが深いニュース、配信動画等を題材として、留学生・日本人学生がカジュアルな形で情報・意見交換を行う場を構築した。GRM履修生以外の学生も参加可能とすることで、GRMの新たな広報戦略として機能した。

（１）GRMジャーナルの発行

GRMの活動成果として、英文ジャーナル「グローバル・リソース・マネジメント」の第5号を発行した。本年度から媒体をデジタル化しホームページからダウンロードできる仕様に切り替えたことで、情報発信範囲の拡大とコスト削減の両方を実現し、次年度以降の継続発行に備えることができた。

（２）Webコンテンツの充実

平成30年度は、ホームページ上に設置した学生活動発信のコンテンツの運用、活動実績の更新、視認性のさらなる向上に注力し、41本のコンテンツをアップすることができた。

（３）事業告示ポスター、パンフレット、リーフレット

プログラムのポスター・パンフレットを全研究科を対象とする内容として一新し、学内外に周知することで、支援期間終了後を見据えたGRMの広報および学生のリクルートを実施した。

（４）年次報告書

平成29年度の年次報告書を刊行し、学内外の関係者、高等教育機関や事業協力機関をターゲットに郵送した。Web上でも公開し、GRMプログラム構築のプロセスや運営体制、博士人材の育成状況や成果等を可視化することで、リーディング大学院プログラムおよびGRMの有為性を全世界へ広く発信できた。

（５）高度情報発信システム

海外衛星放送設備は、学生が渡航先の最新情報を収集するために機能しており、特に昨今の国際情勢の悪化により、本設備はGRMにとって必要不可欠なものとなっている。またGRM公式ホームページは、成果等の活動状況を学生が自らアップロードできる機能を持ち、時差なく、よりタイムリーに世界に向けての情報を発信している。

7. 平成30年度の主な活動実績

（１）GRMに関する活動一覧（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

日付	内容
H30.4.1	平成30年度春学期活動開始（履修生35名：M2:3名、D1:4名、D2:8名、D3:9名、D4:11名）
H30.4.3	大学院新入生向けGRMプログラム説明会
H30.4.2～4.11	春学期履修候補生公募期間

H30.4.25	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（４月） テーマ「The World In 2050: The Real Future Of the Earth」
H30.4.27	春学期履修候補生決定（３名：M1:3名）
H30.5.19	GRM オンサイト実習Ⅰ：学外実習（琵琶湖博物館、湖西浄化センター）
H30.5.21～5.25	春学期実施（秋学期受入）履修生選抜試験（PE）出願受付期間
H30.5.24	キャリア形成支援セミナー（ショバナ・ラダクリシュナ女史による講演）
H30.5.31	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（５月） テーマ「Al-Nakba」
H30.6.3	春学期実施（秋学期受入）履修生選抜試験（PE）
H30.6.8	春学期実施（秋学期受入）履修生選抜試験（PE）合格者発表 （新規３名：M2:3名）
H30.6.12	GRM・フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）合同ワークショップ
H30.6.25	オンサイト実習Ⅰ：学外実習（蹴上水力発電所）
H30.6.28	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（６月） テーマ「Islamophobia Inc」
H30.7.17	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（７月） テーマ「Child Soldiers Reloaded: The Privatization of War」
H30.7.17	GRM キャリア形成支援セミナー（Zoubeir Lafhaj 教授による講演）
H30.7.22	秋学期奨励生追加決定（２名：M2:1名、D1:1名）
H30.8.2	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（８月） テーマ「Empire of Dust」
H30.8.8	学生成果発表会（平成 30 年 9 月修了予定生 2 名）
H30.8.20～8.27	広島大学合同事業：オンサイトトレーニング（島根県・赤名）
H30.9.6～9.12	国際会議の組織と実践Ⅰ：Bled Strategic Forum（スロベニア）
H30.9.18～9.27	秋学期履修候補生公募期間
H30.9.23	プログラム修了 2 名（理工学研究科博士後期課程修了 1 名、グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程修了 1 名）
H30.9.27	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（９月） テーマ「Oliver Stone's Untold History of the United States」
H30.10.5	秋学期履修候補生決定（２名：M1:2名）
H30.10.24	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（10 月） テーマ「Samsara」
H30.11.15	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（11 月） テーマ「Inside Facebook: Secrets of the Social Network」
H30.12.4	博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2018（東京工業大学）
H30.12.6	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（12 月） テーマ「The Deceptive Promise of Free Trade」
H30.12.7	G R M・フィリピン財務省、フィリピン税務大学校 合同ワークショップ
H30.12.8	国際会議の組織と実践Ⅱ：ISET / ISS 2018 – KYOTO
H30.1.10	年次報告書発行（平成 28 年度）
H30.1.10	G R Mドキュメンタリーフィルムイベント（1 月）

	テーマ「After Brexit: The Battle for Europe」
	【審議事項】 1. 同志社大学クロスアポイントメント制度に関する規程第2条第1号適用者（出向（送出））の件
H31.1.24	成果発表会（平成31年3月修了予定生3名）
H31.1.26	共生論・資源管理論シンポジウム（招聘者による基調講演）
H31.1.30	成果発表会（平成31年3月修了予定生1名）
H31.2.4～2.8	秋学期実施（平成31年度春学期受入）履修生選抜試験（PE/QE）出願期間
H31.2.14	GRMドキュメンタリーフィルムイベント（2月） テーマ「The Wanted 18」
H31.2.24	秋学期実施（平成31年度春学期受入）履修生選抜試験（PE）
H31.2.27	秋学期実施（平成31年度春学期受入）履修生選抜試験（PE/QE）合格者発表 （新規3名：M2:2名, D1:2名）
H31.3.3～3.6	多文化共生コンソーシアム：フィリピン真空学会
H31.3.9～3.16	広島大学合同事業：GRM オンサイト実習Ⅱ 学外実習（インド） テーマ「Nature Conservation and Forest Dwellers' Livelihood」
H31.3.22	GRMドキュメンタリーフィルムイベント（3月） テーマ「From the Indian Subcontinent to the Middle East: Partition, Borders, Conflicts and Legacies of Empire」
H31.3.26	GRM Journal Vol.5 発行
H31.3.21, 3.22	プログラム修了4名（理工学研究科博士後期課程修了1名、商業研究科博士後期課程修了1名、グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程修了2名）

（2）高等研究教育機構委員会の開催状況

開催日	GRMに関する主な報告・審議事項
第1回 H30.4.26	【報告事項】 1. 2018年度「グローバル・リソース・マネジメント」履修生数について 2. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生特別奨励金規程廃止及び同外国人留学生特別奨励金規程制定について 【審議事項】 1. 2018年度GRMプログラム履修生の募集計画の見直しの件
第2回 H30.6.14	【報告事項】 1. 2018（平成30）年度 卓越大学院プログラム 申請状況について 2. 2018年度春学期末 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」修了予定者数について 3. 2018年度春学期実施 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生選抜試験の結果について 4. 「博士課程教育リーディングプログラム」平成24年度採択プログラムの事後評価の実施について 【審議事項】 1. GRMの2019年度以降の運営の件
第3回 H30.11.22	【報告事項】 1. グローバル・リソース・マネジメントの自己点検・評価と事後評価の対応について 2. グローバル・リソース・マネジメントの全学開放について

	3. 卓越大学院計画推進・卓越大学院プログラム構築部会からの中間報告について
第4回 H30.12.13	【懇談事項】 1. 高等研究教育機構の廃止と新組織の設置について
第5回 H30.1.10	【報告事項】 1. 高等研究教育機構の廃止と新組織の設置について 【審議事項】 1. 同志社大学高等研究教育機構規程廃止の件 2. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程一部改正の件
第6回 H31.1.24	【報告事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程の改正について 2. 研究科・専攻における「GRM」の取り扱いについて 【審議事項】 1. 文部科学省「卓越大学院プログラム」申請計画プログラムに従事する特定任用研究員（A）の任用手続きの件
第7回 H31.1.31	【報告事項】 1. 文部科学省「卓越大学院プログラム」申請計画プログラムに従事する特定任用研究員（A）の任用手続きに係る推薦について 2. 内部質保証に係る自己点検・評価書について 【審議事項】 1. 同志社大学博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程一部追加改正の件 2. 同志社大学博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」の運営に係る内規等の廃止、制定及び一部改正の件 3. 高等研究教育機構における人件手続きに係る申合せの廃止の件 4. 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に従事する特定任用研究員の申合せ廃止の件 5. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に従事する教員・研究員の任用手続きの件
第8回 H31.2.21	【報告事項】 1. 2018年度秋学期実施 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生選抜試験（PE、QE）の出願者数について 2. 2018年度秋学期末 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「GRM」）修了者予定者数について 【審議事項】 1. 任期付教員の採用に係る業績審査委員会設置 2. 特定任用研究員の任用に係る業績審査委員会設置 3. 寄付教育研究プロジェクト開設の件
第9回 H31.3.7	【報告事項】 1. 2018年度秋学期実施 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生選抜試験（PE、QE）の結果について 【審議事項】 1. 任期付教員任用の件 2. 特定任用研究員任用の件 3. 大学院担当委嘱の件 4. 嘱託講師委嘱の件

第10回 H31.3.14	【審議事項】 1. 特定任用研究員の任用に係る業績審査委員会設置及び同委員会審査委員の委嘱の件
------------------	---

(3)「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会の開催状況

開催日	主な報告・審議事項
第1回 H30.4.19	【報告事項】 1. 2018年度GRM履修生について 2. GRM履修生の学籍異動（前期課程修了、後期課程進学を除く）について 3. 退学者の研究計画について 4. GRM履修生の外部資金等獲得状況について 5. 2017年度補助金予算執行額について 6. 平成30（2018）年度PO現地訪問について 7. 事後評価について 8. 非GRM学生のGRM科目登録状況について 9. 2017年度多文化共生教育コンソーシアム形成に係る活動報告について 10. 2017年度学生提案型産学官民多文化共生プロジェクトの実施報告について 【審議事項】 1. 2018年度履修候補生選考の件 2. 2018年度活動計画および平成30年度研究拠点形成費等補助金（博士課程教育リーディングプログラム）交付申請書（平成30年度プログラム担当者の変更等を含む）の件 3. GRMフィールドワーク・GRMフィールドリサーチ、GRMインターンシップ実習の経費支援の件 4. 留学または長期インターンシップにかかる経費支援の件 5. 学生提案型産学官民多文化共生プロジェクト募集要項、実施要領の件 6. 2018年度開講科目の担当者等の変更の件 7. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生特別奨励金規程廃止の件 8. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程制定の件 9. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程の運用に関する申合せ制定の件
第2回 H30.6.7	【報告事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「GRM」）選抜試験出願状況について 2. GRM科目（春学期）登録者数および登録者0（ゼロ）科目について 3. 客員教員の研究室等について 【審議事項】 1. 2018年度春学期実施GRM履修生選抜試験合否判定の件 2. 2018年度春学期末GRMプログラム修了審査対象者の件 3. 補助金期間終了後のGRMのあり方の件 4. 広島大学「大学の世界展開力強化事業」との合同事業実施の件
第3回 H30.8.9	【報告事項】 1. 2018年度春学期末プログラム修了審査対象者の成果発表会について 2. 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2018について 3. 2018年度学生提案型産学官民多文化共生プロジェクト募集結果について 4. 学外実習について 5. 事後評価について 【審議事項】

	1. 2018年度春学期末GRMプログラム修了審査の件 2. 2018年度自己点検・評価の件 3. 2019年度以降のGRMにおける事業内容の件
第4回 H30.10.4	【報告事項】 1. 2018年度GRM履修生について 2. GRM履修生の学籍異動（前期課程修了、後期課程進学を除く）について 3. 事後評価現地調査について 【審議事項】 1. 2018年度履修候補生選考の件 2. 2018年度個人型学外実習と学生提案型産学官民多文化共生プロジェクトの二次募集の件 3. 2019年度以降のカリキュラムと実施体制の件
第5回 H30.11.22	【報告事項】 1. 2018年度GRM科目（秋学期）登録者数および登録者0（ゼロ）科目（履修中止後）について 2. 個人型学外実習の二次募集結果について 3. 学生提案型産学官民多文化共生プロジェクト二次募集結果について 4. 外部資金獲得の報告について 5. 理工学部大学院入学予定者語学試験時のGRM説明会実施について 6. 2018年度自己点検・評価結果について 7. 事後評価（11月30日）事前質問事項とプレゼン資料について 【審議事項】 1. 2019年度以降のプログラムポリシーと設置科目および運営の件 2. クロスアポイントメント制度による出向申請の件
第6回 H30.12.20	【報告事項】 1. 事後評価（11月30日）ヒアリングの実施報告について 2. 高等研究教育機構の組織改編について 【審議事項】 1. 2018年度秋学期末プログラム修了審査対象者の件 2. 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程改正の件 3. 2019年度のGRMの運営体制の件
第7回 H30.1.10	【報告事項】 1. 事後評価結果案の事前開示について 2. 2018年度秋学期末プログラム修了審査成果報告の件 【審議事項】 1. 2019年度以降のGRMの運営にかかる教員・研究員の任用基本方針及び候補者選考手続きの件
第8回 H30.1.31	【報告事項】 1. 外部資金獲得の報告について 2. 内部質保証に係る自己点検・評価書の提出について 【審議事項】 1. 同志社大学大学院「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会申合せ廃止の件 2. 同志社大学大学院「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会内規制定の件 3. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国留学補助に関する申合せ一部改正の件 4. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」メンターに関する申合せ一部改正の件

	5. 2018年度秋学期末GRMプログラム修了審査の件 6. GRMに従事する教員・研究員の任用手続き（人件方針）の件
第9回 （臨時） H31.2.19	【報告事項】 1. 2018年度秋学期選抜試験の受験者数について 2. GRM修了生の現況調査について 【審議事項】 1. 寄付教育研究プロジェクト（寄付講座）開設の件 2. 2019年度のGRM任用候補者の件
第10回 H31.2.25	【審議事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「GRM」）選抜試験PE、QE合否判定の件 2. 2019年度GRM外国人留学生特別奨励生の推薦の件 3. 2019年度GRM開講科目の件 4. 2019年度GRM開講科目への合併依頼の件 5. 2019年度プログラム運営費編成方針の件 6. プログラム・コーディネーターおよび実施体制の件

（４）「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム運営委員会の開催状況

開催日	主な報告・審議事項
第1回 H30.4.16	【報告事項】 1. 2018年度GRM履修生について 2. GRM履修生の学籍異動（前期課程修了、後期課程進学を除く）について 3. 退学者の研究計画について 4. GRM履修生の外部資金等獲得状況について 5. 2017年度補助金予算執行額について 6. 平成30（2018）年度PO現地訪問について 7. 事後評価について 8. 非GRM学生のGRM科目登録状況について 9. 2017年度多文化共生教育コンソーシアム形成に係る活動報告について 10. 2017年度学生提案型産学官民多文化共生プロジェクトの実施報告について 【審議事項】 1. 2018年度履修候補生選考の件 2. 2018年度活動計画および平成30年度研究拠点形成費等補助金（博士課程教育リーディングプログラム）交付申請書（平成30年度プログラム担当者の変更等を含む）の件 3. GRMフィールドワーク・GRMフィールドリサーチ、GRMインターンシップ実習の経費支援の件 4. 留学または長期インターンシップにかかる経費支援の件 5. 学生提案型産学官民多文化共生プロジェクト募集要項、実施要領の件 6. 2018年度開講科目の担当者等の変更の件 7. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生特別奨励金規程廃止の件 8. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程制定の件 9. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程の運用に関する申合せ制定の件 【協議事項】 1. GRM年間予定について

	2. 「GRMジャーナル」(第5号)刊行に向けて 3. 2019年度～2022年度のGRMの運営について
第2回 H30.6.4	【報告事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」(以下「GRM」)選抜試験出願状況について 2. GRM科目(春学期)登録者数および登録者0(ゼロ)科目について 3. 客員教員の研究室等について 4. フィールドリサーチⅡ期間の変更について 【審議事項】 1. 2018年度春学期実施GRM履修生選抜試験合否判定の件 2. 2018年度春学期末GRMプログラム修了審査対象者の件 3. 補助金期間終了後のGRMのあり方の件 4. 広島大学「大学の世界展開力強化事業」との合同事業実施の件
第3回 H30.7.25	【報告事項】 1. 2018年度春学期末プログラム修了審査対象者の成果発表会について 2. 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2018について 3. GRM国際会議の組織と実践Ⅰ,Ⅱ合同実施について 4. 2018年度学生提案型産学官民多文化共生プロジェクト募集結果について 5. 2018年度GRMオンサイト・トレーニング・コース(広島大学合同、島根県雲南市)について 6. フィールドリサーチ等の期間の変更について 7. 事後評価現地訪問及びヒアリングについて 【審議事項】 1. 2018年度春学期末GRMプログラム修了審査対象者の件 2. 2018年度フィールドリサーチⅠ申請の件 3. 2018年度自己点検・評価の件 【協議事項】 1. カリキュラム変更と運営体制について
第4回 H30.8.8	【報告事項】 1. 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2018参加者について 2. 2018年度自己点検・評価にかかるアンケート実施について 【審議事項】 1. 2018年度春学期末プログラム修了審査の件 2. 2018年度秋学期インターンシップⅡ申請の件 3. 2019年度以降のGRMにおける事業内容の件
第5回 H30.10.3	【報告事項】 1. 2018年度GRM履修生について 2. GRM履修生の学籍異動(前期課程修了、後期課程進学を除く)について 3. 事後評価現地調査について 4. インターンシップ期間の変更について 【審議事項】 1. 2018年度履修候補生選考の件 2. 2018年度予算補正の件 3. 2019年度以降のカリキュラムと実施体制の件 4. 2018年フィールドリサーチⅡ申請の件

第 6 回 H30.11.7	【報告事項】 1. 2018年度GRM科目（秋学期）登録者数および登録者0（ゼロ）科目（履修中止後）について 2. 理工学部大学院入学予定者語学試験時のGRM説明会実施について 3. 個人型学外実習の二次募集結果について 4. 外部資金獲得の報告について 5. 2019年度以降の奨励金説明会実施の件 6. インターンシップ期間の変更について 【審議事項】 1. 2019年度以降のプログラムポリシーと設置科目の件 2. 2019年度秋学期実施の事業計画の件 3. クロスアポイントメント制度による出向（送出）の件
第 7 回 H28.11.21	【報告事項】 1. 2018年度学生提案型産学官民多文化共生プロジェクトの二次募集の結果について 2. 事後評価（11月30日）事前質問事項とプレゼン資料について 3. 2018年度自己点検・評価報告書について 【審議事項】 1. 2019年度開講科目及び運営体制の件 2. 2018年度秋学期実施の事業計画の件
第 8 回 H30.12.19	【報告事項】 1. 事後評価（11月30日）ヒアリングの実施報告について 2. インターンシップ期間の変更について 3. 高等研究教育機構の組織改編について 【審議事項】 1. 2018年度秋学期末プログラム修了審査対象者の件 2. 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程改正の件 3. 2019年度のGRMの運営体制の件 4. 2018年度秋学期実施の事業計画の件 5. 広島大学「たおやかで平和な共生社会創出プログラム」との合同事業実施の件
第 9 回 H31.1.9	【報告事項】 1. 事後評価結果案の事前開示について 2. 2018年度秋学期末プログラム修了審査成果報告の件 【審議事項】 1. 2019年度以降のGRMの運営にかかる人件計画（機能要件整理）及び候補者選考委員会設置の件
第 10 回 H31.1.30	【報告事項】 1. 外部資金獲得の報告について 2. 内部質保証に係る自己点検・評価書の提出について 3. インターンシップⅠ期間の変更について 【審議事項】 1. 同志社大学大学院「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会申合せ廃止の件 2. 同志社大学大学院「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会内規制定の件 3. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国留学補助に関する申合せ一部改正の件 4. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメ

	ント」メンターに関する申合せ一部改正の件 5. 2018年度インターンシップI申請の件
第11回 H31.2.13	【報告事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」選抜試験出願状況について 【審議事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」選抜試験出願者特別対応の件 2. 寄付教育研究プロジェクト（寄付講座）開設の件
第12回 H31.2.25	【報告事項】 1. GRM最終活動報告会の開催について 【審議事項】 1. 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「GRM」）選抜試験PE、QE合否判定の件 2. 2019年度GRM外国人留学生特別奨励生の推薦の件 3. 2019年度GRM開講科目の件 4. 2019年度GRM開講科目への合併依頼の件 5. 2019年度プログラム運営費編成方針の件 6. プログラム・コーディネーターおよび実施体制の件

（５）GRMキャリア形成支援セミナー開催状況

日時	場所	講師
2018年5月24日(木) 16:30～18:00	今出川校地 志高館 京田辺校地 訪知館	Ms. Shobhana Radhakrishna (ショバナ・ラダクリシュナ女史)
2018年7月17日(火) 10:45～12:15	今出川校地 志高館 京田辺校地 訪知館	Prof. Zoubeir Lafhaj 氏(エコール・セントラル・リール教授)

（６）GRMフィールドワーク実施状況（再掲）

テーマ	国	期間	実習時間
JICAの理数科教育支援プログラムの研修を受けている教員や学校ベースで支援プログラムを実践している教員達が、それぞれ日本のメソッドに基づいた支援をどのように受け入れてきたのかの調査	ザンビア	平成30年8月16日～ 平成30年9月11日	100時間： 平均5h/日
勢力の拡大が懸念されている右派ポピュリズムが、現地で生活している人々にどのような影響を及ぼしているのかの調査	ドイツ	平成30年8月23日～ 平成30年9月6日	32時間： 平均2h/日
ガスシートモニタの開発	日本	平成30年4月2日～ 平成30年9月30日	907時間： 平均7h/日
Social Media use among young urban Syrian refugees	レバノン	平成30年4月24日～ 平成30年9月25日	1,248時間： 平均8h/日
An anthropologic approach to the issue of ethnicity in Iran	スペイン・ドイツ	平成30年7月18日～ 平成30年7月31日	83時間： 平均6h/日

Showcase and strengthen the input of several papers extracted from my PhD thesis and make them ready for publications	トルコ	平成 30 年 4 月 25 日～ 平成 30 年 5 月 25 日	270 時間： 平均 6h/日
中国における介護保険サービスの供給構造に関する調査	中国	平成 30 年 10 月 30 日～ 平成 30 年 11 月 15 日	42 時間： 平均 3h/日
Interview several Iranian scholars and writers living in Europe, and to analyze these interviews	フランス	平成 30 年 7 月 31 日～ 平成 30 年 9 月 15 日	174 時間： 平均 4h/日

(7) GRMインターンシップ実施状況 (再掲)

テーマ	国	場所	期間	業務時間
Internship at Wi-Elektrik company for research about Wireless Power Transfer System	トルコ	Yildiz Teknik Universitesi, Wi-Elektrik company	平成 30 年 9 月 1 日～ 平成 30 年 11 月 2 日	330 時間： 平均 6h/日
雷・サージ・電磁環境に関する研究実習	日本	電力中央研究	平成 30 年 9 月 11 日～ 平成 30 年 9 月 21 日	56 時間： 平均 7h/日
Have a closer look on its domestic development, international operation, etc	中国	Country Garden	平成 31 年 1 月 30 日～ 平成 31 年 3 月 4 日	135 時間： 平均 9h/日
不動産開発会社の高層住宅、商業施設、オフィスビル、その他関連分野の開発現状および先端技術を見学する	中国	Country Garden	平成 31 年 2 月 17 日～ 平成 31 年 3 月 4 日	90 時間： 平均 9h/日
To Learn and gain experience in current developments trends in ion source technology. To Develop an understanding of industry design and work standards. To further knowledge in advance plasma/ion source technology.	日本	日新イオン機器株式会社	平成 30 年 4 月 2 日～ 平成 30 年 7 月 11 日	258 時間： 平均 8h/日
「イスラーム主義」に関する実践的研究：研究広報、情報発信（研究成果発信）を含む「研究マネジメント」の体得およびアルジャジーラでの就労経験を通じた国際的なキャリア形成	カタール	アルジャジーラ研究センター	平成 30 年 9 月 30 日～ 平成 30 年 12 月 13 日	430 時間： 平均 5h/日
Effect of the RF impedance matching network on the H- beam and on the electron density and temperature in the plasma	ニュージーランド	Buckley Systems (D-Pace)	平成 31 年 1 月 18 日～ 平成 31 年 2 月 10 日	144 時間： 平均 7h/日

資 料

1	プログラム担当教員一覧	29
2	学生	
2-1	プログラム履修生数	31
2-2	プログラム履修生一覧	32
2-3	プログラム履修候補生一覧	34
2-4	プログラム履修生特別奨励金受給者	35
2-5	プログラム修了生	36
3	開講科目	
3-1	開講科目	37
3-2	授業時間割表	40
4	オンサイト実習	
4-1	京都市、滋賀県琵琶湖(京都の水供給と琵琶湖水質)	44
4-2	徳島県神山町(地方における人口減少の現状、社会情報学・情報技術)	46
5	国際会議の組織と実践	
5-1	文系(Bled Strategic Forum/Young Bled Strategic Forum 2018)	48
5-2	理系(ISET / ISS 2018)	50
6	サブ・メジャー科目	
6-1	共生論／資源管理論	52
6-2	グローバル・スタディーズ基礎理論	56
6-3	インフラストラクチャー基礎実験	59
7	コモン演習(防災と情報発信)	62
8	成果報告会	63
9	キャリア形成支援セミナー	66
10	GRM Journal Vol.5	67
11	その他の交流・活動など	
11-1	フィリピン大学ロスバニョス校(UPLB)合同ワークショップ	68
11-2	博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2018	70
11-3	オンサイトトレーニング: 広島大学合同事業(島根、インド)	72
11-4	多文化共生コンソーシアム(フィリピン真空工学会)	76
12	学生の活動報告書	78
13	インターンシップ	82
14	広報活動	85
15	GRMコモンルーム設置機器等一覧	80
16	要項	89
17	規程等	
17-1	同志社大学高等研究教育院規程	113
17-2	同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム 「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程	115
17-3	同志社大学大学院「グローバル・リソース・マネジメント」 プログラム委員会内規	118
17-4	同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム 「グローバル・リソース・マネジメント」メンターに関する申合せ	119
17-5	同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム 「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程	121

18 シラバス(抜粋)	122
-------------------	-----

プログラム担当教員一覧

所属	氏名	専門分野	役割担当
プログラム責任者			
高等研究教育機構・副機構長 理工学研究科電気電子工学専攻・教授	和田 元	薄膜・表面界面物性、 核融合学、プラズマ科学	事業統括及び文理融合によるプログラムの実施責任、 企画開発 国際連携 (ASEAN 諸国) 担当 原子力発電技術、核融合発電、先進発電科学担当
プログラム・コーディネーター			
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻・教授	内藤 正典	イスラームと西欧の共生、 中東地域研究	プログラムの統括 多文化共生論、イスラームとの共生担当
アシスタント・プログラム・コーディネーター (人社系統括・文理融合プログラム担当)			
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻・教授	小山田 英治	国際関係論	ガバナンス論・国際開発学担当
アシスタント・プログラム・コーディネーター (理工系統括・文理融合プログラム担当)			
理工学研究科 数理環境科学専攻 研究科長・教授	林田 明	地質学、 古地磁気学・岩石磁気学	国際連携 (東アジア) 担当 地球環境科学、自然資源マネジメント科学、インフラ工 学担当
基幹研究科 (グローバル・スタディーズ研究科)			
グローバル・スタディーズ専攻	中西 久枝	国際関係論、国際協力論	国際連携 (中東・中央アジア) 担当 紛争抑止と平和構築担当
	岡野 八代	ジェンダー、新領域法学、 基礎法学	国際機関・国際 NGO との連携、海外とのインターンシ ップ担当 共生とジェンダー、正義論担当
	巖 善平	経済政策	中国経済の展望とグローバル化担当
	峯 陽一	経済政策 (含経済事情)	グローバル・リーダー養成担当 人間の安全保障担当
	Anne GONON	政治社会学、 公共性の社会学	共生のための地球市民社会論担当
基幹研究科 (理工学研究科)			
情報工学専攻・教授	橋本 雅文	ロボティクス・メカトロニクス、 センシング情報学	産学連携教育部門統括 インフラセンシング科学担当
電気電子工学専攻・教授	長岡 直人	電力工学、電気機器工学	理系広報担当 計算機科学、数値解析学、電力インフラ科学・環境学 担当
	辻 幹男	電子デバイス、電子機器、 電磁波工学	理工学分野の戦略的研究開発推進学担当 超高周波科学・工学、電磁波環境学担当
	藤原 耕二	電力工学、電気機器工学	先進的電力変換学、複合電気機器学、社会インフラ用 電気機器学担当
	笹岡 秀一	通信・ネットワーク工学	通信インフラ科学、通信方式学、通信セキュリティ科学 担当
	吉門 進三	電子・電気材料工学	電気電子材料科学、希少資源管理学、高効率発電・ 蓄電工学担当
	加藤 利次	電力工学、電気機器工学	電気回路学、高効率電気制御学、高信頼性インフラ用 制御システム学担当
	松川 真美	計測工学、応用物理学一般	国際連携 (欧州) 担当 医用電子技術インフラ、超音波工学担当
機械工学専攻・教授	千田 二郎	噴霧燃焼工学、 エネルギーデザイン	環境エネルギー科学、分散型発電システム、エネルギ ーインフラコスト担当
応用化学専攻・教授	稲葉 稔	電気化学、無機材料・物性	先進的電気化学エネルギー変換学、資源材料科学、 材料マネジメント科学担当
数理環境科学専攻・教授	盛満 正嗣	物理化学、無機化学、 無機材料	電気化学表面プロセス、化学エネルギー工学、インフ ラ環境保全化学担当

プログラム・オフィサー			
高等研究教育機構・准教授	岩坂 将充	地域研究、現代トルコ政治、民主化・政軍関係	文理融合によるプログラムの企画開発・運営管理、キャリア形成担当、国際連携のロジスティクス担当
	岡本 岳之	海岸海洋工学、波力発電	文理融合によるプログラムの企画開発・運営管理、キャリア形成担当、国際連携のロジスティクス担当
キャリア・コーディネーター			
高等研究教育機構・助教	上田 光明	福祉社会学、犯罪社会学	キャリア開発、キャリア教育担当
連携研究科			
神学研究科 神学専攻・教授	小原 克博	宗教学、神学、哲学・倫理学	宗教間の共生と政治担当
文学研究科 哲学専攻・教授	田端 信廣	哲学、倫理学、思想史	共生のための思想史担当
	林 克樹	哲学、倫理学、思想史	共生のための倫理担当
社会学研究科 社会福祉学専攻・教授	堀橋 孝文	社会福祉学、社会政策	福祉国家と共生担当
	木原 活信	社会福祉学、ソーシャルワーク	共生のための福祉実践思想担当
社会学研究科 産業関係学専攻・教授	浦坂 純子	経済政策	共生のための労働政策担当
法学研究科 公法学専攻・教授	濱 真一郎	基礎法学、法哲学、法思想史	共生のための法思想担当
経済学研究科 経済政策専攻・教授	八木 匡	財政学・金融論、公共投資理論	共生のための公共経済学担当
商学研究科 商学専攻・教授	上田 慧	経済政策、経営学、多国籍企業論	多国籍企業と地球共生社会担当
総合政策科学研究科 総合政策科学専攻・教授	風間 規男	政治学	共生のための政策ネットワーク担当
	川浦 昭彦	経済政策	共生のための経済政策と民主化担当
	月村 太郎	国際関係論	国際政治と多文化共生担当
ビジネス研究科 ビジネス専攻・教授	浜 矩子	国際経済のマクロ分析	産学連携・広報担当 国際経済のマクロ分析担当
外部連携機関			
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・副所長、教授	谷口 真人	水文学・地球環境学、理学博士	持続可能な社会へ向けた地球環境論
株式会社三菱総合研究所 科学・安全事業本部 兼 海外事業推進センター 主席研究員	宇佐美 暁	外交・安全保障、現代アジア・中国	国際産学連携担当
株式会社堀場製作所・上席顧問	石田 耕三	熱力学、噴霧燃焼工学、半導体工学	産学連携に基づく実務教育担当 計測化学、環境保全学、電力消費量抑制担当
日新電機株式会社 電力技術開発研究所・技師長／同志社大学大学院理工学研究科連携大学院・嘱託講師	桑田 稔	電気機器(変圧器、リアクトル) 工学博士	産学連携に基づく実務教育担当
奈良工業高等専門学校 電気工学科・助教	池田 陽紀	電気工学、電気機器工学	インフラストラクチャー基礎教育
アベリストウィス大学・教授	Mustapha Kamal Pasha	国際関係論、政治経済学	イスラーム研究、人間の安全保障教育担当

プログラム履修生数(2018年度プログラム在籍者)

研究科・専攻		前期課程		後期課程												合計
		M2		D1		D2		D3								
		2017 秋 入学	2017 春 入学	2018 秋 入学	2018 春 入学	2017 秋 入学	2017 春 入学	2016 秋 入学	2016 春 入学	2015 秋 入学	2015 春 入学	2014 秋 入学	2014 春 入学	2013 秋 入学	2013 春 入学	
基 幹 研 究 科	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻		1				5		2	2	4	1	1		2	18
	理工学研究科															14
	情報工学専攻				1											1
	電気電子工学専攻	3	2		1	1	1	1								9
	機械工学専攻								2	1						3
	応用化学専攻				1											1
	数理環境科学専攻															0
連 携 研 究 科	神学研究科 神学専攻										1					1
	文学研究科 哲学専攻															0
	社会学研究科															0
	社会福祉学専攻						1		1							2
	産業関係学専攻															0
	法学研究科 公法学専攻															0
	経済学研究科															0
	理論経済学専攻															0
	応用経済学専攻															0
	経済政策専攻															0
	商学研究科 商学専攻								1							1
総合政策科学研究科 総合政策科学専攻										2					2	
合計		3	3	0	3	1	7	1	6	3	7	1	1	0	2	38

プログラム履修生一覧(2018年度プログラム在籍者)

	課程	所属研究科・専攻	氏名	国籍	研究テーマ
1	後期	理工学研究科 電気電子工学専攻	島袋 祐次	日本	Development of a compact atom beam source for Mass Spectrometry at 2.45GHz
2	後期	理工学研究科 情報工学専攻	Mohammed Awad Hajjaj	パレスチナ	Impact of Cloud and Distributed System based Healthcare using Chronic Database
3	後期	理工学研究科 応用化学専攻	張 文煜	中国	Micro Motor
4	後期	神学研究科 神学専攻	安仲 佳代	日本	ユダヤ教とイスラームにおける法についての一考察－ヘブライ語聖書とクルアーンの労働法を中心に－
5	後期	社会学研究科 社会福祉学専攻	楊 慧敏	中国	中国農村部における長期護理保険の提案－「二重構造」に着目して－
6	後期	社会学研究科 社会福祉学専攻	遲 力榕	中国	地域に根ざしたボランティア活動促進における協働モデル構築－高齢者の参加に焦点をあてて－
7	後期	商学研究科 商学専攻	陳 燕双	中国	強い現場における現場管理者－その日本の特質－
8	後期	総合政策科学研究科 総合政策科学	滝本 香菜子	日本	グローバル化と幸福の経済学
9	後期	総合政策科学研究科 総合政策科学	趙 衡範	韓国	個人寄付の活性化政策に関する研究
10	後期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Deeb Elian Alashgar	パレスチナ	Wireless Power Transmission
11	後期	理工学研究科 電気電子工学専攻	張 帆	中国	接地電極近傍の土中放電を考慮したFDTDサージ解析
12	後期	理工学研究科 機械工学専攻	向山 智之	日本	直噴ガソリンエンジンにおける噴霧の壁面衝突挙動の解明およびモデリング
13	後期	理工学研究科 機械工学専攻	中川 正夫	日本	遊星歯車機構の完全非接触型テストベンチの開発とセントロッドを用いたメカニズム解明
14	後期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Arnold Rey Burgos Gines	フィリピン	プラズマを用いた機能性材料の創製
15	後期	理工学研究科 機械工学専攻	Chayadit Pumaneratkul	タイ	Supercritical CO2 flow for energy transport applications in the CO2-based Rankine cycle powered by solar energy
16	前期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Hernandez James Edward Li Aquino	フィリピン	Studies on characterization of electrides using negative ion resources
17	前期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Gilos Marlo Nicole Rosas	フィリピン	Development of magnetron sputtering device for zinc oxide thin films
18	前期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Fernandez Don Martin Pante	フィリピン	Automated thermal sensor
19	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Marwa Ahmad	レバノン	Refugee Studies - Women Empowerment
20	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	石郷岡 宏記	日本	イスラム主義思想・政治運動
21	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Khalili Mostafa	イラン	The Dynamics of Ethnic Boundary Making among Iranian Azerbaijanis
22	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	佐藤 裕太郎	日本	戦後南部アフリカにおける規範の変遷、融合、消滅
23	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	梅本 あすか	日本	民主主義への挑戦と脅威としての右派ポピュリズム
24	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	大橋 佑	日本	東南アジア諸国における災害文化の形成に関する実証研究

	課程	所属研究科・専攻	氏名	国籍	研究テーマ
25	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	陳 艶	中国	中国農村地域における少数民族の貧困問題について
26	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	小寺 愛惟	日本	エルサレム分割 ―聖地管轄権の現状変更の可能性―
27	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	鷺見 優	日本	Implementing Environmental Mentalities in the Phillipines though FIT
28	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Rehab Abu-hajiar	パレスチナ	Bioethics in cultural diversity: The principle of autonomy and its practice in Islamic culture
29	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Elham Hosnieh	イラン	An agent-based analysis on the spreading patterns of political extremism among future Iranian government
30	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Abdalrahman Mohamed Migdad	パレスチナ	Financing Gaza's Infrastructure: Financing Method's and Activation of frozen Capital
31	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Ekraj Sabur	タイ	Towards a Multicultural Myanmar: Exclusion of Rohingya from Citizenship Rights and Religious Nationalism in Myanmar
32	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	森山 拓也	日本	イスラーム社会の市民運動と国家、市場との関係
33	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	竹谷 まりえ	日本	マリ共和国における人口移動と貧困問題の関係性
34	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	中尾 なづな	日本	捕鯨問題の諸相 ―先住民生存捕鯨の地域研究から国際機関の関与まで―
35	後期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Miriam Caryl De Luna Carada	フィリピン	Assessing The Role of Eco-tourism in Disaster Risk Reduction, Reconstruction and Recovery in the Philippines
36	前期	理工学研究科 電気電子工学専攻	山田 逸平	日本	Development of the low energy ion source to investigate plasma-wall-interaction
37	前期	理工学研究科 電気電子工学専攻	山中 章文	日本	ウインドファーム雷撃時の過渡電流および接地特性解析
38	前期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	真崎 宏美	日本	アフリカの教育開発における教員教育に対する公私領域からのアプローチの分析と検証

プログラム履修候補生一覧

	課程	所属研究科・専攻	氏名	国籍
1	前期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	林田 花枝	日本
2	前期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	筒井 パーカー 絵美里	日本
3	前期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	家中 彬博	日本
4	前期	理工学研究科 機械工学専攻	Nyambu Nathaniel Mupe	ケニア
5	前期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ	Hamersma Eco	ケニア

2018年度

同志社大学大学院 博士課程教育リーディングプログラム グローバル・リソース・マネジメント（GRM）履修生 特別奨励金受給者

Preliminary Examination(PE)に合格した履修生には月額15万円、
Qualifying Examination(QE)に合格した履修生には月額20万円の特別奨励金を、一定の条件のもとに給付し、プログラムでの学修に専念できる環境を提供します。

給付期間は、PEに合格した学生で博士前期課程在学中の最大1年間、QEに合格した学生で博士後期課程在学中の最大3年間です。

島袋 祐次

Mohammed Awad Hajjaj

張 文煜

Deeb Elian Alashgar

張 帆

Arnold Rey Burgos Gines

Chayadit Pumaneratkul

向山 智之

Glynnis Mae Q Saquilayan

Dipak Gaire Sharma

土居 謙太

高木 阿久斗

Elham Hosnieh

Rehab Abu-hajjar

Miriam Caryl De Luna Carada

小寺 愛惟

山中 章文

真崎 宏美

安仲 佳代

柳 霄

陳 燕双

遅 力榕

滝本 香菜子

趙 衡範

佐藤 裕太郎

石郷岡 宏記

梅本 あすか

Marwa Ahmad

Khalili Mostafa

Abdalrahman Mohamed Migdad

Ekraj Sabur

大橋 佑

陳 艷

鷺見 優

山田 逸平

プログラム修了生一覧(2015年9月～2019年3月)

(※)2019年10月現在

	修了年度・学期	所属研究科・専攻	氏名	学位	指導教員	現職(※)
1	2015年度春学期	理工学研究科 数理環境科学専攻	張 天	博士	盛満 正嗣	海外本社民間企業 (研究職)
2	2016年度春学期	理工学研究科 機械工学専攻	Jorge Eduardo Lamas-de-Anda	博士	千田 二郎	国内本社民間企業 (研究職)
3	2016年度春学期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	乾 敏恵	博士	峯 陽一	国内本社民間企業 (総合職)
4	2016年度秋学期	社会学研究科 社会福祉学専攻	南 友二郎	博士	上野谷 加代子	私立大学教員(有期)
5	2016年度秋学期	理工学研究科 情報工学専攻	王 曉芸	博士	山本 誠一	海外大学研究員(有期)
6	2016年度秋学期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	西 直美	博士	内藤 正典	大学非常勤講師
7	2017年度春学期	理工学研究科 電気電子工学専攻	Glynnis Mae Quiñones Saquilayan	博士	和田 元	国内研究施設
8	2017年度秋学期	理工学研究科 電気電子工学専攻	土居 謙太	博士	和田 元	国内本社民間企業 (有期)
9	2017年度秋学期	理工学研究科 応用化学専攻	高木 阿久斗	博士	水谷 義	国内本社民間企業
10	2017年度秋学期	理工学研究科 情報工学専攻	Dipak Gaire Sharma	博士	下原 勝憲	国内本社民間企業
11	2017年度秋学期	商学研究科 商学専攻	柳 霄	博士	上田 慧	海外本社民間企業 (総合職)
12	2018年度春学期	理工学研究科 機械工学専攻	Chayadit Pumaneratkul	博士	山口 博司	国内本社民間企業
13	2018年度春学期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	Abdallahman Mohamed Migdad	博士	峯 陽一	海外大学研究員(有期)
14	2018年度秋学期	理工学研究科 機械工学専攻	中川 正夫	博士	廣垣 俊樹	国内研究施設
15	2018年度秋学期	商学研究科 商学専攻	陳 燕双	博士	鈴木 良始	私立大学研究員(有期)
16	2018年度秋学期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	陳 艶	博士	巖 善平	海外本社民間企業
17	2018年度秋学期	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	Rehab Abu-Hajjar	博士	内藤 正典	私立大学研究員

2018年度開講科目

	区分	配当 年次	科 目	クラス	科 目 名	単 位	担 当 者 (下線：主担当)	校地	集中 講義	期間	言語	合否 評価 科目	他研究 科生	備 考
G R Mサブ・メジャー科目（グローバル・スタディーズ科目群）	文系	M1 ～	35600201	000	G R Mグローバル社会研究の理論と方法	2	<u>峯 陽一</u> 中西 久枝 小山田 英治 SEIFUDEIN ADEM	今 (田)	—	秋	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は履修できない。
	文系	M1 ～	35600202	000	G R M開発とガバナンス	2	小山田 英治	今	○	秋	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600203	000	G R Mグローバル社会の課題	2	SEIFUDEIN ADEM	今	—	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600204	000	G R Mグローバル時代におけるシティズンシップ	2	岡野 八代	今	—	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600208	000	G R M社会研究方法論	2	SEIFUDEIN ADEM	田 (今)	—	春	英	—	○	グローバル・スタディーズ研究科生は履修できない。 他研究科・専攻生の履修可
	文系	M1 ～	35600209	000	G R Mグローバル・スタディーズ基礎理論	2	小山田 英治	田	○	秋	日英	—	○	グローバル・スタディーズ研究科生は履修できない。 他研究科・専攻生の履修可
	文系	M1 ～	35600401	001	G R M特殊講義A (世界の中のイスラーム)	2	MUSTAPHA KAMAL PASHA	今	○	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。 【講義日程】 7月に集中して行う。
	文系	M1 ～	35600401	003	G R M特殊講義A (プロジェクト・サイクル・マネジメント)	2	黒田 和秀	今	○	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600401	006	G R M特殊講義A (博士論文のための英語アカデミックライティング)	2	DANIEL ERIC MCKAY	今	—	秋	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600401	010	G R M特殊講義A (開発政策)	2	黒田 和秀	今	○	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600401	011	G R M特殊講義A (国連とグローバルガバナンス)	2	中西 久枝	今	—	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600401	012	G R M特殊講義A (イスラームとジェンダー)	2	中西 久枝	今	—	秋	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
G R Mサブ・メジャー科目（インフラストラクチャー科目群）	文系	M1 ～	35600401	013	G R M特殊講義A (地球環境問題)	2	<u>MCGREEVY STEVEN</u> <u>ROBERT</u> RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRIED 林 耕次 小林 舞	今	—	春	英	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	理系	M1 ～	35600301	000	GRM Introductory Science and Engineering	2	和田 元	今	—	春	英	—	○	理工学研究科生は履修できない。 他研究科・専攻生の履修可
	理系	M1 ～	35600302	000	GRM Introductory Infrastructure Engineering	2	岡本 岳之	今	—	秋	英	—	○	理工学研究科生は履修できない。 他研究科・専攻生の履修可
	理系	M1 ～	35600303	000	GRM Electric Circuit Theory	2	松川 真美	田	—	秋	英	—	—	理工学研究科生は研究科科目として履修。
	理系	M1 ～	35600304	000	GRM Energy Resource Management	2	馬場 吉弘	田	—	春	英	—	—	理工学研究科生は研究科科目として履修。
	理系	M1 ～	35600306	000	G R Mインフラストラクチャー基礎実験	2	<u>池田 陽紀</u> 長岡 直人	今	—	春	日	—	—	週 3 コマ。理工学研究科生は履修できない。

	区分	配当年次	科 目	クラス	科 目 名	単 位	担 当 者 (下線：主担当)	校地	集中 講義	期間	言語	合否 評価 科目	他研究 科生	備 考
G R M サブ・メー ジャー科目 (G R M 発展科目群)	文系	M1 ～	35600503	000	G R M 人間開発のフロンティア	2	峯 陽一	今	—	秋	英	—	—	隔年で開講 グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	共通	M1 ～	35600504	000	G R M アジア経済論	2	巖 善平	今	—	春	日	—	—	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科科目として履修。
	理系	M1 ～	35600601	000	GRM Advanced Infrastructure Engineering	2	長岡 直人	田	—	秋	英	—	—	理工学研究科生は研究科科目として履修。
	理系	M1 ～	35600603	000	GRM Earth and Planetary Environment Science	2	林田 明	今	○	秋	英	—	○	理工学研究科生は履修できない。 他研究科・専攻生の履修可
	理系	M1 ～	35600701	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 (電力工学)	2	馬場 吉弘	田	—	秋	英	—	—	理工学研究科生は履修できない。
	文系	M1 ～	35600702	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 2 (宗教間の共生と政治)	2	小原 克博	今	—	秋	日英	—	—	神学研究科生は履修できない。
	文系	M1 ～	35600703	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 3 (共生のための倫理)	2	林 克樹	今	—	春	日	—	—	文学研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600704	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 4 (共生のための労働政策)	2	浦坂 純子	今	—	秋	日	—	—	社会学研究科生は履修できない。
	文系	M1 ～	35600707	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 7 (文化政策論)	2	佐々木 雅幸	今	—	秋	日	—	—	経済学研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600708	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 8 (共生のための公共経済学)	2	八木 匡	今	—	秋	日英	—	—	
	文系	M1 ～	35600709	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 9 (基礎計量経済学)	2	八木 匡	今	—	春	日	—	—	経済学研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600711	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 1 (共生のための政策ネットワーク)	2	風間 規男	今	—	秋	日	—	—	総合政策科学研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600712	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 2 (共同的意思決定)	2	川浦 昭彦	今	—	秋	日	—	—	総合政策科学研究科生は研究科科目として履修。
	文系	M1 ～	35600714	000	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 4 (憲法を通して見るアメリカ)	2	阿川 尚之	今	—	春	日英	—	—	法学研究科生は研究科科目として履修。
	共通	M1 ～	35600715	001	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 5 (グローバル・キャリア・デザイン論)	2	上田 光明	田	—	秋	日	—	—	
	共通	M1 ～	35600715	002	グローバル・リソース・マネジメント特論 1 5 (グローバル・キャリア・デザイン論)	2	上田 光明	今	—	春	日	—	—	

	区分	配当 年次	科 目	クラス	科 目 名	単 位	担 当 者 (下線：主担当)	校地	集中 講義	期間	言語	合否 評価 科目	他研究 科生	備 考
G R M サブ・メ ー ジャー 科目 (G R M 発展科目群)	文 系	M1 ～	35600716	000	グローバル・リソース・マネジ メント特論 1 6 (社会保障研 究)	4	埋橋 孝文	今	—	通 年	日	—	—	通年。社会学研究科生は研究科科 目として履修。
	文 系	M1 ～	35600717	000	グローバル・リソース・マネジ メント特論 1 7 (共生のための 福祉実践思想)	4	木原 活信	今	—	春	日	—	—	週 2 コマ。社会学研究科生は研究 科科目として履修。
	文 系	M1 ～	35600721	000	G R M特論 2 1 (核兵器・原子力と人間社会)	2	岡野 八代	今	—	春	日	—	○	グローバル・スタディーズ研究科 生は研究科科目として履修。 他研究科・専攻生の履修可。
	文 系	M1 ～	35600722	000	G R M特論 2 2 (「核なき世界」への戦略と実 践)	2	岡野 八代	今	—	秋	日	—	○	グローバル・スタディーズ研究科 生は研究科科目として履修。 他研究科・専攻生の履修可。
	文 系	M1 ～	35600724	000	G R M特論 2 4 (経営管理論)	2	鈴木 良始	今	—	春	日	—	—	商学研究科生は研究科科目として 履修。

2018年度授業時間割表

- ◆ 科目名の前の印は開講期間を示す。【○：春学期、△：秋学期、通：通年】
- ◆ 科目名の前に★印がある科目は、希望者があれば両校地（今出川校地と京田辺校地）をＴＶ会議システムで接続し、講義が行われる。
- ◆ 教室は変更されることがあるので、掲示板等で確認すること。（今出川 F:扶桑館 H:博選館 RY:良心館 T:徳照館／烏丸 SK:志高館 新町 KS:深水館 R:聴光館）（京田辺 HC:訪知館 TC:和真館 JM:情報メディア館）

		1		2		3		4		5		6		7	
月		9:00	10:30	10:45	12:15	13:10	14:40	14:55	16:25	16:40	18:10	18:25	19:55	20:10	21:40
		教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室
火	共通							★GRMコモン演習Ⅱ(内藤・岩坂・岡本・和田)	★SK3モ	○★GRMオンサイト実習Ⅰ(内藤・岩坂・★SK3モ)岡本・林田・和田・上田					
	文系							○★GRM 社会研究方法論(ADEM)	★SK202						
	理系			GRM Introductory Science and Engineering (和)	SK3モ			GRM 特殊講義A-11(中西)	SK9-インクス/イオ						
				GRM Introductory Infrastructure Engineering (岡本)				GRM 特殊講義A-12(中西)							
	共通							GRMコモン演習Ⅱ(内藤・岩坂・岡本・和田)	HC3モ	○GRMオンサイト実習Ⅰ(内藤・岩坂・岡本・林田・和田・上田)					
水	文系									△★GRMコモン演習Ⅰ(内藤・岩坂・岡本・和田)					
	理系						△グローバル・リソース・マネジメント特論1(黒場)		JM401						
	共通														
	文系	GRMグローバル・リソース・マネジメント特論17(木原)【次1・2】	R412	GRMグローバル・リソース・マネジメント特論17(木原)【次1・2】	R412									GRMグローバル・リソース・マネジメント特論11(黒野)	
	理系			GRMグローバル・リソース・マネジメント特論3(林)	T509	GRMグローバル・リソース・マネジメント特論9(八木)	R419							GRMグローバル・リソース・マネジメント特論4(浦坂)	
木	共通														
	文系														
	理系														
	共通														
	文系														
金	共通														
	文系														
	理系														
	共通														
	文系														

- ◆ 科目名の前の印は開講期間を示す。【○：春学期、△：秋学期、通：通年】
- ◆ 科目名の前に★印がある科目は、希望者があれば両校地（今出川校地と京田辺校地）をTV会議システムで接続し、講義が行われる。
- ◆ 教室は変更されることがあるので、掲示板等で確認すること。（今出川 F:扶養館 H:博覧館 RY:良心館 T:徳照館/烏丸 SK:志高館/新町 KS:淡水館 R:臨光館）（京田辺 HC:訪知館 TC:知真館 JM:情報メディア館）

		1		2		3		4		5		6		7	
		9:00	10:30	10:45	12:15	13:10	14:40	14:55	16:25	16:40	18:10	18:25	19:55	20:10	21:40
土	今出川	共通													
		文系													
		理系													
京田辺	共通														
		文系													
		理系													

集 中 科 目														
春学期 集 中 科 目										秋学期 集 中 科 目				
今出川	共通									△ GRMオンサイト実習Ⅱ(小山田・岩坂・岡本・林田)				
	文系									[GRMフィールドワークA①・GRMフィールドワークBと合同]				
		○ GRM 国際会議の組織と実践Ⅰ①(内藤)(GRM 国際会議の組織と実践Ⅱ①と合同)	未定	○ GRMフィールドリサーチⅠ①(中西・岩坂)										
京田辺	共通	○ GRM 国際会議の組織と実践Ⅰ①(内藤)(GRM 国際会議の組織と実践Ⅱ①と合同)	未定	○ GRMフィールドリサーチⅡ①(中西・岩坂)										
		○ GRM特殊講義A-1(PASHA)【7月に集中】	未定	○ GRMフィールドワークⅠ①(中西・岩坂)										
		○ GRM特殊講義A-3(黒田)	未定	○ GRMフィールドワークⅡ①(人文社会系)(中西・岩坂)										
		○ GRM特殊講義A-10(黒田)	未定											
	理系									△ GRM Earth and Planetary Environment Science(林田)【第1回：9/28(金)】				
京田辺	共通									△ GRM資源管理論(林田・和田・長岡・稲葉・盛満・千田・笹岡)				
	文系													
京田辺	理系													

2018年度 博士課程教育リレーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」 授業時間割表

2018, 9, 18版 同志社大学大学院

- ◆ 科目名の前の印は開講期間を示す。【○：春学期，△：秋学期，通：通年】
- ◆ 科目名の前に★印がある科目は、希望者があれば同校地（今出川校地と京田辺校地）をＴＶ会議システムで接続し、講義が行われる。
- ◆ 教室は変更されることがあるので、掲示板等で確認すること。

（今出川 F: 扶桑館 H: 博達館 RY: 良心館 T: 徳照館 G: 神学館 / 鳥丸 SK: 志高館 / 新町 KS: 湧水館 R: 臨光館）（京田辺 HC: 訪知館 TC: 知真館 JM: 情報メディア館 YE: 有徳館西館）

		1		2		3		4		5		6		7	
		900	10:30	1045	1215	1310	1440	1455	1625	1840	1810	1825	1955	2010	2140
月	今出川	共通						○ ★GRMコモン演習Ⅰ(内藤・岩坂・岡本・林田・和田・上田)	★SK35E	○ ★GRMオンサイト実習Ⅰ(内藤・岩坂・岡本・林田・和田・上田)	★SK35E				
		文系						△ GRMオンサイト実習Ⅱ(小山田・岩坂・岡本・林田)(GRMフィールドワークA1・GRMフィールドワークB8と合同)	SK35E	△ GRMコモン演習Ⅰ(内藤・岩坂・岡本・林田)	SK35E				
								○ ★GRM 社会研究方法論(ADEM)	★SK202						
								○ GRM特殊講義A-11(中西)	SKラニー クスシイ						
								△ GRM特殊講義A-12(中西)	SK202						

◆ 科目名の前の印は開講期間を示す。【○：春学期、△：秋学期、通：通年】
◆ 科目名の前に★印がある科目は、希望者があれば両校地（今出川校地と京田辺校地）をＴＶ会議システムで接続し、講義が行われる。
◆ 教室は変更されることがあるので、掲示板等で確認すること。
（今出川 F: 扶桑館 H: 博達館 RY: 良心館 T: 徳照館 G: 神学館 / 烏丸 SK: 志高館 / 新町 KS: 涑水館 R: 臨光館）（京田辺 HC: 訪知館 TC: 知真館 JM: 情報メディア館 YE: 有徳館西館）

土	今出川	1			2			3			4			5			6			7		
		900			1045			1215			1440			1640			1810			1955		
		教室			教室			教室			教室			教室			教室			教室		
		10:30			1045			12:15			1440			1625			1810			1825		
共通	共通																					
	文系																					
	理系																					
京田辺	共通																					
	文系																					
	理系																					

春学期 集中科目												秋学期 集中科目											
今出川	共通																						
	文系	○ GRM 国際会議の組織と実践 I ③(内藤)【GRM 国際会議の組織と実践 II ①と合同】	未定	○ GRMファイナルリサーチ I ③(中西・岩坂)	○ GRMインターンシップ I ③(中西・上田)																		
		○ GRM 国際会議の組織と実践 II ①(内藤)【GRM 国際会議の組織と実践 I ①と合同】	未定	○ GRMファイナルリサーチ II ③(中西・岩坂)	○ GRMインターンシップ II ③【人文社会科学】(中西・上田)																		
		○ GRM 特殊講義 A-1 (FASHA) [7月に集中]	未定	○ GRMファイナルワーク I ③(中西・岩坂)																			
京田辺	理系	○ GRM 特殊講義 A-3 (黒田)	未定	○ GRMファイナルワーク II ①【人文社会科学】(中西・岩坂)																			
		○ GRM 特殊講義 A-10 (黒田)	未定																				
	理系																						
京田辺	共通																						
	文系																						
	理系																						

オンサイト実習Ⅰ（京都市、滋賀県草津市）

実習日	2018 年 4 月～7 月
場所	京都市、滋賀県草津市
テーマ	京都市の水供給と琵琶湖の水質
内容	水はわれわれにとって最も重要な資源です。京都市には大きな河川がないため、約 150 万人もの住民を賄う生活用水は琵琶湖からの給水に依存しています。この滋賀県に位置する日本最大の湖は、関西の都市圏へ水を供給できる十分な規模を有しています。しかし工業排水や生活排水により琵琶湖の水は急速に汚染され、深刻な水質低下を招きました。さまざまな対策により、現在の水質は以前より向上していますが、安定した水の供給のためには水量確保と同時に水質の保持が必須です。 グループワーク課題： 京都における給水改善の問題点を探る。給水システムの現状・状況とアンケート調査の結果を踏まえ、議論する。実現しうる解決策があれば提示する。
日程	[4 月～5 月] 5名の講師によるリレー講義 一部抜粋： 4 月 16 日(火) "Introduction/Water resource engineering" Dr. Masanori Naito 4 月 23 日(火) "Geological features of Kyoto and Shiga" Dr. Takashi Okamoto ●学外実習 5 月 19 日(土) 琵琶湖博物館(滋賀県草津市)・湖西浄化センター(滋賀県大津市) 6 月 25 日(月) 蹴上水力発電所(京都市) 【招聘者による講義】 滋賀県立大学 環境科学部 井手 慎司 教授 6 月 15 日(金) "Environmental Policies& Social Movement for Lake Biwa" 6 月 22 日(金) "Lake and Drainage Basin Resource Conflicts" [7 月] 講義・質疑応答など [7 月 23 日(月)] 最終プレゼンテーション

May 28, 2018.

GRM On-site Practice Lecture No. 5. “Use of Water”

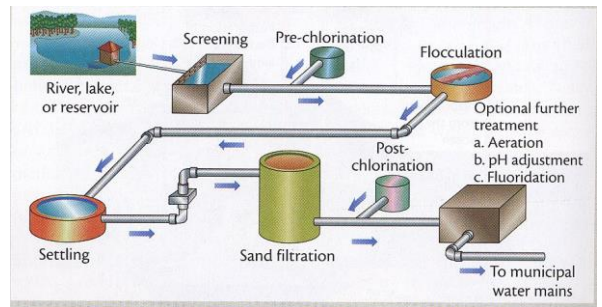
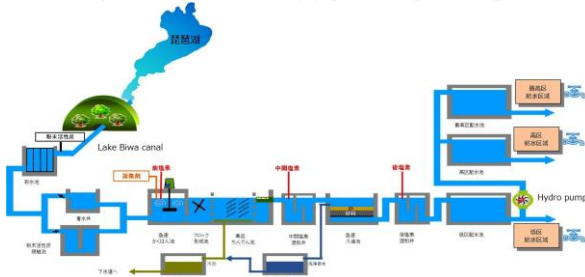
Motoi Wada

Lake Biwa Canal

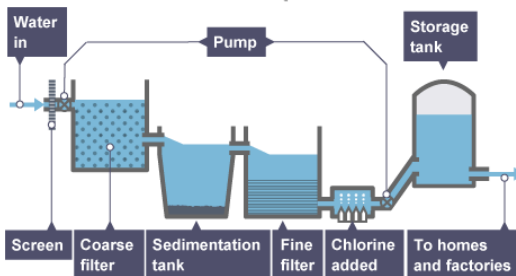
- Multi-purpose waterway
- City water supply
- Hydroelectric power generation
- Transportation
- Historical meaning
- Kyoto economy restoration
- City planning
- Technology based industrialization



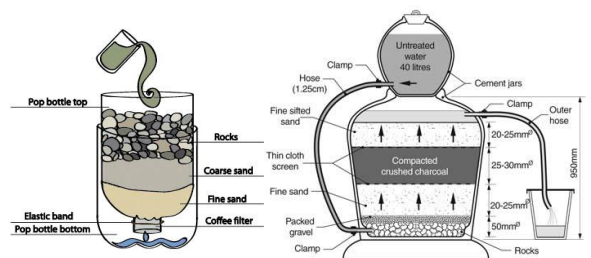
Kyoto city water supply through Keage



Principle



Coarse filter



オンサイト実習Ⅱ(徳島県神山町)

実習日	2018 年 9 月～2019 年 2 月
場所	徳島県神山町
テーマ	地方における人口減少の現状、社会情報学・情報技術
内容	オンサイト実習Ⅱは、オンサイト実習Ⅰの発展科目としてのコースです。講義では、テーマと地域に関する概要とその背景をポートレート化するとともに、トピックに関する必要な知識を学びます。サイトビジットでは徳島県神山町に訪問し、現状と問題を自分の目で見ます。講義で習得した知識と実情を組み合わせ、学生は改善すべき問題を引き出し、グループワークを通じてその問題の解決策の構築を試みます。グループは様々な専門分野の学生で構成されており、多角的な視点を考慮した議論と解決策を講じています。 ●2018 年度の授業の紹介 地方では、国の経済レベルが上昇すると人口が減少する傾向があります。工場などの労働集約型産業からの需要が増加し、これらの労働集約型産業は主に都市部に集中しています。一次産業の収入よりも安定しているので、労働者の多くは都市部に移住します。農村コミュニティの多くは深刻な過疎化と高齢化問題に直面しています。コミュニティを維持するための人材が不足しているため、存続の危険に晒されている地域もあります。 しかし、情報技術の開発によって移住者の流れを逆転させる可能性があります。特に IT 業界では、オフィスを都市部に配置する必要がありません。 現場実習先の神山町は、徳島県の山間部にある小さな町です。県の推進もあり、市町村と地域コミュニティは IT サテライトオフィスを促進しました。その結果、2015 年までに約 150 人の移住者を獲得しました。 このコースでは神山町は次に何をすべきか、実践的なアイデアを学生に問います。
日程	[9 月～10 月] まちづくり・地方における雇用創出などをテーマにした講義 ●サイトビジット 第 1 回目 10 月 18 日(木)～10 月 19 日(金) 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスにて 自治体職員やNPOによる「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」の説明、レクチャーを受ける。 第 2 回目 11 月 26 日(月)～11 月 27 日(火) 神山町役場、神山町内製材所や工務店等を訪問。 NPOによる神山創造学の授業に参加。(城西高等学校神山分校にて) [12 月～2019 年 1 月] グループワーク、進捗の報告 [2019 年 1 月 21 日] 最終プレゼンテーション

OnSite Practice II: Field Trip to Kamiyama (Oct.)

Aim:

The aim of the first field trip to Kamiyama is to get better understanding on the local situation through lectures provided by local officials and NPO and by seeing the actual site for your group work planning. Also, establishing a connection with local key persons is another thing to keep in your mind. These connections can be utilized to find/appoint interviewees at the second field trip.

Schedule:

October 18 (Thu):

13:50	Meet at JR Bus Terminal at Osaka Station*
14:00	Leaving Osaka Station (Awa Express Osaka)
16:42	Arriving Tokushima Station
17:00	Checking in to Hotel Sunroute Tokushima†
18:30 -	Dinner with Mr. Takeuchi

October 19 (Fri)

8:00	Leaving from Hotel Sunroute Tokushima**
9:30 – 10:30	Lecture by the Municipality of Kamiyama (at Kamiyama Town hall)
11:00 – 12:00	Lecture by the Tokushima Prefectural Government (at Satellite Office Complex)
12:10 – 12:50	Lunch (at Kama-ya)
13:00 – 14:30	Lecture #1 by NPO Green Valley (at Center for Improvement of Rural Environment)
14:40 – 16:10	Lecture #2 by NPO Green Valley (at Center for Improvement of Rural Environment)
16:10 – 17:10	Satellite Office Complex Tour
17:20	Leaving from Kamiyama
18:45	Leaving from Tokushima Station (Awa Express Osaka)
21:30	Arriving at Osaka Station

* JR Bus Terminal is situated at the ground level of Lucua (Department store), which is attached to the north side of Osaka Station. Get out Osaka Station from **Central Gate** (ground level) and go north. Walk up to the north end of the corridor and get out from the station building, then turn left and you will find the Bus Terminal. See also pictures below.

When you get on the train to Osaka, it would be a good idea to get on a car in the middle or slightly to Osaka side rather than getting on the car at the end of train (Kyoto side). When you are at the platform of Osaka Station, do not use the **escalators for 3rd floor (upward)**.

Notice: Bus will depart on time and not wait for you. So, make sure to be at the bus stop (there are many bus stops in the Terminal) for Tokushima (Awa Express Osaka) 10 minutes before the departure. If you cannot be in time and miss the bus, you must chase us by the next bus (depart at 15:00) **by your own expense (3,700 Yen)**. In that case, since **all tickets are in one paper format (and I have it)**, you have to buy your ticket at ticket counter in the Terminal.

† Hotel fee (incl. breakfast) has already paid through travel agent.

** We will hire so-called “Jumbo Taxi” for the transportation in Tokushima.

Fees:

No specific fee will be required. Bring enough money with you to buy your lunch and dinner (and maybe to buy souvenirs to your friends etc.).

Emergency Contact:

080-6331-4234 (Dr. Takashi Okamoto)

国際会議の組織と実践 I (文系)

実習日	2018 年 9 月 6 日 (木)～9 月 12 日 (木)
場所	スロベニア:リュブリャナ、ブレッド
会議名	Bled Strategic Forum/Young Bled Strategic Forum 2019
日程	<9月6日(木)> 教員・学生 リュブリャナ到着 リュブリャナ大学 学長・在スロベニア大使との面会 <9月7日(金)～9月9日(日)> ■ヤングブレッド戦略フォーラム参加 ●7日 ・市内観光(1時間程度)、リュブリャナ市長による開会式 プレゼンテーション: 世代におけるリーダーシップ、分裂した世代間の橋渡し ●8日 プレゼンテーション: AI と人間の共生社会について、・ジェンダーステレオタイプの問題、 Food waste を考えるグループプレゼンテーション ●9日 ディスカッション: ユース世代のリーダーシップ、中東の”Happiness”を考える リュブリャナ大との合同パネル準備 <9月10日(月)～9月11日(火)> ■ブレッド戦略フォーラム参加 ●10日 同志社大学・リュブリャナ大学 合同パネルセッション テーマ: Conflict Prevention, Peace Building and Mediation 同志社大学 ・トルコの現代政治とクルド問題を基にプレゼンテーション ・イランにおけるペルシャ人の比率や、バルカニゼーションについて リュブリャナ大学 バルカン問題や過去の内紛問題を取り上げた。 会場は満席で、外交官を含めるリスナー・プレゼンター共に活発なディスカッションが行われ、参加者から強い関心を集めていた。 ●11日 ディスカッション: 欧州連合、持続可能な未来へ向けての共生 大使公邸での会食(ディナー) <9月12日(水)> 教員・学生 リュブリャナ出発



SUSTAINABLE SECURITY



Young BSF

7 – 9 September 2018
Ljubljana, Slovenia
www.bledstrategicforum.org

SIDE-EVENTS

Monday, 10 September

09.00–11.00

Conflict Prevention, Peace Building and Mediation

In partnership with Doshisha University, Japan, and Faculty of Social Sciences, Slovenia.

@Rikli Balance Hotel, Arnold I Hall

Speakers:

- **Ms Maja Dolinar**, Ph.D Student at the University of Ljubljana, Slovenia
- **Dr Miro Haček**, Full Professor at the University of Ljubljana, Slovenia
- **Mr Akihiro Ienaka**, MA Student at Doshisha University, Japan
- **Mr Mostafa Khalili**, Ph.D Student at Doshisha University, Japan
- **Mr Faris Kočan**, Research Assistant at the University of Ljubljana, Slovenia
- **Dr Rok Zupančič**, Assistant Professor at the University of Ljubljana, Slovenia

Keynote listeners:

- **Ms Nina Pejič**, Junior Researcher at the University of Ljubljana, Slovenia
- **Ms Sanja Vrbek**, Ph.D Student at the University of Ljubljana, Slovenia

Moderator: **Dr Masanori Naito**, Professor at Doshisha University, Japan

11.00–13.00

Mediterranean Dimension of the OSCE - Youth and Security

In partnership with Embassy of the Italian Republic in Slovenia.

@Rikli Balance Hotel, Sonce Hall

Opening remarks:

- **Mr Iztok Mirošič**, State Secretary at the Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Slovenia (TBC)
- **Mr Matjaž Nemec**, Chair of the Committee on Foreign Policy of the National Assembly of the Republic of Slovenia
- **Ambassador Paolo Trichilo**, Ambassador of the Italian Republic to the Republic of Slovenia

Mediterranean Café leaders:

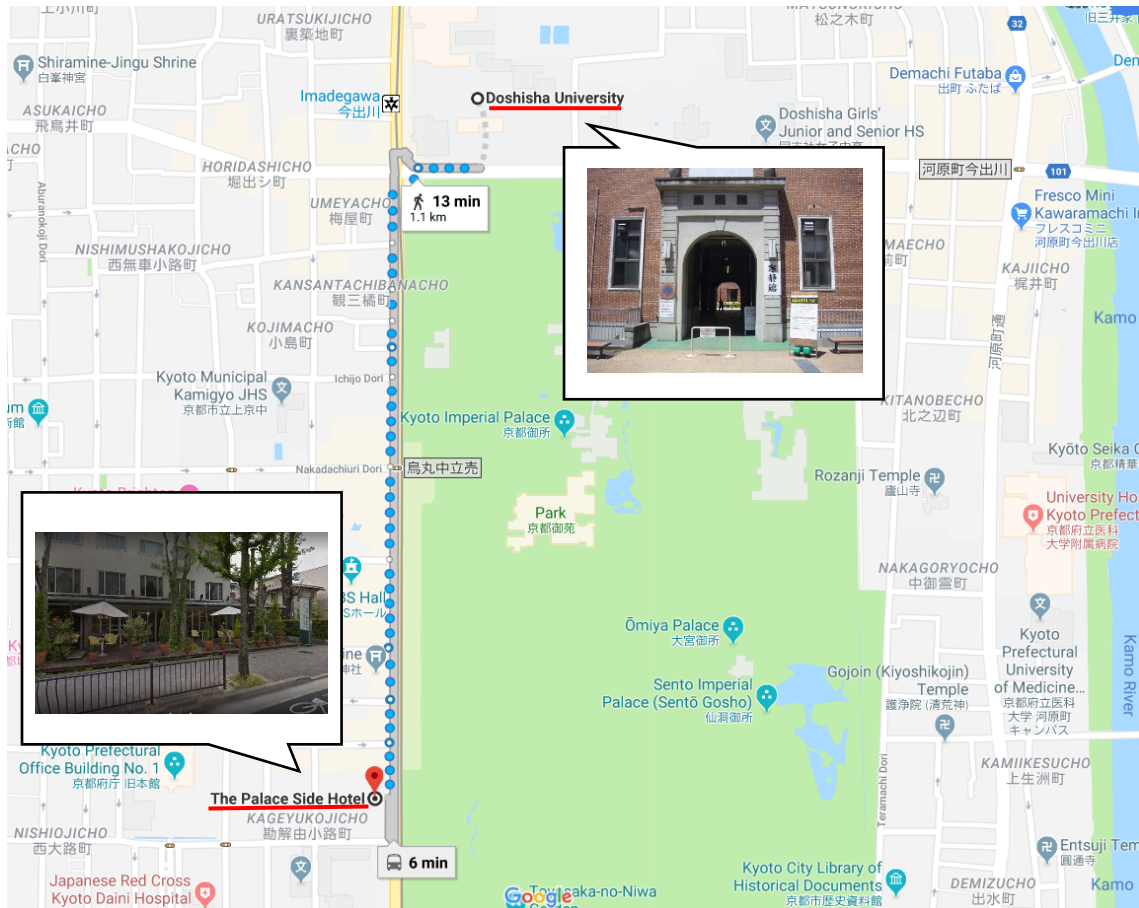
- **Dr Abdelhamid El-Zoheiry**, President of the Euro-Mediterranean University
- **Dr Ana Bojinovič Fenko**, Associate Professor at the University of Ljubljana, Slovenia

国際会議の組織と実践Ⅱ（理系）

実習日	2018 年 12 月 8 日（土）
場所	同志社大学 寧静館 5F 会議室
会議名	ISET / ISS 2018 – The 12th International Symposium on EMC and Transients in Infrastructures / The 14th International Student Session
日程	A. <u>Opening Speech</u>..... 9:00-9:05 Opening Speaker: Prof. N. Nagaoka B. <u>Keynote Speech</u>..... 9:05-10:05 Honorary Prof. A. Ametani Prof. T. H. Tran C. <u>ISET Session chair</u>.....10:05-10:35 Mr. Minella Coffee Break 10:35-10:55 D. <u>International Student Session (ISS)</u> <u>ISS-I chair</u>: 10:55-12:25 ISS-01 to ISS-07 Lunch 12:25-13:30 <u>ISS-II chair</u>: 13:30-15:00 ISS-08 to ISS-14 Coffee Break 15:00-15:20 <u>ISS-III chair</u>: 15:20-17:00 ISS-15 to ISS-21 E. <u>Closing Speech</u> Closing Speaker: Prof. Y. Baba

Banquet Venue

8 December 2018 (18:00~20:00)



(For google map)

The Palace Side Hotel

Karasuma Shimodachiuri Agaru, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8011.

TEL.+81-75-415-8887

サブ・メジャー科目

共生論／資源管理論：国際会議

実習日	2019年1月26日(土)10時00分～17時15分
場所	同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 SK101
テーマ	Resource Management for Co-Existence and Cultural Diversity
日程	(1) 10:00-10:10 開会挨拶 理工学研究科教授 林田 明 先生 (2) 10:10-11:00 Ms. Laila Attalla Tawfique (リーガル・コンサルタント 在ヨルダン米国弁護士会) “Challenges and Opportunities of Modern Refugees: Experiences from the Field” (3) 11:05-11:55 乗竹 亮治氏 (日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO 米国医療支援 NGO Project HOPE コンサルタント) “Tsunami and Tsunami of Medical Humanitarian Aid: Case Studies in the Asia Pacific” (4) 12:00-12:50 土屋 範芳教授 (東北大学 環境科学研究科 研究科長) Dr. Kyle Bahr (東北大学 環境科学研究科 講師) “Technical and Social Challenges of Geothermal Energy Development in Japan” (5) 12:50-13:40 Lunch Break (6) 13:40-16:25 学生セッション - Eco Hamersma (グローバル・スタディーズ研究科) “Social Acceptance of Geothermal Power in Fukushima Prefecture: Case Study of Tsuchiyu-onsen” - James Hernandez (理工学研究科) “Condition of the Philippine Solid-State Lighting Sector (And How the Country Can Learn from Japanese Industries)” - 山中 章文 (理工学研究科) “Historical Review on Human Interpretations of the Lightning Phenomena” - Nicole Gilos and Martin Fernandez (理工学研究科) “An Alternative Approach to Cyanide and Mercury: A Closer Look into the Artisanal and Small Scale Mining Industry in the Philippines” (休憩) - Mupe Nyambu (理工学研究科) “The Ambiguity of Ethical Resource Management in the Democratic Republic of Congo”

- 楊 慧敏（社会学研究科）
“The Development of Long-term Care System in China”
- Marwa Ahmad（グローバル・スタディーズ研究科）
“Exploring the Usage of Mobile phones by Young Syrian Refugees in Lebanon”
- Liu Cheung（神学研究科）
“Rethinking Zairyuu: Diaspora Communities in Japan’s Economic Development”

(7) (休憩)

(8) 16:35-17:10 総合討論

コメンテーター: 土屋教授、Dr. Bahr、乗竹氏、Ms.Tawfique

司会: 法学研究科教授 濱 真一郎 先生

(9) 17:10-17:15 閉会挨拶

経済学研究科教授 八木 匡 先生



同志社大学博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント（GRM）」
Advanced Doctoral Program "Global Resource Management"

Resource Management for Co-Existence and Cultural Diversity

-GRM共生論・GRM資源管理論 国際会議-

International Conference

GRM Lecture on Co-Existence & GRM Lecture on Resource Management

Date and Time

2019. 1. 26 (SAT) 10:00～17:15

Venue

**Presentation Court - Learning Commons
Ryoshinkan 2F, Imadegawa Campus**

ラーニングコモンズ プレゼンテーションコート 今出川キャンパス 良心館2F

Guest Speakers

土屋 範芳教授 Prof. Dr. Noriyoshi Tsuchiya

Dean of the Graduate School of Environmental Studies, Tohoku University
東北大学 環境科学研究科 研究科長

Dr. Kyle Bahr

Lecturer, the Graduate School of Environmental Studies, Tohoku University
東北大学 環境科学研究科 講師

乗竹 亮治氏 Mr. Ryoji Noritake

CEO, Board Member, Health and Global Policy Institute
Consultant, Project HOPE
日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO
米国医療支援NGO Project HOPE コンサルタント

Ms. Laila Tawfique

Legal Consultant, American Bar Association in Jordan
リーガル・コンサルタント 在ヨルダン米国弁護士会

Language : English

No Reservations Required

Open to Public 一般公開

プログラムの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。
For further information :
<https://grm.doshisha.ac.jp>



CONTACT

GRM事務局 GRM Office : ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp

ORGANIZER

Organization for Advanced Research and Education, DoshishaUniversity,
Graduate School of Science and Engineering, Graduate School of Global Studies, DoshishaUniversity





Doshisha University GRM International Conference ***“Resource Management for Co-Existence and Cultural Diversity”***

I. Time and Venue

January 26, 2019 (Sat.), 10:00-17:15

Presentation Court, Ryoshinkan Bldg. 2F at Imadegawa Campus, Doshisha University

http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/usage/presentation_court.html

II. Schedule

(1) 10:00-10:10 Welcome Remarks

Prof. Dr. Akira Hayashida (Graduate School of Science and Engineering, Doshisha University)

(2) 10:10-11:00

Ms. Laila Attalla Tawfique

Legal Consultant, American Bar Association, Rule of Law Initiative (ABAROLI), Jordan

“Challenges and Opportunities of Modern Refugees: Experiences from the Field”

Q & A (10 mins)

(3) 11:05-11:55

Mr. Ryoji Noritake

CEO, Board Member, Health and Global Policy Institute; Consultant, Project HOPE

“Tsunami and Tsunami of Medical Humanitarian Aid: Case Studies in the Asia Pacific”

Q & A (10 mins)

(4) 12:00-12:50

Prof. Dr. Noriyoshi Tsuchiya and Dr. Kyle Bahr

Graduate School of Environmental Studies, Tohoku University

“Technical and Social Challenges of Geothermal Energy Development in Japan”

Q & A (10 mins)

(5) 12:50-13:40 Lunch Break

(6) 13:40-16:25 Students’ Session

- Eco Hamersma (Graduate School of Global Studies)

“Social Acceptance of Geothermal Power in Fukushima Prefecture: Case Study of Tsuchiyu-onsen”

- James Hernandez (Graduate School of Science and Engineering)

“Condition of the Philippine Solid-State Lighting Sector (And How the Country Can Learn from Japanese Industries)”

グローバル・スタディーズ基礎理論：同志社大学GRMプログラム X フィリピン財務省 フィリピン税務大学校 合同ワークショップ

実施日	2018 年 12 月 7 日 (金) 14 時 00 分～17 時 00 分
場所	同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 SK101
テーマ	Joint Conference on Finance and Sustainable Development
日程	14:00- Conference Overview Prof. Eiji Oyamada, Graduate School of Global Studies, Doshisha University (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授) 14:10- Financing Inclusive and Sustainable Development in the Philippines Mr. Gil S. Beltran Under-Secretary, Ministry of Finance, Republic of the Philippines (フィリピン共和国 財務省 財務次官) 14:45- International Public Finance and Development Prof. Vesselin Popovski Vice Dean, Centre for the Study of United Nations Jindal Global University, India (ジンダル・グローバル大学(インド) 国連研究センター副学部長) 15:30- National Tax Academy, case from Indonesia Mr. Rahman Ishaq Director for International Affairs, University of Hasanuddin, Indonesia (ハサヌディン大学(インドネシア) 渉外部長) 16:15- Questions and Answers (Plenary Discussion) 16:30- Session Synthesis Prof. Wilfredo Carada, University of the Philippines Los Baños (フィリピン大学ロスバニョス校 教授)





Advanced Doctoral Program in Global Resource Management Doshisha University
and

Philippine Tax Academy, Department of Finance Republic of the Philippines



**PHILIPPINE
TAX
ACADEMY**

同志社大学 G R M プログラム ● フィリピン財務省 フィリピン税務大学校

Joint Conference on Finance and Sustainable Development

Date and Time

Friday, December 7

14:00 – 17:00

Language

English

Venue

Shikokan SK101 Imadegawa (Karasuma) campus, Doshisha University

14:00-

Conference Overview

Prof. Eiji Oyamada, Graduate School of Global Studies, Doshisha University
(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授)

14:10-

Financing Inclusive and Sustainable Development in the Philippines

Mr. Gil S. Beltran

Under-Secretary, Ministry of Finance, Republic of the Philippines
(フィリピン共和国 財務省 財務次官)

14:45-

International Public Finance and Development

Prof. Vesselin Popoviski

Vice Dean, Centre for the Study of United Nations

Jindal Global University, India

(ジンダル・グローバル大学 (インド) 国連研究センター副学部長)

15:30-

National Tax Academy, case from Indonesia

Mr. Rahman Ishaq

Director for International Affairs, University of Hasanuddin, Indonesia

(ハサヌディン大学 (インドネシア) 渉外部長)

16:15-

Questions and Answers (Plenary Discussion)

16:30-

Session Synthesis

Prof. Wilfredo Carada, University of the Philippines Los Baños

(フィリピン大学ロスバニョス校 教授)

● 対象者：在学生・教職員 Welcome for Doshisha students/faculty staff ●

● 予約不要 NO RESERVATIONS REQUIRED ●

GRM Office

URL: <http://grm.doshisha.ac.jp> EMAIL: ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp

主催

同志社大学高等研究教育機構、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科、同志社大学大学院理工学研究科

グローバル・スタディーズ基礎理論における現地実習

実習日	2019 年 2 月 21 日 (木)～2 月 22 日 (金)
場所	岐阜県岐阜市 (長良川うかいミュージアム、正法寺、岐阜城、柳ヶ瀬商店街、岐阜中央農業共済組合)
テーマ	地方自治体と NGO 団体との協働による日本のローカルガバナンスと発展、及び農家保護制度について学ぶ
日程	2 月 21 日 (木) ・ 京都→岐阜移動 ・ 長良川うかいミュージアム (岐阜市の観光開発事業の歴史と課題についての講義) ・ 正法寺 (岐阜市の文化遺産保護事業の課題について) ・ 岐阜城 (地方自治体・企業・地元住民による連携活動) 2 月 22 日 (金) ・ 柳ヶ瀬商店街等 (商店街の活性化、市民社会を通じた街おこし等) ・ 岐阜中央農業共済組合 (農業経営と農家保護制度等について) ・ 岐阜→京都移動
学生報告	本実習では、グローバル・スタディーズ研究科の学生と教員とともに、岐阜県岐阜市の博物館をはじめとする観光スポットを訪れた。はじめに訪れた、長良川うかいミュージアムでは、長良川川で 1300 年以上伝承されてきた鵜飼いの文化について学んだ、日本人として、鵜を使って鮎を捕るという事は知っているものの、これまでに実際に見たことも映像で見たことも無く、学ぶことが多かった。鵜匠とは宮内庁によって与えられる職位であり、公務員であるということからも、行政が守っていない程貴重な文化であることを初めて感じた。その他、我々日本人からすれば、博物館の出口にはお土産屋があることはごく普通のことであるが、これは言わば、行政と民間企業(商品)とのコラボレーションであり、ひとつのビジネスモデルであるという観点を初めて知った。 その後、岐阜市で政治活動を行う傍ら、様々な NPO や団体で活発に活動されている浮井洗太さんより、岐阜県さつまの会に関して講義をして頂いた。歴史的な背景から、薩摩と岐阜との関わり、そして、水害に対する治水工事の話や、度々起こる水害に対する岐阜市民や行政の考えを聞くことが出来た。発展途上国の現状と比較調査することで、適用できる枠組みや対策が浮かんでくるのではないかと感じた。 日本三大仏の一つがある、金華山正法寺や岐阜城及びその資料館、鵜飼いの技術を鑑賞する船や川原町を訪れた。ロープウェイから岐阜城に到着するまでの山道で、ライオンズクラブやロータリークラブといった、民間の団体名が刻まれた地図や説明書きが複数あり、これもまた、行政と民間とのコラボレーションであるとの見方を初めて気付いた。また、京都によく似た雰囲気古民家が建ち並び、川原町という通りでは、改装した古民家で傘や和菓子、人形などを販売する店やレストラン、ホテルが多く見られた。価格設定も決して安くは無く、付加価値を付けて、観光客にお金を落としていてもらい、地域復興しようとしているように感じた。 報告者は、これまでに社会科学的な観点で物事を捉えた経験が乏しく、実習の最後に意見を出し合う際に、社会科学の学生との視点の違いを強く感じた。普段自分が当たり前のように見ている物事の中にも視点を变えることで、日常に隠れているフレームワークが見えてくるのでは、と感じた実習だった。 理工学研究科 島袋祐示

インフラストラクチャー基礎実験：コマツ教習所実習

実習日	1月27日(土)10時00分～16時40分
場所	コマツ教習所 近畿センタ(大阪府 豊中市)
内容	技能訓練:「小型車両系建設機械の運転業務」受講
日程	7月2日(月)8:00～17:00 整地・運搬・積荷用及び掘削用 実技学科実習 7月3日(火)9:00～16:00 整地・運搬・積荷用及び掘削用 実技学科実習
学生報告	本実習の目的は、小型車両系建設機械を運用する際に必要な資格を取得することである。そのため、大阪府豊中市にあるコマツ教習所にて二日間にわたって特別講習を受講した。 初日のカリキュラムは座学を中心としており、二日目には屋外にて実際に機材を使用した実技教育が行われた。初日の座学は朝の8時から始まり、途中休憩や昼食時間を挟み夕方5時まで続いた。講義では、小型車両系建設機械の種類や機械の構造、機械の取り扱い方法や建設現場等における作業方法に関する知識、機械の運用に必要な力学・工学、関係法令を学んだ。座学の最後には、確認テストが実施された。確認テストでは、その日一日座学において学んだことが○×形式で20問出題されており、よく問題を読まないで間違えてしまう所謂引っ掛け問題が多かった。肝心の可否結果だが、二日目の実技の講習が始まる前に、教官から前日の座学のテストは全員合格だったと伝えられ一安心した。 実技の講習では、機械に乗る前の安全確認から始まり、最終的には教習所の敷地内を走行し、ショベルを使った掘削までを朝から夕方まで行った。今回の特別講習の受講者の年齢層は幅広い印象を持ったが、その殆どが実際に小型車両系建設機械を仕事で使用している人たちで、全くの初心者である私たちとは比べようもない程スムーズに機械を乗りこなしていた。私自身は、普通自動車免許さえ持っていない人間なので、機械に乗り込む前から緊張してしまい、作業時には何度か誤った操作を行ってしまった。それでも教官からのアドバイスをもとに何度か練習するうちに初めの頃よりは乗りこなせるようになった。実技講習後に初日に座学を受講した教室に戻り、そこで特別教育修了証を受け取った。 今後どこでこの機械を使用する機会があるか正直わからないが、もし使用する機会に遭遇した際は積極的に使用したいと考えている。 グローバル・スタディーズ研究科 梅本あすか

コース13班		受講者定員数 20人		コース13班	
開校年度	平成30年7月2日	～	平成30年7月3日	学科	7 時間
実施機関	学科:近畿センタ	実技:近畿センタ		6 時間	講習日
1日目	7月2日			2日目	7月3日
科目	講習科目	授業時間	単位	科目	講習科目
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	8:30～10:00	90	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	10:10～11:40	90	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	11:40～12:30	50	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	12:30～13:30	60	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	13:40～14:40	60	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	14:50～15:50	60	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	16:00～17:00	60	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習	17:00～17:10	10	学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習			学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習
学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習			学	小型車両系建設機械の運転業務(整地・運搬・積荷用及び掘削用)の実習



インフラストラクチャー基礎実験：奈良実習

実習日	2018 年 8 月 10 日 (金) - 11 日 (土)		
場所	奈良工業高等専門学校 校内、奈良県 山辺郡 山添村 的野地区 集会所周辺		
内容	小型風力発電システムの構築実習と発電の確認、小型水力発電機からの電力供給確認 太陽光パネルおよび可搬式発電機の利用実習		
日程	8月10日(金) 10:00 集合 10:30 奈良高専見学・風車必要物品の確認・積込 14:00 実習開始 ・小型風車設置および発電状況確認 ・可搬式発電機利用実習 17:00 作業終了・宿舎へ 18:30 夕食 8月11日(土) 9:00 集合 10:00 実習開始 ・小水力発電 ・太陽光発電利用実習 ・小型風車発電状況確認 15:00 風車撤去作業開始 17:00 作業終了 18:00 解散		
学生報告	今回の実習では、様々な発電装置の組み立てや設置、発電量の測定などを行うことが大きな目的であった。二日間の実習のメインの作業としては、1 日目に小型風力発電機の設置・取り付けを奈良高専の学生の方々と一緒にを行い、二日目にその風力発電機の発電量の測定と撤去作業を行った。また、副次的な作業として、去年設置された小型水力発電装置の発電量の測定とソーラーパネルによる発電の確認作業を行った。 まず小型風力発電機設置作業と解体・撤去作業について説明する。1 日目は、主に機械の組み立て・設置と、バッテリーへの接続という三つの工程によって行われた。一つ目の工程は、風力発電機本体と脚場を組み立てることである。この工程は、脚場の設置グループと風力発電機本体の組み立てグループの 2 グループに分かれて行った。同志社大学の学生は、皆屋内で風力発電機本体の組み立て作業に参加した。風力発電機の組み立ては、プロペラを取り付ける頭の部分を主に行った。最初にプロペラ設置の前に軸に合わせて円盤や細かいネジを取り付け、取り付けた円盤と、プロペラの形に沿ってくぼみがつくられたもう一つの円盤を組み合わせてプロペラを固定させる。最後にカバーと小ネジを使って取り付け固定することで頭の部分は完成する。この時、ネジなどの小部品を工具で止める際に部品などを傷つけないようにしっかり回して固定することが重要である。 次に、本体のお尻につける羽の設置を行った。この羽の設置の際、ネジの位置が歪んだまま工具を使って回してしまったため、ネジと中の部分が傷ついてしまい、うまくはまらないまま完成となってしまった。脚場の組み立てについては、より風が吹きそうな場所が選定され、集会所周辺にあるくぼみの坂の位置に取り付けられていた。二つ目の工程は、脚場に風力発電機を設置することである。具体的には、脚場に組まれた軸となるポールにバッテリーとつなぐケーブルを通して、ポールの最上部に風力発電機本体を設置する工程である。ポールに風力発電機と接続されたケーブルを通す際、ビニール紐をケーブルに取り付け、その紐をポールの中に通していくことでスムーズにケーブルを通すことができるため、この方法を用いてケーブルを取り付け、ポールの最上部に風力		

発電機本体を設置した。最後に三つ目の工程として、接続ケーブルを4つのバッテリーと計測器に接続する作業を行った。ポールに通したケーブルを配線図通りにバッテリーに接続し、エンジンと電力量の計測器も同じく取り付けていく作業である。この作業を以って取り付け作業は完了となった。できた小型風力発電機を一晩置き、電力量などを二日目に測った。

二日目の主な作業は、発電量の測定と発電機の取り外し及び撤去作業であった。まず、発電量の測定の前に4つのバッテリーの減り具合を計測した。バッテリーにそれぞれ番号の①～④の番号を振って説明すると、①11.51V、②11.64V、③11.51V、④11.64Vの減り具合であるという結果が得られた。また、風力発電機による発電量は風が吹かなかった影響もあり、1日中2を発電したという結果となった。撤去作業では、組み立て作業時に行った工程に沿って行った。

次にソーラーパネルの発電確認と水力発電装置の発電量測定について説明する。ソーラーパネルは6枚のパネル×2セットを地面に広げ、付属の装置に携帯電話をコードでつなぐ動作をした。炎天下という恵まれた環境もあって設置してすぐに、携帯電話が充電できていることを確認できた。

水力発電装置については、昨年用水路に設置された装置を見学し、そこでの電圧の波形などをオシロスコープとマルチメーターを使って計測した。その時の波形は、整流作業が行われていない状態の電気を計測したため、波形は大きく乱れていた。マルチメーターで計測した際には、3.903Vの値が表示された。この水力発電装置は外灯やバッテリーなどと接続されており、災害時など緊急時に発電を行えるということで、村の方からの需要も高いとのことであった。

今回の実習で学んだ発電装置の組み立ての仕方や測定方法は、現在フィールドにしているアフリカのザンビアでの調査において、大いに役立つことが想像出来る。実際に現在の研究対象がザンビアにおける理数科教育開発であるため、理科の実験道具やコンテンツ内容の企画・立案が行われている機関での議論が非常に活発になることが考えられる。また地方滞在の際に発電方法や配線等の知見があることで、宿泊施設の設備の扱い方が理解できると考えられる。

グローバル・スタディーズ研究科 真崎宏美



コモン演習

実習日	2018 年 4 月～2018 年 7 月
場所	同志社大学 今出川校地、京田辺校地
テーマ	防災と情報発信
内容	防災プログラムには、さまざまな観点からのソリューションと対策が必要です。堤防、護岸、耐震性のある建物などの防災工事の建設は、解決策の 1 つです。 ただし、これらの種類のいわゆるハードソリューションは、社会に最大限の安全性を提供しません。人間の活動が行われる場所で災害が発生するため、社会への被害を軽減するために、非計画的なソリューション、たとえば、避難計画、救助計画、またはそれらの計画を支援するための制度的調整が必要です。 緊急事態において情報発信は、防災対策を成功させるための非常に重要な要素の 1 つです。情報を迅速に広めるためには、堅牢で回復力のあるシステムを構築する必要があります。ただし、上記の一般的な考え方と同じように、通信インフラストラクチャを構築するだけでは十分ではありません。公的機関と地域社会への調整が必要です。たとえば、正確で迅速な情報がなければ、組織的な避難や迅速な救助はできません。 したがって、技術と調整の両方が必要です。 このコースでは、緊急事態のためのコミュニケーションシステムを確立するための計画と、ネットワークを介して広められた情報を使用するための計画を作成するよう生徒に求めます。この目的のために、防災、情報の普及、組織の調整の基礎を学ぶために、カップルの講義が提供されています [目的] 特定の問題に対する包括的な提案の作成。 [グループワーク課題] 対象地域を決定し、その地域に関連する災害または緊急事態の事例を挙げる。想定しうる被害状況から、社会への損害を減らす策を考える。 計画には、上記の情報を活用して適切な対策を実現するために、迅速かつ正確な情報発信と制度的調整を実現するための通信システムの構築を含める必要がある。
日程	<4 月 - 7 月> グループに分かれディスカッション 定期的に担当教員による進捗確認、アドバイス ●招聘者による講義 京都大学 防災研究所 牧 紀男 教授 4 月 17 日(火) "What is disaster and disaster management?" 5 月 8 日(火) "Command and Control, Common Operational Picture; Disaster response to the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster" <5 月 31 日(木)> グループ中間発表1 <6 月 28 日(木)> グループ中間発表2 <7 月 26 日(木)> 最終発表



成果報告会

2018年度 春学期

発表日：2018年8月8日（水）10時00分～11時45分

発表者：

1. Abdalrahman Mohamed Migdad（グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻）



2. Chayadit Pumaneratkul（理工学研究科 機械工学専攻）



大学院博士課程教育リーディング・プログラム
Advanced Doctoral Program in Global Resource Management

グローバル・リソース・マネジメント

GRM 成果報告会

Program Completion Report

[発表者] 博士課程(後期課程)
Abdalrahman Mohamed Migdad
(グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻)
Graduate School of Global Studies (Global Studies)

Chayadit Pumaneratkul (理工学研究科 機械工学専攻)
Graduate School of Science & Engineering (Mechanical Engineering)

[日 時] 2018年 8月8日 (水) August 8 (Wed), 2018
10:00～10:45 (Mr. Migdad)
11:00～11:45 (Mr. Pumaneratkul)

[場 所] 今出川校地(烏丸キャンパス)
志高館 ラーニングスタジオ[地階]
BMADEGAWA Shikokan Learning Studio (B1F)

京田辺校地
訪知館 GRM コモンルーム[1階]
KYOTANABE Hochikan GRM Common Room (1F)

※ TV会議システムで両校地を接続
(発表者 Migdad さんは今出川校地、Pumaneratkul さんは京田辺校地)
The presentation will be distributed to each campus via TV-conference system.
(Mr. Migdad is in Inasage campus and Mr. Pumaneratkul is in Kyotanabe.)

来聴歓迎・申込不要
No reservation required

問合せ: GRM 事務局(高等研究教育課) TEL.075-251-3259 E-mail:ji-grm4@mail.doshisha.ac.jp

2018年度 秋学期

発表日：2019年1月24日（木）10時00分～11時45分、
2019年1月30日（木）13時00分～13時45分

発表者：

1. 中川 正夫 （理工学研究科 機械工学専攻）



2. 陳 燕双 （商学研究科 商学専攻）



3. 陳 艶 （グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻）



4. Rehab Abu-Hajjar (グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻)



大学院博士課程教育リーディング・プログラム
Advanced Doctoral Program in Global Resource Management

グローバル・リソース・マネジメント

GRM 成果報告会

Program Completion Report

[発表者] 博士課程(後期課程)
中川 正夫 (理工学研究科 機械工学専攻)
Graduate School of Science & Engineering (Mechanical Engineering)
陳 燕双 (商学研究科 商学専攻)
Graduate School of Commerce (Commerce)
陳 艶 (グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻)
Graduate School of Global Studies (Global Studies)

[日 時] 2019年 1月24日(木) January 24 (Thursday), 2019
10:00~10:45 (中川 正夫)
11:00~11:45 (陳 燕双)
13:00~13:45 (陳 艶)

[場 所] 今出川校地(烏丸キャンパス)
志高館 GRM コモンルーム[2階]
DMADEGAWA: Shikokan GRM Common Room (2F)
京田辺校地
訪知館 GRM コモンルーム[1階]
KYOTANABE: Hochikan GRM Common Room (1F)

※TV会議システムで両校地を接続
(発表者中川さんは京田辺校地、陳 燕双さん・陳 艶さんは今出川校地から発表)
The presentation will be distributed to each campus via TV conference system.
(Mr. Nakagawa is in Kyotanabe campus and Ms. Chen Yanduang・Ms. Chen Yan are in Inadagawa campus.)

来聴歓迎・申込不要
No reservation required

問合せ: GRM 事務局(高等研究教育課) TEL 075-251-3259 E-mail: jr-grm@nissai.dodai.ac.jp

大学院博士課程教育リーディング・プログラム
Advanced Doctoral Program in Global Resource Management

グローバル・リソース・マネジメント

GRM 成果報告会

Program Completion Report

[発表者] 博士課程(後期課程)
Rehab Abu-Hajjar
(グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻)
Graduate School of Global Studies (Global Studies)

[日 時] 2019年 1月30日(水) January 30 (Wed), 2019
13:00~13:45 (Rehab Abu-Hajjar)

[場 所] 今出川校地(烏丸キャンパス)
志高館 GRM コモンルーム[2階]
DMADEGAWA: Shikokan GRM Common Room (2F)
京田辺校地
訪知館 GRM コモンルーム[1階]
KYOTANABE: Hochikan GRM Common Room (1F)

※TV会議システムで両校地を接続 (発表者 Rehab さんは今出川校地から発表します。)
The presentation will be distributed to each campus via TV conference system.
(Ms. Rehab is in Inadagawa campus.)

来聴歓迎・申込不要
No reservation required

問合せ: GRM 事務局(高等研究教育課) TEL 075-251-3259 E-mail: jr-grm@nissai.dodai.ac.jp

キャリア形成支援セミナー

日時	場所	講師
2018年5月24日(木) 16:30～18:00	今出川校地 志高館 京田辺校地 訪知館	Ms. Shobhana Radhakrishna (シヨバナ・ラダクリシュナ女史)
2018年7月17日(火) 10:45～12:15	今出川校地 志高館 京田辺校地 訪知館	Prof. Zoubair Lafhaj 氏(エコール・セントラル・リール教授)

Global Resource Management, Advanced doctoral program of Doshisha University

GRMキャリア形成支援セミナー



タイトル 社会を変えるマハトマ・ガンディーのリーダーシップ
～その現代社会における意義とは～

講師 シヨバナ・ラダクリシュナ女史
Chief Functionary at Gandhian Forum for Ethical Corporate Governance; DISHA India

紹介 マハトマ・ガンディーは、激しい精神力や機知、差別に対して、崇高な倫理観と平和思想、そして非暴力主義で立身し、社会を大きく変革しました。ガンディーの思想やリーダーシップは、国内・国際的情勢が複雑の度を増す現在、世界中のあらゆる分野で、大きな意味合いを得ています。シヨバナ・ラダクリシュナ女史は、ガンディーの思想と倫理を世界中に広めようと活動しています。

会場 GRMコモンルーム
(今出川校地 志高館2F/京田辺校地 訪知館1F)

言語 英語

参加方法 要請書の方は、メールのタイトルを「5/24 キャリアセミナー」とし、本文に氏名を明記してGRM事務局までご連絡ください。

連絡先 GRM事務局メールアドレス: j-grmid@mail.doshisha.ac.jp

主催 同志社大学 高等研究教育機構 同志社大学大学院工学研究科 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科

**5/24(木)
16:30-18:00**

本学在学生・教職員のみ参加可
申し込み要の場合、
ご来館に参る必要はありません

Global Resource Management

Global Resource Management, Advanced doctoral program of Doshisha University

Global Career Design



TITLE Transformational Leadership of Mahatma Gandhi
~its Relevance in Contemporary World~

LECTURER Ms. Shobhana Radhakrishna
Chief Functionary at Gandhian Forum for Ethical Corporate Governance; DISHA India

PROFILE Mahatma Gandhi's life was one of dedication and simplicity, and he valued ahimsa and truth as the guiding principles of his life. Ms. Shobhana Radhakrishna aims to spread Mahatma Gandhi's thoughts and principles to those not only in India but across the globe.

VENUE GRM Common Rooms
(Imadegawa Campus, Shikokan 2F/
Kyotanabe Campus, Hochikan 1F)

LANGUAGE English

**5.24
THURSDAY
16:30-18:00**

FOR DOSHISHA STUDENTS/FACULTY ONLY
IN CASE ALL SEATS ARE FILLED,
ENTRY MAY NOT BE POSSIBLE

REGISTRATION Please send an email to GRM Office with a title "5.24 Career Seminar" and your name in the body.

CONTACT GRM Office: j-grmid@mail.doshisha.ac.jp
Organization for Advanced Research and Education, Doshisha University,
Graduate School of Science and Engineering,
Graduate School of Global Studies, Doshisha University

Global Resource Management

同志社大学博士課程教育リーディングプログラム Global Resource Management

GRMキャリア形成支援セミナー



タイトル State of the art of industry 4.0: Strategy and Vision of France

講師 エコール・セントラル・リール教授
Prof. Zoubair Lafhaj

会場 GRMコモンルーム 今出川校地 志高館2階
※京田辺校地 訪知館1階 GRMコモンルームに中継配信

言語 英語

参加方法 要請書の方は、メールのタイトルを「7/17 キャリアセミナー」とし、本文に氏名を明記してGRM事務局までご連絡ください。

連絡先 GRM事務局メールアドレス: j-grmid@mail.doshisha.ac.jp

主催 同志社大学 高等研究教育機構 同志社大学大学院工学研究科 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科

**7/17(火)
10:45-12:15**

本学在学生・教職員のみ参加可
申し込み要の場合、
ご来館に参る必要はありません

Global Resource Management

Global Resource Management, Advanced doctoral program of Doshisha University

Global Career Design



TITLE State of the art of industry 4.0: Strategy and Vision of France

LECTURER Dr. Zoubair Lafhaj
Professor, Ecole Centrale Lille

VENUE GRM Common Rooms
* Speaker will be at Imadegawa Campus,
distributed to Kyotanabe Campus

LANGUAGE English

**7.17
TUESDAY
10:45-12:15**

FOR DOSHISHA STUDENTS/FACULTY ONLY
IN CASE ALL SEATS ARE FILLED,
ENTRY MAY NOT BE POSSIBLE

REGISTRATION Please send an email to GRM Office with a title "7.17 Career Seminar" and your name in the body.

CONTACT GRM Office: j-grmid@mail.doshisha.ac.jp
Organization for Advanced Research and Education, Doshisha University,
Graduate School of Science and Engineering,
Graduate School of Global Studies, Doshisha University

Global Resource Management

GRM Journal Vol.5

同志社大学リーディング大学院グローバル・リソース・マネジメント ジャーナル

Journal for information, study and discussion of

Global Resource Management, Doshisha University

Vol. 5 issued March 2019



Table of Contents

I. Research Note

Mostafa Khalili, Yan Chen, Chayadit Pumaneratkul

II. Course Reports

1. 2018 Joint Seminar II

- Hajjaj, Mohammed Awad
- Zhang, Wenyu
- Hosnieh, Elham

2. 2018 On-Site Training Course

- Hajjaj, Mohammed Awad

Table of Contents

Vol. 5 issued March 2019

GRMウェブサイトのトップページより閲覧可能。

フィリピン大学ロスバニョス校(UPLB)合同ワークショップ

実習日	2018 年 6 月 12 日 (火) 13:00 ~ 16:25
場所	今出川(烏丸)キャンパス 志高館 SK101
テーマ	Culture, Sustainable Development and Governance
日程	13:00 Session 1 - Global Resource Management as an Advanced PhD Program Dr. Iyas Salim (Associate Program Administrator, GRM Program) - Open Science Approach: From Interdisciplinary to Transdisciplinary Research Prof. Hisae Nakanishi (Graduate School of Global Studies) (14:40- Break) 14:50 Session 2 - Introduction to the Session - Malvar, Batangas: Culture in a Changing Socio-Economic Landscape Editha Eusebio (MDMG, UPLB), Alma Gabuni (MSDMG, UPLB) - Culture and Environmental Protection in Los BanosLaguna Lou Diaz (MDMG,UPLB), Guia Del Valle (MDMG, UPLB) -Spiritual Heritage and Sustainable Development in Dolores, Quezon Cynthia Cortez (MDMG,UPLB), Marife Mendoza (MDMG,UPLB) -Comparative Study on Remembrance, Commemoration of Disaster and DRR Policies in Japan and the Philippines Tasuku Ohashi (Doctoral Student, Graduate School of Global Studies) -The Act of Environmental Citizenship and the Local Government Yu Sumi (Doctoral Student, Graduate School of Global Studies) -Question and Discussion -Synthesis Danielle Quiros (MDMG, UPLB), Jim Cano (MSDMG, UPLB) -Closing Prof. Wilfredo Carada (UPLB)





同志社大学
Doshisha University



Advanced Doctoral Program in Global Resource Management
Doshisha University

and

Development Management and Governance Program
College of Public Affairs and Development
University of the Philippines Los Baños

同志社大学GRM●フィリピン大学ロスバニョス校

Joint Seminar-Workshop

on

Culture, Sustainable Development and Governance

2018.6.12 TUE 13:00 ▶ 16:25

VENUE

Shikokan SK101

Imadegawa (Karasuma) campus, Doshisha University

CONTACT

GRM Office

TEL: 075-251-3259 EMAIL: ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp

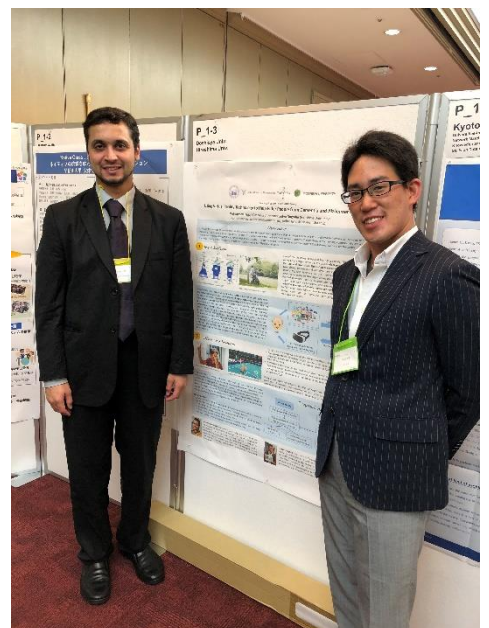
URL: <http://grm.doshisha.ac.jp/>

- 聴講自由 EVERYONE IS WELCOME ●
- 予約不要 NO RESERVATIONS REQUIRED ●

博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2018

実習日	2018 年 12 月 4 日(火) 11:00 ～ 20:00
場所	一橋大学 一橋講堂
参加者	履修生 2 名: Mohammed Awad Hajjaj [理工学研究科]、中川 正夫[理工学研究科] 教員 1 名: 上田 光明 助教[高等研究教育機構] 職員 2 名: 松波 利明、坂口 裕香[高等研究教育課]
実績報告	「博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2018」(12 月 4 日開催)にグローバル・リソース・マネジメント・プログラムよりプログラム履修生2名が参加しました。 セッションA(社会に新しい価値を実装する提案)の事前審査に通過したプログラム履修生はリーディングプログラムを担当する教職員・学生や産業界、行政機関等の参加者の前で「Using Virtual Reality Technology to Help Elder People from Dementia and Alzheimer Diseases」について、発表しました。 セッションB(リーディングプログラム資産を将来に活かすために)に参加したプログラム履修生は当日の文部科学省による講演、「リーディングプログラムの成果と展開」を聴講した後に、『社会に新しい価値を実装する』ために、リーディング学生にさらに必要なものは何か。そのために大学は何ができるか』について、他プログラム生とグループディスカッションを行いました。議論の内容はグループ代表者より、他参加者も聴講するパネルディスカッションで共有されることで、聴衆と活発な意見交換を行う土台となりました。
学生報告	東京工業大学の主催により一橋大学で行われた「博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2018」に参加し、パネルディスカッションに向けて議論に参加してきた。リーディングプログラムが始まって 8 年目となる今年、「社会への新しい価値の実装」を議題にフォーラムがおこなわれた。『専門分野の枠を超え、独創力および俯瞰力を有し、広く産官学にわたりグローバルに活躍するリーダーを育成する』ために大学院教育を改革するにあたり、これまでにリーディングプログラム培われた成果および見えてきた問題をもとに、2040 年の「知のプロフェッショナル」への方向性について話しあわれた。その中で、私は Session B: <リーディングプログラム資産を将来に活かすために>の中のテーマ C「社会に新しい価値を実装するために、リーディング学生にさらに必要なものは何か、そのために大学は何ができるか」について学生のチームで議論をおこなった。日本人 4 人、留学生 5 人からなる国際色豊かなチームで昼食をとりながら実りある議論することができた。配布されていた議題の英訳が間違っていたために、留学生側と日本人側の準備していた回答にズレが生じていたことが非常に残念だった。しかしながら、議論を通して「産官学のそれぞれの立場の間には必ずギャップがあり、社会へ新たな価値を実装するためには対話を通じて互いのギャップを埋める必要がある」との共通認識に至った。チームメンバーのほとんどのプログラムにおいて、プロジェクト(授業)は教員によってすべて組み立てられたものであり、対象から学生の成果に対するフィードバックの得られない一方通行のものであることが問題であった。社会へ成果を通して新たな価値を実装するためには、対象との対話を通じて「いかに社会へ貢献できるか」を学生自身が認識することが求められ、大学には対象との対話を可能とする仕掛けを構築することが求められる。対話を通じてフィードバックを得ることで、互いの立場や視点の違いを認識することが可能となり、対象とのギャップを埋め、ニーズに沿った価値を実装することが可能となる。無論、フィードバックを得るサイクルとすると必然的に時間を要するが、そこも含めて仕掛けを大学側に構築いただきたいということである。巷では OODA サイクル(Observe, Orient, Decide, Act)ともいわれているが、プロジェクトの履行において対話を含むサイクルを回すことは基本であり、大学院教育を改革し幅広い領域で活躍するグローバルリーダーを育成するうえでサイクルを身につけることは非常に重要である。リーディングプログラムから全学へとリーディングで培った仕掛けを拡張するのはもちろんのこと、その先に産官学連携の中で対話ができるプラットフォームを大学主導で構築することで、2040 年に向けて大学院教育の改革を進めるうえでこれまでのリーディングプログラムの成果からの持続可能性に貢献できるものと考えられる。また、本ディスカッションの結果をパネルディスカッションで発表し、会場からのフィードバックをいただいた。大学院教育の改革に向けて「修了性を含む学生だけでなく、教員や企業人をも巻き込んだ包括的なネットワークの構築と情報の共有が重要である」との他のチームとの共通認識の構築に至り、人材・人脈の重要性が改めて確認された。最後に、GRM での最後の年にリーディングフォーラムへの参加を推薦してくださった先生方、サポートいただいた事務員の皆様、フォーラムで実りある議論を展開してくれた他プログラムの学生たちに感謝の意をします。 理工学研究科 中川 正夫

博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2018 当日の様子



オンサイト・トレーニング: 広島大学合同事業(島根県、インド)

オンサイト・トレーニング (島根県・赤名)

実習日	2018 年 8 月 20 日(月) ～8 月 27 日(月)
場所	島根県飯石郡飯南町赤名(あかな)
テーマ	人口減少社会における自動運転
日程	20-Aug(Mon) 9:00-10:30 講義 1 : イントロダクション 13:30-15:00 講義 2 : 人口減少社会 15:15-16:45 講義 3 : 自動運転技術 21-Aug (Tue) 8:45-10:15 講義 4 : 日本の自動運転技術の社会実装にむけた取り組み 10:30-12:00 講義 5 : アメリカの自動運転技術の社会実装にむけた取り組み 13:30-15:00 講義 6 : ICT/IoT の実用化 15:15-16:45 講義 7 : サービスとしての交通 22-Aug (Wed) 8:45 飯南町へ移動 (広島大学大学会館前集合) AM (移動) 13:30-15:00 講義 8 : 飯南町の地域問題 15:15-16:45 講義 9 : 地方のステークホルダーとその協力 23-Aug (Tue) 8:45-10:15 JA 訪問 10:30-12:00 道の駅と野菜朝市の訪問 13:30-15:00 赤名地区訪問, 自治会長へのインタビュー 15:15-16:45 地域バス運行会社訪問 24-Aug (Fri) 8:45-10:15 講義 10 : 自動運転実証実験について 10:30-16:45 グループワーク (地域調査含む) 25-Aug (Sun) 8:45-12:00 グループワーク 10:30-16:45 プレゼンテーション 27-Aug (Mon) AM 東広島への移動 PM 東広島着 解散



オンサイト・トレーニング 当日資料より抜粋

1 INTRODUCTION

- 1.1 This circular provides general information for the Summer Course 2018.
- 1.2 Information in this circular is current as of Wednesday, 18 July, 2018.

2 VENUE

- 2.1 Pre-lectures will be held at IDEC 204 classroom on Aug 20 and Aug 21. The first lecture starts at 10:30 AM. For accounting procedures for training, we would like to ask all participants to come to IDEC 204.
- 2.2 The Summer Course 2018 will be held in Akana, Iinan-cho, Shimane prefecture from Tuesday 22 August to Saturday 26 August, 2017. The venue changes every day so please check the schedule. The schedule will be provided separately in August.
- 2.3 Internet access is available at the hotels. If you want to use Wi-Fi outside of the hotel, please prepare Travel SIM or pocket Wi-Fi by yourself. Eduroam is available at Hiroshima University Campus. For TUA and Indian Students, HU guest account for internet will be provided on the first day of the lecture.

3 PROGRAM

- 3.1 The program of onsite training is included at [Annex 1](#).

4 ACCOMMODATION

- 4.1 Participants will stay at the following accommodations:

Date	Hotel	Breakfast	Dinner	Facilities
Aug 17-22	HIP	included	—	Free Wi-Fi, Laundry Room, Restaurant
Aug 22-27	Kinukake	included	Included	Free Wi-Fi, Restaurant
Aug 27-28	Toyoko-Inn SaijoEkimae	included	—	Free Wi-Fi, Laundry Room, Restaurant, Water Dispenser

For hotel amenities and other detail please refer following website;

<HIP Hiroshima International Plaza, Higashi-Hiroshima>

<https://hiroshima-hip.or.jp/en/facilities.html>

(Please see attached HIP Information for detail.)

<Hotel Kinukake at Akana, Shimane>

(Amenities: Towels, toothbrush, shampoo, conditioner, soap, Japanese traditional garment)

<http://www.kinukake.jp/12.html> (Available only in Japanese)

<Toyoko Inn Saijo Ekimae, Higashi-Hiroshima>

<https://www.toyoko-inn.com/eng/index.html>

- 4.2 The room assignment is shown in [Annex 3](#).

5 TRANSPORTATION

- 5.1 Meeting place and time for Akana Onsite Training

Please make sure to come to meeting place on time.

[Wednesday, August 22]

Meeting Time	Meeting Place	Group
08:30	Bus stop: "Daigaku Kaikan Mae"(near IDEC)	HU
08:40	HIP	TUA, ILDP DU, HU
11:30	Arrive at Akana Hotel Kinukake	

- 5.2 Venue of dismissal

[Monday, August 27]

Meeting Time	Drop-off locations
9:15	Leave at Akana Hotel Kinukake
11:45	Saijo Station (near Toyoko-Inn Hotel)
12:00	Bus stop "Daigaku Kaikan Mae" (in front of IDEC)

- 5.3 Transportation in Akana is arranged by the program.

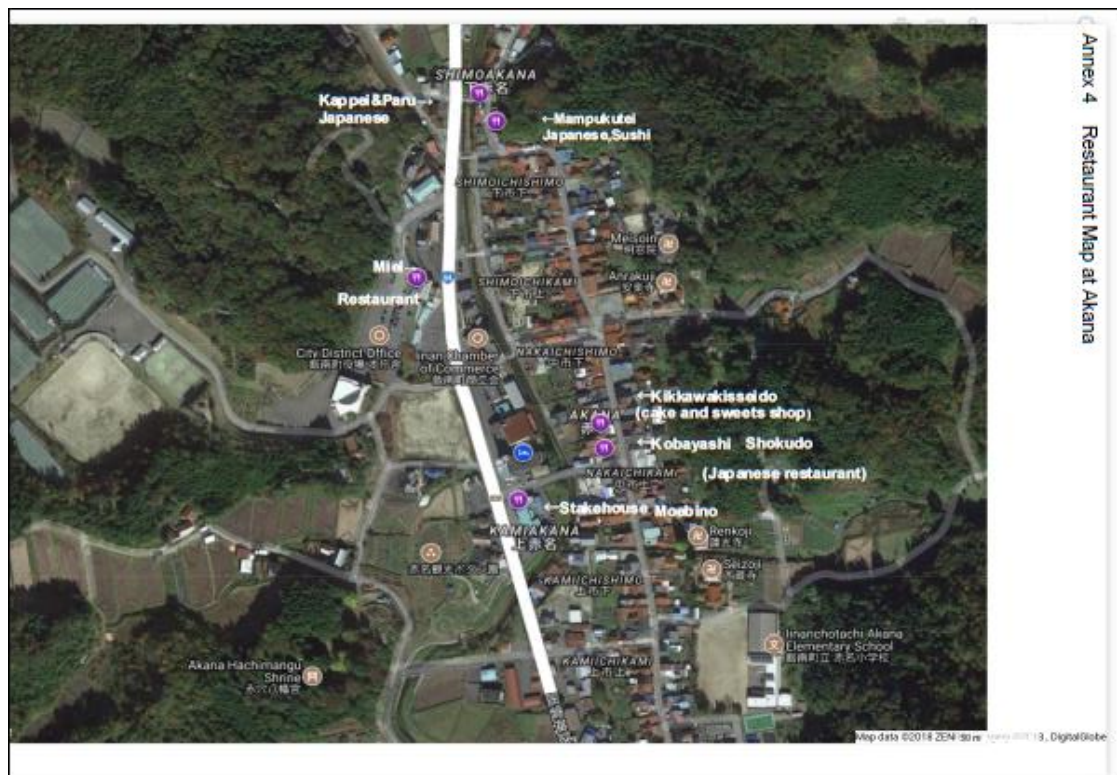
6 MEAL

- 6.1 Breakfast is included in the accommodation fee.
- 6.2 Dinner for excursion from 22 to 25 will be included in the accommodation fee.

<Arranged meal schedule>

Date	Breakfast	Lunch	Dinner
Aug 18-19	HIP restaurant	Buy your own meal	Buy your own meal
Aug 20-21	HIP restaurant	Buy your own meal(*1)	Buy your own meal
Aug 22	HIP restaurant	Buy your own meal	Kinukake Restaurant
Aug 23-26	Kinukake restaurant	Buy your own meal	Kinukake Restaurant
Aug 27	Kinukake restaurant	Buy your own meal	Buy your own meal

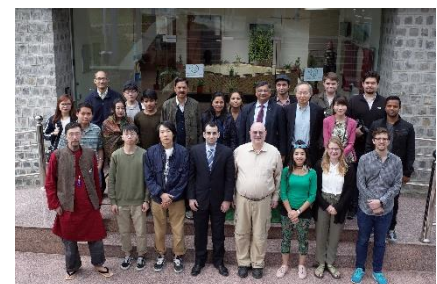
*1 for vegetarian, catering vegetarian curry is available with reservation in advance at HU.



Annex 4 Restaurant Map at Akana

オンサイト・トレーニング（インド）

実習日	2019年3月8日(金)～3月17日(日)	
場所	インド、ウッタラーカンド州	
テーマ	Nature Conservation and Forest Dwellers' Livelihood	
出発前講義	●会場 同志社大学:コモンルーム(志高館、訪知館) 広島大学:IDEC212 2月12日 Introduction (岡本岳之先生) 2月18日 Nature Conservation (中越信和先生) 2月25日 Indian Society & Culture (中空萌先生)	
日程	<3月11日> 09:30 - 10:00 オープニング 10:15 - 11:45 講義1: Nature Conservation in India 13:30 - 15:00 講義2: Van Gujjar 15:15 - 16:45 講義3: Local Entrepreneurship in Rural Area <3月12日> 7:30 ラジャジ国立公園へ出発 10:00 ラジャジ国立公園到着 11:00 - 13:00 講義4: Rajaji National Park 14:00 村へ出発 15:00 - 17:00 村での現地調査 <3月13日> 7:00 - 10:00 現地視察:国立公園(サファリツアー) 10:00 村へ出発 11:00 - 17:00 村での現地調査 <3月14日> 9:00 WIIへ出発 10:00 - 14:00 ハリドワールを訪問 16:00 WII 到着 <3月15日> 10:00 - 11:30 ショートプレゼンテーション 11:30 - 14:00 チームミーティングと昼食 14:00 - 17:00 リフレクションセッション <3月16日> 10:00 WII を出発 11:00 観光と買い物 17:30 デラドゥン空港到着 19:00 デリー空港へ出発	



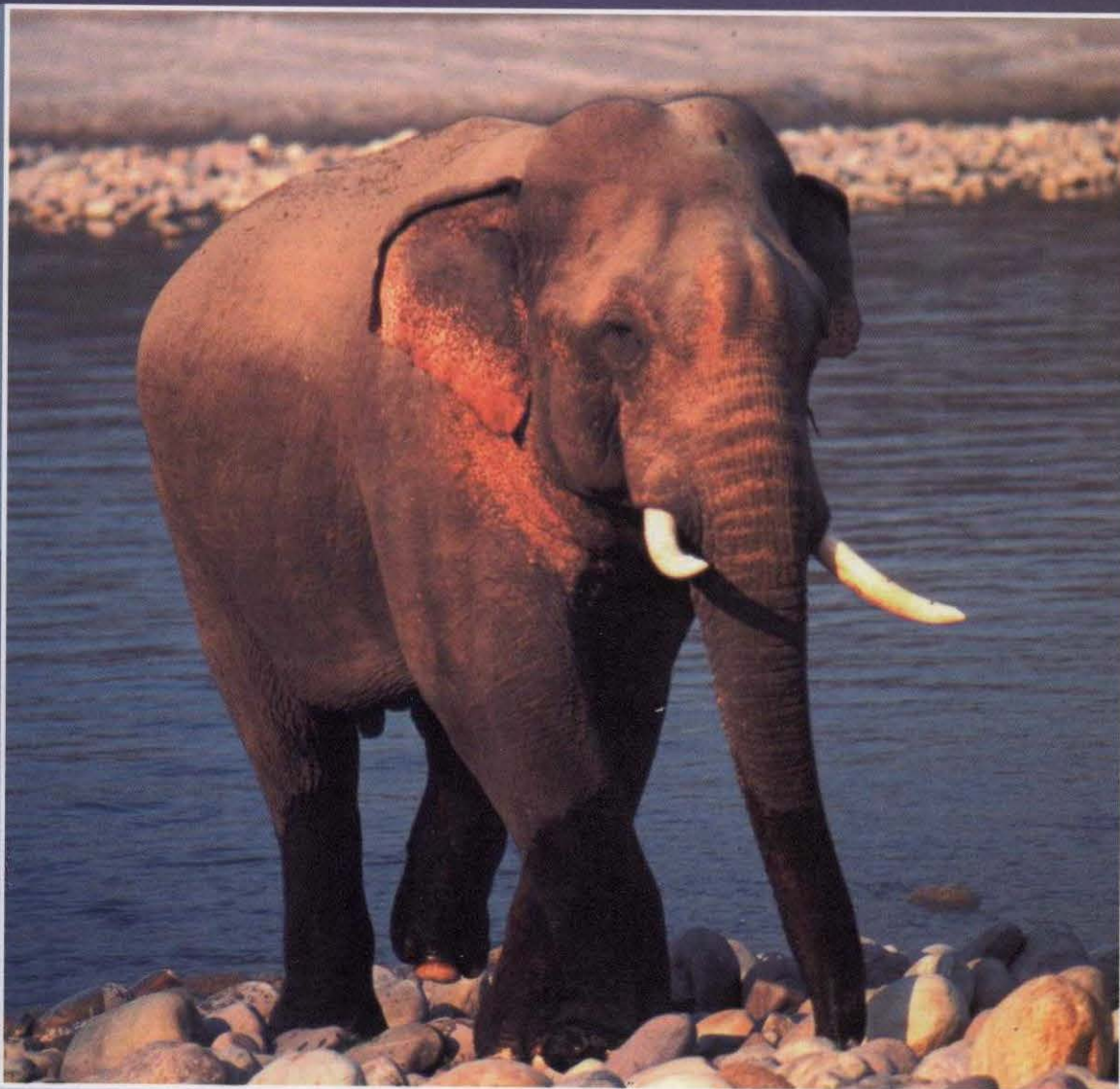
Envis

Wildlife and Protected Areas

Bibliography on Rajaji National Park

ISSN 0972-088X

Vol. 9 2006



भारतीय वन्यजीव संस्थान
Wildlife Institute of India



多文化共生コンソーシアム:フィリピン真空工学会

実習日	2019年3月3日(日)～3月6日(水)	
場所	フィリピン、マニラ大学	
テーマ	Vacuum Society of the Philippines (VSP) topical conference on “Boosting up the Philippines Technology through National Laboratory System”	
日程	3月3日(日) 8:00 Meet up; Prepare your e-ticket, check-in counter of Philippine Airlines 9:55 Departures: Osaka/Kansai International 13:30 Arrives: Manila/Ninoy Aquino International 14:00 Hotel Check-in and orientation 3月4日(月) 8:00 Bus to Ateneo de Manila University 8:30-8:45 Registration 8:45-9:00 Opening Ceremony 9:00-9:30 1st Talk (Prof. Motoi Wada) 9:30-10:00 2nd Talk (Dr. Henry J. Ramos) 10:00-10:30 3rd Talk (Ateneo Rep) 10:30-10:45 Coffee Break 10:45-11:15 4th Talk (Dr. Alexander Mendenilla) 11:15-11:45 5th Talk (DOST representative) 11:45-12:15 6th Talk (Ms. Catherine Joy Dela Cruz) 12:15-13:30 Lunch 13:30-18:00 Selected laboratory tours (ADMU, UP and PNRI) 18:00 Back to the Hotel 3月5日(火) 8:00 Bus to Ateneo de Manila University 9:00-9:15 Registration 9:15-10:30 1st round of selected talks by students 10:30-10:45 Coffee Break 10:45-12:00 2nd round of selected talks by students 12:00-13:00 Lunch 13:00-18:00 National Museum Tour 18:00 Back to the Hotel 3月6日(水) 8:00 Depart to the airport 14:25 Departures: Manila/Ninoy Aquino International 19:15 Arrives: Osaka/Kansai International	





BOOSTING UP THE PHIL. TECHNOLOGY THROUGH NATIONAL LABORATORY SYSTEM

IMPORTANT DATES

- **February 8, 2019**
Abstract Submission Deadline
VSP_TP_2019@mail.doshisha.ac.jp
- **March 4, 2019**
Start of Registration
- **March 4 - 5, 2019**
Conference Proper

Faura Hall Audio Visual
Room (AVR), Ateneo De
Manila University

VENUE

In cooperation with



Follow us at:

<https://www.facebook.com/VacuumPH/>
https://twitter.com/Vacuum_PH

学生の活動報告書

オンサイト・トレーニング(インド)

実施期間:2019 年 3 月 9 日(土)～3/17(日)

行先:ニューデリー、ウッタラーカンド州 (インド)

報告者:**Mohammed Hajjaj** (理工学研究科 情報工学専攻)

In general, the on-site practice training at Uttarakhand, India was to highlight the conflict between nature preservation and development. As well, the program was to promote a business model for surviving the nomadic people who are living around the area. Three on-site visits were for the nomadic people to know more about their situations and to get closer more in their life. Van Gujjar is a nomadic and big Muslims community who are living without roads, and electricity, and no fixed addresses as well. Van Gujjar is transhumance pastoralism in the newly formed state of Uttarakhand. They migrate seasonally between the forests and the pastures on the mountains. Some Van Gujjar people accepted to move to the place that the government prepared with Rajaji National Park establishment. The current situation of Van Gujjar people that they feed buffalo and sell milk, undereducated, building skills retained from ancestors. However, they can make beautiful handicrafts to meet the needs of their lives. They have the skills to apply their ability to new products, so that they can make a lot of beautiful handicrafts and sell

it in the market or for whom interested people in to get money for their livelihood. Van Gujjar people don't have to ability to run any business in the market due to the education and lack of experience to understand more the market and any business skills in the market so that the purpose of the on-site visiting is to run a small startup company to promote the beautiful handicrafts in the market. The small to run a small startup company to promote the beautiful handicrafts in the market. The small startup company can help and hire the Van Gujjar people to make more handicrafts and sell it in local or on the internet. The main sociality goal of the project is to help Van Gujjar to take part and take part in society, and to get more survive for their needs in the daily life by using their skills in making the handicraft. Van Gujjar is a part of the society, and they have the owned culture and style and the needs as well. They have a lack in education, material but they have talented handmade products, so they can take part in the society with their talented products, and speak loudly about their needs for all other societies.



オンサイト実習

実施期間:2018 年 10 月 18 日(木)～10/19(金)

行先:徳島県 神山町 神山町役場・神山バレーサテライトオフィスコンプレックス

報告者:島袋 祐次(理工学研究科 電気電子工学専攻)

今年度の GRM オンサイト実習 II では、ICT を有効活用することにより日本中から多くの移住者の獲得に成功している。徳島県神山町を扱っている。本科目では、3 人で構成されるグループで、問題点を発見し、解決策を提案するところまで、1 セメスターで行う予定である。今回は、町内にある問題点を見つけるための基礎調査を目的として、現地を訪れた。

まず、神山町役場の馬場氏に「まちを将来世代につなぐプログラム」について講義をして頂いた。主に神山町の今後 45 年間で予測される人口減少に対する役場としてのプロジェクトを学んだ。現在進んでいるものとして、“フードハブプロジェクト”が挙げられる。これは、町の将来を担う次世代に農業を知ってもらうために、立ち上げられたプロジェクトである。「地産地食」をスローガンに掲げ、地域で育てた野菜等を利用した食品を通して「食べて」もらうことで得た利益を農業に還元しようという試みである。実際に、我々が昼食で訪れた食堂「かま屋」では、各月の地産率を品目数を元に計算して公表しており、実際に 50%強の地産率を実現していることが分かった。一学年あたりの生徒人数が減少していくことに対応するため、家族での神山町への移住を獲得するために、役場は“集合住宅プロジェクト”を進めており、旧中学寮跡に、地元の大工が地元の手法で地元の杉を利用して移住者(4 人家族を想定)向けの住宅を計 20 戸建てるという内容となっている。初年度は募集を大きく上回る応募があった一方で、次年度は募集戸数を割ってしまう、共有スペースを確保しているが、地元住民からは一部反対の声が出ているなど、このプロジェクトには、課題が多く残っていると感じた。その後神山バレーサテライトオフィスコンプレックスへ

と移動し、原内氏に、「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」を説明して頂いた。この講義では、どのようにして移住者獲得に成功したかに焦点を当て、この町の背景についてを学んだ。地デジ化のタイミングに合わせて、光ファイバー網を徳島県内全域に整備していたことが、移住獲得の鍵となっていることを理解することができた。現在神山町を含め、サテライトオフィス設置の進む徳島県では、ICT を利用することで、ソフトウェア開発・デザイン系の業務・テレビ放送のシステム開発・コールセンターなど、インターネットがあれば、首都圏でなくても同等のパフォーマンスを発揮できる職種の方が多く移住してきている。我々の予想とは製腹に、移住者と昔からの住民間の衝突は日立っておらず、今回の実習中にお会いした方全員が、何不自由なく暮らせており、お互いの関係も良好であるということがわかった。

しかし、こうした移民の火付け役であり、今も中心となって活動しているグリーンバレーの竹内氏によると、昔からの住民の殆どが無関心であり、実際に自分の町にどんな店がどこにあるかも把握しておらず、こうした改革に無関心である人数は町民全体の 90%を占めるという。実際、今回の現地実習で訪れた箇所は全てこうした一連のプロジェクトに賛同した方がいる場所だけであり、町民の 10%側の意見しか聞けていないのが現状である。そこで、来月もう一度現地を訪れる機会があるため、それまでにグループワークとして、この現状を打開するための対策を考え、町民の色々な意見を幅広く調査し、神山町がさらに良い町になれるように貢献していきたいと考えている。



フィールドリサーチ I

実施期間:2018 年 8 月 23 日(木)～9 月 6 日(金)

行先:ドイツ (ベルリン、ドレスデン)

報告者:梅本あすか(グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻)

本フィールドワークは、ベルリンを拠点としているフェミニスト団体 International Women's SpaceBerlin (以下、「IWS Berlin」) への訪問とドレスデンでの PEGIDA によるデモの視察を目的としたものである。報告者は、今年の 1 月に IWS Berlin の共同設立者およびジャーナリストである Denise Garcia Bergt 氏を女性難民をテーマとしたシンポジウムにおけるゲストスピーカーとして招待した。シンポジウム以降もメールでの交流を続け、今回 IWS Berlin 本部への訪問が実現した。訪問前には、Bergt 氏のお宅に招待され、そこで今年 2 月に行われた AFD による「女性のためのマーチ」に関するインタビューを行った。また、インタビューのみならず、日本における女性差別問題に関しての意見交換も行った。IWS Berlin によるミーティングは週に 2 回、月曜日と水曜日の 15 時から 19 時の間に行われている。今回の滞在では、月曜日と水曜日両方のミーティングに参加することができた。月曜日に行われたミーティングは比較的オープンなミーティングであり、メンバーシップが無い人も参加可能である。報告者が訪問した際は、15 人がミーティングに参加しており、その内の 4 人がメンバーシップを持たない人々であった。ミーティングの内容は、グループの活動(12 月に実施されるデモ、現在執筆中の本の構成、SNS 上での広報活動等)についての話し合いやメンバー同士のタスクの確認が中心であった。メンバーシップを持たない者も参加しているため、ミーティング中は雑談も行われた。参加者の多くが移民や難民としてのバックグラウンドを共有していることもあり、雑談の多くは女性差別やレイシズムに関するものであった。この日は、数日前にケムニッツで発生した殺人事件についての話が何度も

言及された。水曜日に行われたミーティングはメンバーシップを有している者のみが参加できるミーティングで、話し合われる内容も法人化の際の手続き、活動資金の調達方法等の団体の運営に直結する内容が中心であった。ベルリンでの滞在後、PEGIDA によるデモを視察するためにドレスデンへ移動した。PEGIDA は毎週月曜日にドレスデンやベルリンといったドイツの大都市でデモを行っている。しかし、今回ばかりは様子が異なっていた。前述したケムニッツでの一件で、PEGIDA をはじめとする極右勢力は、ケムニッツに集合しており PEGIDA は本来月曜日に行われるはずのデモの場所と日程を変更したのである。そのため、報告者がドレスデンに滞在した日にはデモは行われず、その前日と翌日に大規模なデモがケムニッツにて行われた。デモの日程及び場所の変更を知らされた際に行き先をドレスデンではなくケムニッツに変更しようと考えたが、Bergt 氏や IWS Berlin の他のメンバーから命の危険があるとの忠告を受けたため、スケジュールを変更せずにドレスデンへ向かった。ドレスデンでは、本来の目的である PEGIDA によるデモの視察ができなかったため、そのかわりにドイツ連邦軍軍事史博物館を訪問した。今回のフィールドワークでは、Bergt 氏へのインタビューだけでなく、IWS Berlin の他のメンバーともディスカッションを行うことができた。ディスカッションを通して、自身の研究テーマについて今までになかった視点からのアドバイスをもらえたのはとても良い経験になった。PEGIDA によるデモの視察こそできなかったが、今回のフィールドワークで得られたものは多かったと考えている。



フィールドリサーチⅡ

実施期間:2018 年 10 月 30 日(火)~11/15(金)

行先:中国上海市、蘇州市、成都市

報告者:楊慧敏 (社会学研究科 社会福祉学専攻)

報告者は、2018 年 10 月 30 日から 11 月 15 日の 17 日間、中国上海市(10 月 30 日-11 月 3 日)、江蘇省の蘇州市(11 月 4 日-11 月 9 日)および四川省の成都市(11 月 10 日-15 日)の 3 地域の政府機関と高齢者施設においてフィールドリサーチを行った。調査の目的は、中国介護保険制度パイロット事業を展開している地域の介護サービスの供給構造およびその相違を明確にすることである。中国は 2016 年にパイロット事業を展開することを表明し、15 のパイロット地域を指定した。現在、これら 15 地域の地方政府は独自の介護保険制度を構築し、運営に取り組んでいる。ほとんどの地域は要介護認定についてパーセルインデックス指数を採用し、介護給付対象者は要介護度が重度(1 段階)であると認定された被保険者とする中、上記の 3 地域と青島市は、独自の要介護認定基準を設け、要介護度(中・重度または 3 等級)に応じた給付を行っている。青島市は 2012 年に介護保険制度を探索してきたため、先行研究が多くなされてきたが、3 地域の介護保険制度、とくに介護サービスの供給構造(「誰が、どこで、誰から、どのようなサービス、またはどのように受ける」)をめぐる先行研究および実証データが欠けている。

そのため、上海市、蘇州市、成都市の 3 地域を今回の調査地として抽出した。今回の調査対象者は、介護保険制度を推進する政府部門である人力資源社会保障局(部)、(施設・居宅)介護サービスを提供する事業者(上海市 3 箇所、蘇州市 4 箇所、成都市 4 箇所)の責任者および職員である。調査方法としては構造化インタビューと参与観察を用いた。調査時間は、一人当たり 1 時間半から 3 時間である。調査を通して、3 地域の介護サービスの供給について、「保障対象者は、高齢者施設または自宅にて、事業者による提供する介護サービスを受ける」という共通点があるものの、異なる点もあることを明らかになった。第一に、保障対象者、つまり、介護保険の被保険者であり、なお要介護認定結果は給付基準(くわえて年齢または保険料の拠出条件)に満たす者についてである。具体的には、蘇州市では、医療保険に加入する従業員と住民が要介護度の中・重度に認定された者でを指す。上海市では医療保険に加入する従業員と住民が 60 歳以上、要介護認定結果が 2~6 級の被保険者である。成都市医療保険に加入する従業員は、

保険料の拠出条件(2 年間以上連続的に保険料を拠出し、累積年数が 15 年である)を満たし、要介護認定結果の 1~3 級の者となる。第二に、保障対象者が「どこで、誰から、どのようなサービス」を受けるかについてであるが、高齢者施設または自宅にて、事業者の職員(成都市の場合は、家族・近隣など)から、介護サービスを受ける。事業者とは、上海市と成都市は介護サービスを提供する事業者のことを指すが、蘇州市の場合、市の指定を受けた 31 箇所の高齢者施設と 8 箇所の居宅サービス事業者を指す。

3 地域はパイロット事業の指定地域として介護保険制度を制定し、その運営に取り組んでいる。そして、介護保険の試行は、保障対象者の経済負担と介護サービス利用のハードルの軽減などの効果をもたらした。一方、3 地域の介護保険制度には次のような課題が残されている。①独自の財政体制が構築されず、すでに財政問題を抱えている医療保険の財政に依拠しているため、介護保険の展開および持続性が懸念される。②介護サービスの供給量が需要量に下回るため、政府はサービスの量の増加を重視するものの、質を確保・向上する対策を講じていない。③介護給付は定額給付方式を採り、保障対象者の経済負担を軽減できたが、事業者は介護保険の試行を機に利用料または他の費用を引き上げる傾向にある。利用者及びその家族は、費用の引き上げに関する規制・政策を求めているという現状がある。介護保険制度は試段階においてこうした課題が残るが、介護問題を一定程度緩できたという事実もある。今後、パイロット事業の実施を踏まえて広範囲に適用できる制度の枠組みを明確にすることが急務である。



インターンシップ報告書

期間	2019 年 2 月 2 日 (土)～3 月 1 日 (金)
行先	カントリーガーデン(不動産会社、中国)
派遣学生	張文煜 [理工学研究科]
学生報告	Country Garden, located in Foshan , China, is one of the biggest real-estate companies in the world. Over the years, this company developed and evolved. Nowadays, it is a multi-branch corporation, and ranked 273rd place in Forbes' 2017 Ranking of the World's Biggest Public Companies Top 2000. I was fortunate to have this internship opportunity in this world-renowned company on Feb. 2nd and 3rd, 2019, I was given orientation and tour in this big company campus. Then from Feb. 11th the official internship begins. The first week, I was learning the history, brand, culture of Country Garden via its company museum, exhibition, and materials. I was surprised to know that this company not only are they good at constructing buildings, making money, but also are they focusing on charity. They have many projects on giving the fortune back to the society, like rebuilding the infrastructure in old village, or setting up scholarship for poor students. The second week, I was involved in their A.I (artificial intelligence) project, about robot restaurant. I have done some research and composed a case study for this project. The third and last week, I was doing summary and making a presentation for my final presentation..

期間	2018 年 9 月 30 日 (日)～12 月 13 日 (木)
行先	カタール国 ドーハ アルジャジーラ研究センター (AI Jazeera Centre for Studies)
派遣学生	石郷岡宏記 [グローバル・スタディーズ研究科]
学生報告	ペンシルバニア大学が発表している世界で最も権威のあるシンクタンクのランキングで中東地域で 5 位にランクインしている世界的に評価の高いアルジャジーラ研究センター(以下、AJCS)にてリサーチ・インターンに従事する機会を得た。 AJCS はウェブサイト上で 4,5000 文字程度の「Report」、より短い「Policy Brief」というカテゴリで記事を公開している。報告者はそのうち AJCS の研究活動の根幹をなす Report の執筆に従事した。 AJCS はメインのアラビア語版と英語版のページを運用しており、相互に記事を翻訳し掲載したりしているが、基本的にはアラビア語と英語のページは独立して編集されている。その英語版の編集責任者として半年前に AJCS に移籍したムハンマド・シャルカーウィー博士の下で記事を執筆することがインターンの内容であった。筆者が今回のインターンで得た成果は、ひとえにシャルカーウィー氏の下で働き、英文記事の執筆についてその要諦を学んだことにある。 インターン期間中、筆者は米朝非核化について日本の視点から分析するという課題を引き受けた。このテーマについての資料を集め、アウトラインを引き、その構成についてシャルカーウィー氏と議論し、アウトラインを修正しながら記事を執筆する。そうして出来上がったドラフトを一文ずつファクトチェックしながら学術的水準に耐えうる英文に推敲していく、という一連の作業を通じて、アカデミックとシンクタンクの論文執筆上の差異、英文ライティングの要点、分析記事の構成やタイトルに必要なポイント、等を学ぶことができた。 その他にも、AJCS が主催する国際会議やセミナー、公開予定の書籍の査読、研究員との交流等の機会を通じて、シンクタンクでの職務内容やキャリアについて具体的なイメージを掴むことができた。



Reports

The Presumed Trump-Kim 'Denuclearization' Deal: A View from Tokyo

* Koki Ishigohoka



Al Jazeera Centre for Studies
Tel: +974-40158384
jcforstudies@aljazeera.net
<http://studies.aljazeera.net>

25 November 2018

The Presumed Trump-Kim 'Denuclearization' Deal: A View from Tokyo
(アルジャジーラ研究センターウェブサイトより抜粋: <http://studies.aljazeera.net/en/>)

Koki Ishigohoka - Al Jazeera Centre for Studies

ALJAZEERA CENTRE FOR STUDIES

POLICY BRIEFS REPORTS PUBLICATIONS EVENTS DOSSIERS

NEWS
AJCS Ranked Top Think Tank In The Gulf And Fifth In The Middle East And North Africa In 2018
More

EVENTS
AJCS Ranks Number 5 In The Top Think Tanks In Middle East And North Africa In 2018
More

AL JAZEERA FORUM
The 13th Al Jazeera Forum
More

AL MARSAD NEWSLETTER
More

Writer / Koki Ishigohoka

Koki Ishigohoka
Visiting Researcher At Al Jazeera Centre For Studies, And The College Of Humanities And Social Sciences, Hamad Bin Khalifa University. He Is Also A PhD Candidate At Doshisha University Where He Is Completing His Dissertation On Holy War And State.



The Presumed Trump-Kim 'Denuclearization' Deal: A View from Tokyo

ALJAZEERA CENTRE FOR STUDIES

POLICY BRIEFS REPORTS PUBLICATIONS EVENTS DOSSIERS

REPORTS

The Presumed Trump-Kim 'Denuclearization' Deal: A View from Tokyo

Although Trump seems to be leaning toward a second US-DPRK summit, the fundamental impossibilities are embedded in the North Korean position on the denuclearization process. Japan presumes the denuclearization of the Korean Peninsula will be impossible in the future.

Koki Ishigohoka
Tuesday, 27 November 2018 13:48 Mecca

Download as PDF Print



[AFP/GETTY IMAGES]

広報活動

■パンフレット(PDF ファイル)

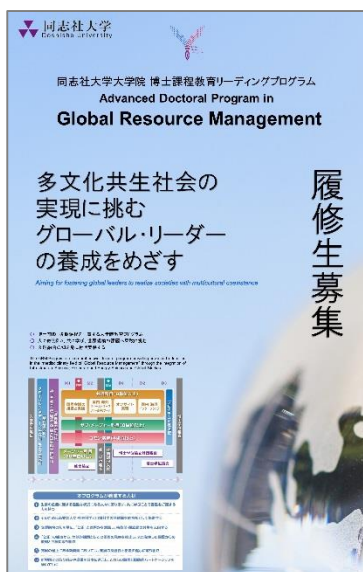
2019 年度の新カリキュラム移行に伴い、内容を全て新しくしたデータ版のパンフレットの日本語版と英語版を発行した。大学院入学式後の入学者全員を対象とした説明会では出席者全員に冊子を配布した。



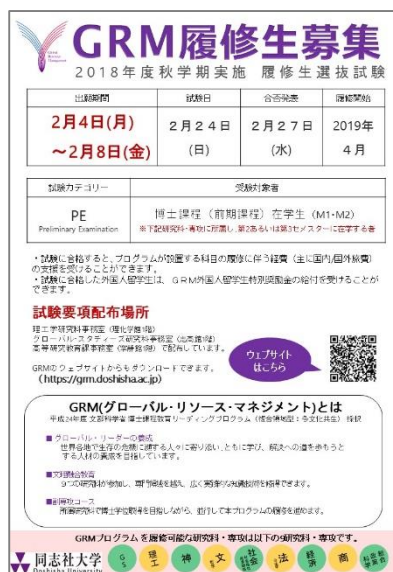
日本語版パンフレット表紙

■ポスター

プログラム説明会や履修生募集、講演等のイベントを学生に周知するため、キャンパス入り口付近などの立看板、および学部・研究科掲示板、GRM コモンルーム、プログラム事務室前にポスターを掲示した。また、学内のカフェスペースに設置しているデジタルサイネージにも案内を表示し広く学生に周知した。



キャンパス立看板ポスター (A0)



履修生募集ポスター (A3)



履修候補生募集ポスター (A3)

GRMコモンルーム設置機器類等一覧表

機器名	設置箇所	設置空間	導入年度
ノートPC Let's note 9台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
超軽量PCケース(12.1型ワイド) 9個	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
Wifiルーター Dis mobile 6台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
HDCAMビデオカメラ メモリーカードレコーダー 5台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
超指向性マイクロホン 5個	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
SDXCメモリーカード64GB 10個	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
三脚 5台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
液晶プロジェクター 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
モバイルスクリーン/80インチ 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
モバイルスクリーン/40インチ 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
赤外線ワイヤレスパワースピーカー 2個	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
赤外線ワイヤレスマイクロホン/ハンド型 4本	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
ケーブルレスプレゼンテーションシステム 2個	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
可搬式講義自動収録システム POWER REC SS 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
デジタルビデオカメラ 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
デスクトップPC ThinkVision 13台	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
REXCEED-M800(ノンリニア動画編集機) 1台	今出川	PC情報検索ルーム	2012
可動式電子黒板(ディスプレイ型) インタラクティブPDP/65インチ 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
ブルーレイディスクプレーヤー 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
海外テレビ衛星放送受信システム プラズマディスプレイ TH-P65ZT5 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
海外テレビ衛星放送受信システム Asiasat3 2機	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
デジタルサイネージ インフォメーションディスプレイ/60インチ 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
吸着ホワイトボード 1000X2000mm 12面	今出川	インフラ実験ルーム	2012
エリートパナボード ワイド86型 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
ボードスクリーン 2台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
スピーカー内蔵型TV会議テーブル 5台	今出川・京田辺	会議ルーム	2012
コモンルーム内無線APアクセスポイント 2台	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
レーザービームプリンタ 4台	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
プラズマディスプレイ65インチ 1台	今出川	会議ルーム	2012
衛星通信モデム Thuraya IP 1台	今出川	インフラ実験ルーム	2012
クランプメーター FLUKE374 1個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
ゼファー 自家発電システムⅡA/パック 一式	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
風力発電機 AIRDOLPHIN 1台	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
太陽電池モジュール 2台	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
バッテリーボックス 4個	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
ハンディオシロスコープ FLUKE 1台	今出川	インフラ実験ルーム	2012
アースオーガ 1個	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
ドリル580mm 1個	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
ハイリフトジャッキ2.8t 1個	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
電気工事工具 8個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
ワイヤストリッパ 8個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
VVF ケーブル 1.6-2c 1巻	今出川	インフラ実験ルーム	2012
VVF ケーブル 1.6-3c 1巻	今出川	インフラ実験ルーム	2012
電器工事器具セット 1個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
テスタ 8個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
携帯型PVパネル 4個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
モバイルバッテリー 4個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
インバータ 4個	今出川	インフラ実験ルーム	2012
HONDA発電機 2台	京田辺	インフラ実験ルーム	2012
電子図書データベース「キーピング国際情報アーカイブ(オンライン版)」	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012

機器名	設置箇所	設置空間	導入年度
電子図書データベース「ブラックウェル・レファレンス・オンライン」	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
電子図書データベース「国際問題総合ポータル」	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
電子図書データベース「IISS武力紛争データベース」	今出川・京田辺	PC情報検索ルーム	2012
学生用TV会議システム 一式(2拠点)	今出川・京田辺	会議ルーム	2013
ホワイトボード兼パーティションボード 3×6型 1台	今出川	会議ルーム	2013
両面ホワイトボード 3×4型 1台	今出川	会議ルーム	2013
両面ホワイトボード 3×6型 1台	今出川	会議ルーム	2013
実験用作業台 2台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
任意波形発生器 2台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
実験用コネクタ 10本 他全98点	今出川	インフラ実験ルーム	2013
マルチ環境計測器 4台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
トップチェスト・ローラーキャビネット 各1個	今出川	インフラ実験ルーム	2013
工具セット44点 1式	今出川	インフラ実験ルーム	2013
直流安定化電源 6台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
デジタルマルチメータ 4台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
ファンクションジェネレータ 4台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
電離真空計 GI-D7 一式	今出川	インフラ実験ルーム	2013
発光測定用ファイバマルチチャンネル分光システム 一式	今出川	インフラ実験ルーム	2013
Wi-Fi アクセスポイント用アンテナ 8本	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
情報漏洩防止用PC環境復元ツール 14台分	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
動画編集用PC専用スピーカー 1台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
図書 会社四季報 業界地図	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
図書 国際協力ガイド	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
図書 週刊東洋経済	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
図書 国際開発ジャーナル	今出川・京田辺	インフラ実験ルーム	2013
糸ハンダ 1.0mm 5巻	今出川	インフラ実験ルーム	2013
ハンダ吸い取り器 1個	今出川	インフラ実験ルーム	2013
マイクロニッパ 4個	今出川	インフラ実験ルーム	2013
AT手回し発電機 10個	今出川	インフラ実験ルーム	2013
太陽光パネル非常用ソーラー電源キット 1式	今出川	インフラ実験ルーム	2013
真空エンジン 1個	今出川	インフラ実験ルーム	2013
ポータブルオシロスコープフルセット 2台	今出川	インフラ実験ルーム	2013
実験器具(はく検電器他) 一式	今出川	インフラ実験ルーム	2013
簡易製本機	今出川	PC情報検索ルーム	2014
多結晶シリコン蒸着装置一式	京田辺	インフラ実験ルーム	2014
学生用TV会議システム多拠点接続ユニット	今出川・京田辺	会議ルーム	2015
映像制作ハンドブック 2冊(EDIUS Pro 6.5入門講座含む)	今出川	PC情報検索ルーム	2016

2018年度

2018年3月発行



大学院博士課程教育リーダーディングプログラム

「グローバル・リソース・マネジメント」

履修要項

同志社大学

目次

I. 「グローバル・リソース・マネジメント」が養成する人材	3
II. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの履修	5
1. GRMプログラムの履修資格	5
2. GRMプログラムの履修方法	6
III. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの特色	7
1. プログラム編成・実施方針	7
IV. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの全体像	9
1. 履修体系	9
2. GRM共通科目	10
3. GRMコモン演習	11
4. GRMサブ・メジャー科目	11
5. 自由科目	11
6. 履修例	12
V. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム修了要件	14
1. 修了必要単位	14
2. プログラム修了認定審査	15
VI. 「グローバル・リソース・マネジメント」科目の履修	16
1. 科目登録、試験、成績	16
2. GRM履修生及び履修候補生の登録最低単位数	16
3. 2016年度から実施した科目履修の変更点	18
4. 科目履修上の注意点	19
5. 2018年度 GRMプログラム開講科目一覧表	21

VII. 経済的支援.....27

- 1. GRM奨励生制度.....27
- 2. 活動経費支援.....27

VIII. GRMコモンルールとモバイル情報機器の貸出.....28

IX. 安全管理・危機管理.....31

- 1. 海外渡航時の注意事項.....31
- 2. 学外演習、実習時の保険.....33

◆ 同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程.....34

◆ プログラム担当教員一覧.....39

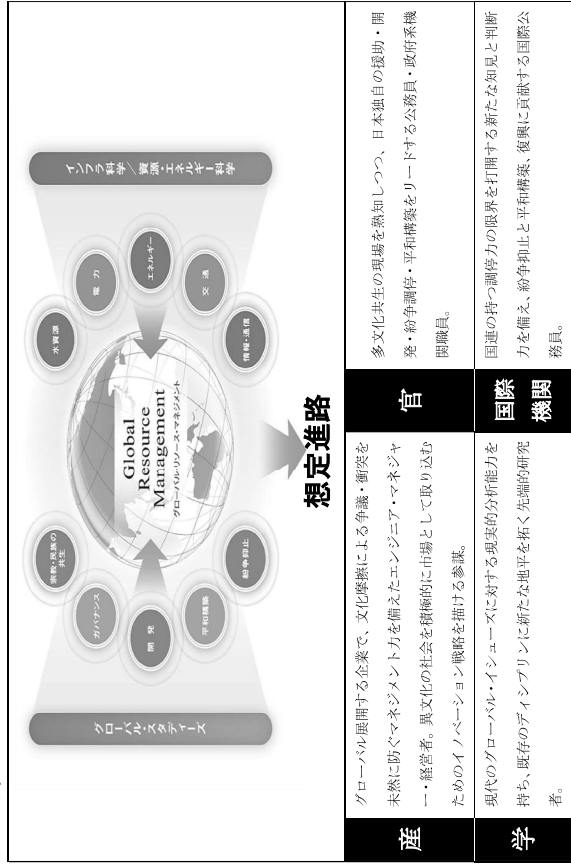
◆ 安全管理講習（2013年8月4日講演）資料.....41

I. 「グローバル・リソース・マネジメント」が養成する人材

同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」(以下、GRMプログラム)は、良心教育を基礎に据え、本学の教育のグローバル化の成果を活かして、諸研究科を横断する新たな大学院教育を創設するという趣旨から構想したものです。GRMプログラムが養成しようとするグローバル・リーダーは、いわゆる「エリート型」リーダーではなく、新興国や最困難国・地域で現地の人々と同じ目線で諸問題の解決にあたることのできる文理融合型グローバル・リーダーであり、創立者新島襄の精神が生きて続けている本学独自の大学院教育プログラムです。

GRMプログラムが対象とする学問分野は、人間生存の基盤である「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と「地球規模の現代的課題群」に関わる人文・社会科学を融合する、多文化共生社会の実現を目指す「グローバル・リソース・マネジメント: Global Resource Management」という新たな学際領域です。グローバル・リソース・マネジメントの本質は、天然資源や人的資源・社会関連資本を適切かつ公正に管理・運用することにより、共通リソースとしてのインフラストラクチャーを持続可能な発展と人々の平和と安寧のために構築・改善していくことにあります。GRMプログラムでは、この認識を基にした実践的文理融合知をベースに、現在の困難を解決し、陥路に陥つてもなお打開策を見いだす能力を兼ね備えた博士学位を有する高度専門職業人を養成するために、自然科学分野における最適化問題を、人文・社会科学の側面も含めて鳥瞰し、国家資源や社会インフラが「人間の創出するシステム」であることを学ぶ学生を本事業で支援します。

GRMプログラムには、自然科学・理工学系から、電力、エネルギー、情報通信、交通、水資源管理の領域、人文・社会科学系からは多文化共生、人間の安全保障、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会学、社会福祉学等を専門領域とする教員が運営に参加し、グローバルに活躍する博士人材を養成します。



・ プログラムアドミッションポリシー

GRMプログラムは多文化共生社会の実現を挑むグローバル・リーダーを養成することを目的として、以下のような学生を求めます。

- ① 災害、紛争、貧困など、生存の危機に頼る過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことによって困難を打開する志をもった学生。
- ② 論理的思考能力、英語及び研究に必要な言語の資料読解力と発信力を有し、科学技術に対する正しい倫理観をもって、社会に貢献することを望む学生。
- ③ 文理融合の知を基に、「公正」のなんたるかを意識しつつ、宗教間、民族間の共生を志向し、地球的課題としての困難の発生を抑制し、また発生した困難からの復興と発展に取り組むことができる学生。
- ④ 困難から脱して、発展の途上にある新興国において発展の特続性と格差の縮小に取り組むことで、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく活動に取り組む意欲を持つ学生。

II. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの履修

1. GRMプログラムの履修資格

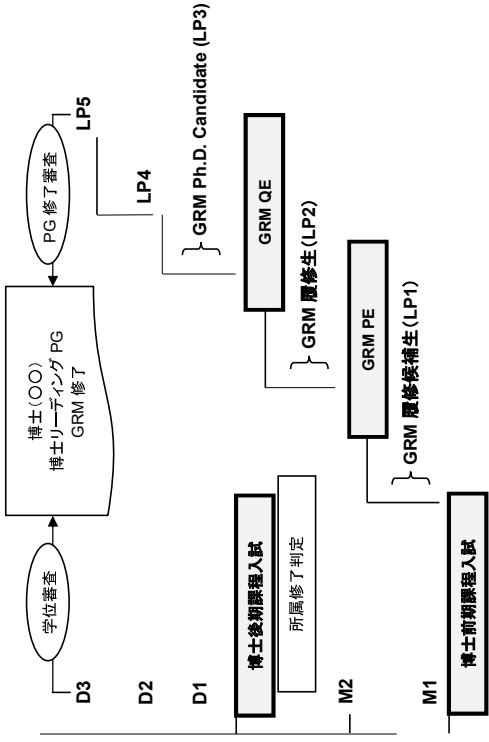
GRMプログラムは、グローバル・リソース・マネジメントの運営に参加する以下の研究科・専攻に所属する学生の皆さんに履修資格があります。

✦ GRMプログラムを履修できる学生の所属研究科・専攻

- ① 神学研究科（神学専攻）
- ② 文学研究科（哲学専攻）
- ③ 社会学研究科（社会福祉学専攻、産業関係学専攻）
- ④ 法学研究科（公法学専攻）
- ⑤ 経済学研究科（理論経済学専攻＜前期課程＞、応用経済学専攻＜前期課程＞、経済政策専攻＜後期課程＞）
- ⑥ 商学研究科（商学専攻）
- ⑦ 総合政策科学研究科（総合政策科学専攻）
- ⑧ グローバル・スタディーズ研究科（グローバル・スタディーズ専攻）
- ⑨ 理工学研究科（情報工学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻、応用化学専攻、数理環境科学専攻）

2. GRMプログラムの履修方法

GRMプログラムと所属研究科・専攻の教育課程の関係の概念図は以下のとおりです。



上記の研究科・専攻に入學し、GRMプログラムの履修を目指す学生を「GRM履修候補生 (LP1)」として選抜します。GRM履修候補生 (LP1) は、所属研究科の履修要項等に従って博士前期課程の教育課程を履修するとともに、本プログラムが開設する独自の科目を履修します。博士前期課程1年次終了時点には、GRMプログラムが実施する Preliminary Examination (PE) を受験します。PE の判定結果により選抜された学生は「GRM履修生 (LP2)」として、GRMプログラムが履修可能となります。さらにGRM履修生は、博士前期課程2年次に行われる所属研究科での修士課程最終試験 (試問会等) と同じ時期に、GRMプログラムの継続履修の可否の審査となる Qualifying Examination (QE) を受験します。QE の判定結果により継続履修が認められたプログラム履修生は、GRM Ph.D. Candidate として所属研究科の博士学位取得とGRMプログラムの修了を目指します。

GRMプログラムの修了認定審査は、所属の研究科・専攻において博士学位論文審査を受ける予定であり、GRMプログラムの修了に必要な単位 (20 単位) を履修した学生に対して行います。GRMプログラムの修了認定審査に合格し、所属研究科における博士学位論文審査に合格した者には、授与する学位記に博士課程教育リーディングプログラム (グローバル・リソース・マネジメント) を修了したことを付記します。

※ PE・QEの詳細は「選抜試験要項」を参照すること。

III. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの特色

1. プログラム編成・実施方針

GRMプログラムでは、所属研究科・専攻において身に付けた知識・技能・態度をベースとした、実践的演習や自治体、国際機関、大学、研究所等における実習により、実地的に俯瞰力と独創力を養うことが出来ます。

またGRMプログラムは、以下の編成・実施方針により、履修生のニーズに合致したテラーモード型教育を提供します。

知識	生存の危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことで困難を打開するためには必要な、人文・社会科学と自然科学の諸領域を統合知として理解できるようになる。
態度	文理融合の知を基に、「公正」とは何かを意識し、宗教間・民族間の共生を志向し、「公正」の観点から、地球的課題としての困難の発生を抑止し、また発生した困難からの復興と発展に取り組むことができるようになる。
技能	発展の途上にある新興国においては、発展の持続性と格差の縮小に取り組むと共に、新興国での取り組みや成果を日本に還元し、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築くことができるようになる。

1 人々と共に切磋琢磨し、困難に挑むGRMリーダーへ

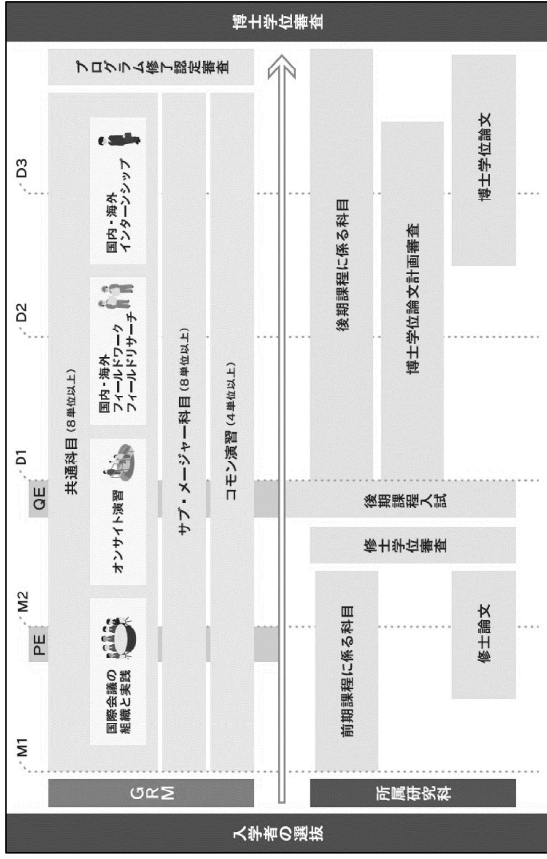


GRMリーダーとは、現地のエネルギーを肌で感じ、あるいは現地の人々の困難に寄り添い、人々と共に活動する中で得た知見と経験を、日本そして世界の発展へとつなげる先導者を意味しています。

2 ターゲットは最困難国、新興国	現在、困難に直面している国・地域から、新興国・地域までをターゲットとしています。 これらの地域で起こる、民族や宗教間の衝突・摩擦の背景には、資源やインフラ（＝リソース）の不均衡があります。このリソースをいかに安定的に分配するか、そして持続可能な発展の可能性を探るか、という観点から、本プログラムは多文化共生の可能性を追求します。 なお、最困難国（地域）としては、本学で平和構築に取り組んできたアフガニスタンとパレスチナのガザ地区に焦点を当てています。また、本学は一種教間の宗教対話について、日本で最高水準の研究実績を誇っています。一種教学研究センターでの実績をもとに、イスラームとの共生を多文化共生社会の課題として重視する点も、プログラムの特色です。 グローバル・リソース・マネジメント 福祉国家の限界 突発的 巨大災害 国家の枠組みを前提にできない現象において多文化共生の可能性を追求することが喫緊の課題 産業構造の閉塞状況 戦争・災害 貧困の格差 宗教・民族に関する紛争 資源の格差 紛争は、しばしば民族や宗教の差異を理由に発生 背景には、資源・エネルギー・インフラの不均等な配分がある 多文化共生の課題群を解決に導く グローバル・リーダーを養成
3 文理融合の知識を身につけ、実践する	資源・エネルギーに関わる高度な自然科学・理工学的的体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学の知の体系を統合した、「文理融合」による博士課程教育プログラムを構築し、提供します。現代世界の閉塞的状況を突破するために、人間生活の物質的基盤（インフラストラクチャー）、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造をめざしています。 ～なぜ、文理融合か～ インフラ整備ができるマネージャー、政策の立案実行ができるエンジニア このプログラムは、博士学位をもち、持続可能な発展と多文化の共生のために、多様な分野で実践できる人材を育てていくことが目標です。 新興国や最困難国においては、人文・社会科学のみ、あるいは理工学のみ知識をもつ人材にできることは限られます。理工学の知識をもちつつマネジメントや社会貢献を考えていかなければ、グローバル展開を果たした企業であっても異文化との共生を実現するリーダーとはいえません。逆に、人文・社会科学について深い知見を有していても、現実の人間社会の基盤となるインフラストラクチャーや資源・エネルギーについての知見をもたなければ、人類社会の安定には寄与できないでしょう。 GRMIは、世界資源の公正な分配と運用という観点から文理融合の教育を実践し、履修生が将来において多文化共生社会の実現に向けて進んでいくためのバックアップをする博士課程一貫教育プログラムです。

IV. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムの全体像

1. 履修体系



GRMプログラムを履修する学生は、メジャーとなる所属研究科・専攻の教育課程で身に付けた専門性をベースに、GRM共通科目、GRMサブ・メジャー科目、GRM共通演習を、博士前期・後期課程の5年間で計画的に履修することになります。

2. GRM共通科目

実践的な演習や、自治体・国際機関などで実習するなど、実地的に俯瞰力と独創力を養います。

	例) テーマ：Responsibility to Protect -Case of Syria 課題設定：シリアを例に、人道的介入の是非を論点と根拠を明確にさせて議論。 ① 学生を国連関係国・国際機関にグループ分けし、それぞれが本課題についての従来の立場を、文獻を通じて理解する。 ② 安保理を舞台にして、論戦を行う。 ③ 各代表団が、resolution案を提示する。 ④ 会議当日は学内外から聴衆を集め、聴衆は各チームと質疑を行い、最終的に、どのチームがもっとも説得的であったかを聴衆の投票によって選ぶ。 ※ Rapporteur（学生）は、各チームの評価と議論全体の総括を行う。 ・ タイプ1：水道・電気エネルギーを中心としたインフラ施設全般について学ぶ 例) 小規模な水力・風力発電プラントを構築する難島を訪問し、住民の期待、行政との関係、環境負荷などの課題について検討する。 ・ タイプ2：多文化共生、新興国や困難国の事情理解、リソース・マネジメントについて学ぶ 例) 宗教多様な地域で平和構築に取り組むNGOの活動に加わり、その地域が抱える課題を深く理解する。
オンサイト実習 国内外の企業、自治体、国際機関などにおいて、特定の課題をもとに実践的な知識と方法を修得する。	
フィールドワーク	限られた研究テーマの中でいかに業務ミッションを遂行するか、そのためにはどのような工夫が必要か、現地の教員・学生との協力をより研究をアクチュアルなものにしていく。
フィールドリサーチ	学生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を研究対象・関連地域にて実施する。教員の指導を受けながら、調査の企画・立案も学生が進めていく。
インターンシップ 国内外の企業・官公庁・自治体・国際機関・NGO・海外の教育研究機関と連携し、マッチングを経て学生を派遣し、実習・実務研修などを行う。 (受け入れ機関が教育の一部分を分担)	例) 国連機関でのインターン 受け入れ可能分野の精査を行い、課題を提示して学生とのマッチングを行つたうえで、国連の業務にインターンとして従事。 (実績：国連工業開発機関 (UNIDO) インターンシップへの参加など) 条件：インターン参加学生は、事前に受け入れ機関からの客員教員の講義（座学）を履修し単位の一部を修得。 評価：受け入れ機関の教育責任者と本学教員で学生のインターンの成果について報告を受け、評価を行う。

3. GRMコモン演習

理工系学生が獲得する

人文・社会科学の知識

融合・協働

人文・社会系学生が獲得する

理工学の知識



4. GRMサブ・メジャー科目

人文・社会科学を主専攻とする学生は、インフラ科学、資源・エネルギー科学の理工学分野を副専攻とし、理工学を主専攻とする学生は、地球規模の課題群など人文・社会科学分野を副専攻とします。

科目群例：基幹科目群、グローバル・スタディーズ科目群、インフラストラクチャー科目群、グローバル・リソース・マネジメント発展科目群

5. 自由科目

GRM修了に必要な単位に算入しません。

科目例：GRM外国語 I ～VI

6. 履修例

科目の開講学期は、年度により異なる場合があります。

① グローバル・スタディーズ研究科生

		M2		D1		D2		D3	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
GRM共通科目 (8単位以上)					GRM 国際会議の組織と実践 I	GRM フューチャート1			
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
GRM共通科目 (4単位)		GRM イノベーション実習 I	GRM イノベーション実習 II						
GRM共通科目 (8単位以上)	グローバル・スタディーズ科目群 <GRM 修了単位への算入不可>	グローバル・スタディーズ研究科の開講科目を履修							
	グローバル・スタディーズ科目群 (6単位以上)	GRM イノベーション基礎実戦	GRM Introductory Science and Engineering		GRM 資源管理論				
	GRM 免服科目群								

② 理工学研究科生

		M2		D1		D2		D3	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
GRM共通科目 (8単位以上)						GRM イノベーション I			
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
GRM共通科目 (4単位)		GRM イノベーション実習 I	GRM イノベーション実習 II						
GRM共通科目 (8単位以上)	グローバル・スタディーズ科目群 (6単位以上)	GRM 社会研究方法論	GRM 共生論		GRM グローバル・スタディーズ基礎理論				
	グローバル・スタディーズ科目群 <GRM 修了単位への算入不可>	理工学研究科の開講科目を履修							
	GRM 免服科目群								

③ 連携研究科 (グローバル・スタディーズ研究科、理工学研究科以外) の学生

		M2		D1		D2		D3	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
GRM共通科目 (8単位以上)			GRM 国際会議の組織と実践 I			GRM フューチャート1			
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
	GRM イノベーション実習 I				GRM イノベーション実習 II				
GRM共通科目 (4単位)			GRM イノベーション実習 I	GRM イノベーション実習 II					
GRM共通科目 (8単位以上)	グローバル・スタディーズ科目群 (6単位以上)	GRM イノベーション基礎実戦	GRM Introductory Science and Engineering		GRM 資源管理論				
	グローバル・スタディーズ科目群 (2単位以上)		GRM 共生論						
	GRM 免服科目群								

V. 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム修了要件

1. 修了必要単位

GRMプログラムを履修する学生は、所属する研究科・専攻の博士前期課程と博士後期課程の修了に必要な単位に加え、下表のとおりGRMプログラムの修了に必要な20単位以上を修得しなければなりません。

- ・ **グローバル・スタディーズ研究科**生は、「インフラストラクチャー科目群」から6単位以上を含み、「GRMサブ・メジャー科目」に必要な8単位以上を修得しなければなりません。ただし、「グローバル・スタディーズ科目群」に置く科目を、この8単位に含めることができます。
- ・ **理工学研究科**生は、「グローバル・スタディーズ科目群」から6単位以上を含み、「GRMサブ・メジャー科目」に必要な8単位以上を修得しなければなりません。ただし、「インフラストラクチャー科目群」に置く科目を、この8単位に含めることができます。
- ・ **連携研究科**（グローバル・スタディーズ研究科・理工学研究科以外）の学生は、「インフラストラクチャー科目群」から6単位以上を含み、「GRMサブ・メジャー科目」に必要な8単位以上を修得しなければなりません。

＜ 注 意 ＞

GRMの教育課程で修めた単位（GRM科目コードで登録した単位）は、所属研究科の学位取得に必要な単位に算入されません。

① グローバル・スタディーズ研究科生

GRM 共通科目	GRM コモン演習	GRM サブ・メジャー科目		
		グローバル・スタディーズ 科目群	インフラストラクチャー 科目群	GRM 発展科目群
		GRM 修了単位への 算入不可	6 単位以上	
8 単位以上	4 単位	8 単位以上		
<u>20 単位以上</u>				

② 理工学研究科生

GRM 共通科目		GRM コモン演習	GRM サブ・メジャー科目		
8 単位以上	4 単位		グローバル・スタディーズ	インフラストラクチャー	GRM 発展科目群
			科目群	科目群	
			6 単位以上	GRM 修了単位への 算入不可	
8 単位以上		4 単位	8 単位以上		
<u>20 単位以上</u>					

③ 連携研究科（グローバル・スタディーズ研究科・理工学研究科以外）の学生

GRM 共通科目	GRM コモン演習	GRM サブ・メジャー科目		
		インフラストラクチャー 科目群	グローバル・スタディーズ 科目群	GRM 発展科目群
		6 単位以上	2 単位以上	
8 単位以上	4 単位	8 単位以上		
<u><u>20 単位以上</u></u>				

2. プログラム修了認定審査

GRMプログラムでは、所属研究科における学位審査に加えてプログラムの修了認定審査を実施します。修了認定審査は、プログラム成果報告書をもとに厳正なる公開審査とします。
内容、日程等の詳細は別途通知します。

VI. 「グローバル・リソース・マネジメント」科目の履修

1. 科目登録、試験、成績

GRMプログラムが設置するGRM共通科目、コモン演習、サブ・メジャー科目は、所属研究科の授業科目と一緒に登録します。またこれらのGRM科目の試験は、通常の学年暦にあわせて実施し、成績評価も通常の研究科科目同様に本学のGPA制度にもとづきます。

< 注 意 >

① 後期課程の学生が、開講科目一覧表の配当年次がM1〜となっている科目を登録する場合、DUETでの登録ができないため、必ず「科目登録期間中」に所属研究科の窓口に出してください。

② 履修中止不可の科目

GRM共通科目のうち、フィールドワークA、B、I、II／フィールドリサーチI、II／インターンシップI、IIは履修中止ができません。止むを得ない理由で履修中止を希望する場合、科目担当者に申し出、指示を仰いでください。

2. GRM履修生及び履修候補生の登録最低単位数

GRM開講科目には、他研究科の開講科目と合同で行われる科目もありますが、ここでのいうGRM科目とは、GRM科目コードで登録履修することを指します。

GRM履修生及び履修候補生のGRM科目の登録最低単位数は以下のとおりです。

※ 履修中止をした場合は登録したものは扱いません。自由科目はここでのいう登録履修単位に含めません。

< 注 意 >

GRM科目コードでの単位修得状況が思わしくない場合は、GRMの履修の意思がないものとし、面談の上、GRMの継続履修を認めないことがあります。

① GRM履修候補生〔前期課程在籍者〕

学期（セメスター）登録最低単位数	2 単位
年間登録最低単位数	4 単位

- i. 科目の開講学期の関係で、年間4単位を登録履修すれば、春・秋どちらかの学期に2単位を登録しないことを可とすることもある。ただし、その学生の単位修得状況などを踏まえGRMが認めた場合に限る。
- ii. 「オンサイト実習I」「コモン演習I」を登録履修することが望ましい。
- iii. 「GRMフィールドリサーチI」「GRMインターンシップI」は登録履修できない。
- iv. 「GRMフィールドワークA、B」は原則として登録履修はできないが、履修を認められているクラスがある（参照：VI. 5. GRMプログラム開講科目一覧表）。ただし、登録履修するには、「オンサイト実習I」を履修済であることを条件とする（未履修の場合は同時履修でも可とする）。

② GRM履修生・PE〔前期課程在籍者〕

学期（セメスター）登録最低単位数	2 単位
年間登録最低単位数	4 単位

- i. GRM科目の修得単位数が10単位を超えている場合は、上記のGRM科目登録は義務づけられない。
- ii. 科目の開講学期の関係で、年間4単位を登録履修すれば、春・秋どちらかの学期に2単位を登録しないことを可とすることもある。ただし、その学生の単位修得状況を踏まえGRMが認めた場合に限る。
- iii. 履修初年度は、「オンサイト実習I」「コモン演習I」を登録履修することが望ましい。
- iv. 「GRMフィールドワークA、B」「GRMフィールドリサーチI」「GRMインターンシップI」を登録履修するには、「オンサイト実習I」を履修済であることを条件とする（未履修の場合は同時履修でも可とする）。

③ GRM履修生・QE〔後期課程在籍者〕

学期（セメスター）登録最低単位数	2 単位
年間登録最低単位数	4 単位

- i. GRM科目の修得単位数が16単位を超えている場合は、上記のGRM科目登録は義務づけられない。
- ii. 科目の開講学期の関係で、年間4単位を登録履修すれば、春・秋どちらかの学期に2単位を登録しないことを可とすることもある。ただし、その学生の単位修得状況などを踏まえGRMが認めた場合に限る。

3. 2016年度から実施した科目履修の変更点

2016年度から、科目の改編、履修条件の追加、科目の新規開設を実施しました。

◇ 「GRM共通科目」

「GRMフィードバックⅠ」「GRMフィードバックⅡ」を改編

対象：博士課程（前期課程）の学生、2016年度以降に博士課程（後期課程）に入学した学生（2015年度以前に博士課程（後期課程）に入学した学生は、対象ではありません）
以下のとおり改編されました。（以下、この項では、科目名の「GRM」は省略します。）

【旧科目】		【新科目】 (2016年度の履修から)
フィードバックⅠ		フィードバックⅠ フィードバックⅡ フィードバックⅢ
フィードバックⅡ（人文社会系クラス） フィードバックⅡ（理工系クラス）		フィードバックⅡ

i. 「フィードバックⅠ」「フィードバックⅡ」「フィードバックⅢ」「フィードバックⅣ」「フィードバックⅤ」のいずれも、「オンサイト実習Ⅰ」（または「オンサイト実習Ⅱ」）を履修済か（未履修の場合は登録中でなければ、科目登録できません）。

ii. 「フィードバックⅥ」は、「フィードバックⅠ」または同内容の「フィードバックⅠ」（後述）を履修済でなければ履修できません。

iii. 各科目1回ずつ履修可。ただし、既単位修得のものを含めて3科目（6単位）までしかプログラム修了に必要な単位として算入しません。

iv. 2015年度までに「フィードバックⅠ」の単位を修得した場合、同内容の「フィードバックⅠ」「フィードバックⅡ」「フィードバックⅢ」は履修することはできません。

「フィードバックⅠ」 2015年度のクラス・担当者		同内容・同科目として扱う新科目
Ⅰ（岩坂）、3（岩坂） 51（峯）、52（小山田）、53（内藤）、54（DANISMAZ）	＝	フィードバックⅠ
Ⅱ（中西）、55（月村）	＝	フィードバックⅡ
Ⅲ（林田ほか）	＝	フィードバックⅢ

表の見方：

【例】2015年度の「フィードバックⅠ」クラスⅠ（岩坂）は「フィードバックⅠ」と同内容・同科目として扱います。

◇ 「GRM共通科目」

「GRMインターンシップⅠ」「GRMインターンシップⅡ」登録のための履修条件追加

対象：博士課程（前期課程）、博士課程（後期課程）の学生全員

いずれも「GRMオンサイト実習Ⅰ」または「GRMオンサイト実習Ⅱ」を履修済か（未履修の場合は）登録中であること、という履修条件を追加します。

◇ 「サブ・メジャー科目」

基幹科目として「GRM共生論」「GRM資源管理論」を開設

対象：博士課程（前期課程）、博士課程（後期課程）の学生全員

サブ・メジャー科目の中に、基幹科目「GRM共生論」「GRM資源管理論」の2科目を開設しました。いずれもGRM履修生に身につけておいてもらいたい内容を扱う科目で、文系・理系を問わず履修生全員が履修することができます。プログラム修了単位には、以下のとおり算入します。

	「GRM共生論」	「GRM資源管理論」
グローバル・スタディーズ研究科生	発展科目群	インフラストラクチャー 科目群
連携研究科の学生		
理工学研究科生	グローバル・スタディーズ 科目群	発展科目群

4. 科目履修上の注意点

(1) 「GRMフィードバックⅠ」「GRMフィードバックⅡ」「GRMフィードバックⅢ」「GRMフィードバックⅣ」

Ⅰ」「GRMフィードバックⅡ」

上記科目は各1回履修可能です。

ただし、GRMプログラムの修了に必要な単位には、**合計6単位まで**しか算入しません。

※ **対象：**博士課程（前期課程）の学生、2016年度以降に博士課程（後期課程）に入学した学生。

（2015年度以前に博士課程（後期課程）に入学した学生は、これらの科目は履修できません。）

(2) 「GRMフィードバックⅢ」

人文社会系クラス、理工系クラスをそれぞれ1回、合計2回まで登録可能です。

ただし、GRMプログラムの修了に必要な単位には、**2単位のみ算入します**。

※ **対象：**2015年度以前に博士課程（後期課程）に入学した学生。休学の有無、入学した時期にかかわらず入学年度に対応します。

(3) 「GRMインターンシップⅡ」

人文社会系クラス、理工系クラスをそれぞれ1回、合計2回まで登録可能です。
ただし、GRMプログラムの修了に必要な単位には、4単位のみしか算入しません。

＜ 注 意 ＞	
① 後期課程の学生が、開講科目一覧表の配当年次がM1〜となっている科目を登録する場合、DUETでの登録ができないため、必ず「科目登録期間中」に所属研究科の窓口に出してください。	
② <u>履修中止不可の科目</u> GRM共通科目のうち、フィールドワークA、B、I、II・フィールドリサーチI、II・インターンシップI、IIは履修中止ができません。止むを得ない理由で履修中止を希望する場合、科目担当者に申し出、指示を仰いでください。	

(4) 「GRMオンサイト実習Ⅱ」、「GRMフィールドワークA」、「GRMフィールドワークB」
上記科目は合同で行われます。
「GRMオンサイト実習Ⅱ」、「GRMフィールドワークA」、「GRMフィールドワークB」は同時に履修登録できません。

(5) 「国際会議の組織と実践Ⅰ」、「国際会議の組織と実践Ⅱ」
上記科目は合同で行われます。
「国際会議の組織と実践Ⅰ」、「国際会議の組織と実践Ⅱ」は同時に履修登録できません。

5. 2018年度) GRMプログラム開講科目一覧表

区 分	文系：理工学研究科生以外が対象 理系：理工学研究科生が対象 共通：全履修生・候補生対象
配当年次	M：前期課程 / D：後期課程
校 地	「今(田)」 「田(今)」：希望者がいる場合、両校地をTV会議システムで接続して実施する科目。()内の校地で受講を希望する場合は、登録前に科目担当者に相談すること。
合否	成績評価は「合」「否」で行われる。
評価科目	
他研究科生	GRM履修生以外の研究科生も履修できる。

＜ 注 意 ＞	
① 後期課程の学生が、開講科目一覧表の配当年次がM1〜となっている科目を登録する場合、DUETでの登録ができないため、必ず「科目登録期間中」に所属研究科の窓口に出してください。	
② <u>履修中止不可の科目</u> GRM共通科目のうち、フィールドワークA、B、I、II・フィールドリサーチI、II・インターンシップI、IIは履修中止ができません。止むを得ない理由で履修中止を希望する場合、科目担当者に申し出、指示を仰いでください。	

区分	年度	科目	科目	クラス	科目名	単 位	担 当 者 (下線：主担当)	校地	集 計 期 間	修 習 期 間	修 習 科 生	備 考		
文系	M1 ～	35600201	000	GRMグローバル社会研究の理論と方法	2	黒田 久枝 中山田 英治 SEIFUREN ADEM	今 (田)	一	英	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は履修できない。		
		35600202	000	GRM開発とガバナンス	2	小山田 英治	今	〇	英	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。		
		35600203	000	GRMグローバル社会の問題	2	SEIFUREN ADEM	今	一	英	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。		
	M1 ～	35600204	000	GRMグローバル時代におけるシティエンシシップ	2	岡野 八代	今	一	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。	
		35600208	000	GRM社会研究方法論	2	SEIFUREN ADEM	田 (今)	一	春	英	一	〇	一	グローバル・スタディーズ研究科生は履修できない。
		35600209	000	GRMグローバル・スタディーズ基礎理論	2	小山田 英治	田	〇	秋	日 英	一	〇	一	他研究科・専攻生の履修可
	M1 ～	35600401	001	GRM特殊講義A (世界の中のイスラーム)	2	MUSTAFA KAMAL PASHA	今	〇	春	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。 【講義日程】7月に集中で行う。
		35600401	003	GRM特殊講義A (プロジェクト・サイクル・マネジメント)	2	黒田 和秀	今	〇	春	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。
		35600401	006	GRM特殊講義A (博士論文のための英語アカデミックライティング)	2	DANIEL ERIC MCKAY	今	一	秋	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。
	M1 ～	35600401	010	GRM特殊講義A (開発政策)	2	黒田 和秀	今	〇	春	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。
		35600401	011	GRM特殊講義A (国連とグローバルガバナンス)	2	中西 久枝	今	一	春	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。
		35600401	012	GRM特殊講義A (イスラームとジェンダー)	2	中西 久枝	今	一	秋	英	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。
文系	M1 ～	35600401	013	GRM特殊講義A (地域開発問題)	2	MICHAEL STEPHEN KUPPERCIT CHRISTOPH DAVID DIEFRIED 林 紳次 小林 舞	今	一	春	英	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。	
		35600301	000	GRM Introductory Science and Engineering	2	和田 元	今	一	春	英	一	〇	一	理工学研究科生は履修できない。
理系	M1 ～	35600302	000	GRM Introductory Infrastructure Engineering	2	岡本 岳之	今	一	秋	英	一	〇	一	理工学研究科生は履修できない。
理系	M1 ～	35600303	000	GRM Electric Circuit Theory	2	松川 真美	田	一	秋	英	一	一	一	理工学研究科生は研究科目として履修。
理系	M1 ～	35600304	000	GRM Energy Resource Management	2	馬場 吉弘	田	一	春	英	一	一	一	理工学研究科生は研究科目として履修。
理系	M1 ～	35600306	000	GRMインフラストラクチャー基礎実験	2	池田 直人	今	一	春	日	一	一	一	通3コマ。理工学研究科生は履修できない。
GRMサロ・メ・シヤ・ト・目 (ア・ン・フ・ラ・ク・ラ・シ・ヤ・ト・目)														
文系	M1 ～	35600501	000	GRMグローバル・リソース・マネージメント特論1 (基礎計算経済学)	2	八木 匡	今	一	日	一	一	一	一	経済学研究科生は研究科目として履修。
		35600502	000	GRMグローバル・リソース・マネージメント特論2 (文化政策)	2	佐々木 雅幸	今	一	日	一	一	一	社会学研究科生は履修できない。	
		35600503	000	GRM人間地のフロンティア	2	黒 陽一	今	一	英	一	一	一	隔年で開講 グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。	
	M1 ～	35600504	000	GRAMアジア経済論	2	黒 善平	今	一	日	一	一	一	グローバル・スタディーズ研究科生は研究科目として履修。	
		35600601	000	GRM Advanced Infrastructure Engineering	2	長岡 直人	田	一	英	一	一	一	理工学研究科生は研究科目として履修。	
		35600603	000	GRM Earth and Planetary Environment Science	2	林田 明	今	〇	英	一	一	一	理工学研究科生は履修できない。	
	M1 ～	35600701	000	グローバル・リソース・マネージメント特論1 (電力工学)	2	馬場 吉弘	田	一	英	一	一	一	他研究科・専攻生の履修可	
		35600702	000	グローバル・リソース・マネージメント特論2 (宗教間の共生と政治)	2	小原 克博	今	一	日 英	一	一	一	理工学研究科生は履修できない。	
		35600703	000	グローバル・リソース・マネージメント特論3 (共生のための倫理)	2	林 克樹	今	一	日	一	一	一	文学研究科生は研究科目として履修。	
	M1 ～	35600704	000	グローバル・リソース・マネージメント特論4 (共生のための労働政策)	2	浦坂 純子	今	一	日	一	一	一	社会学研究科生は履修できない。	
		35600707	000	グローバル・リソース・マネージメント特論7 (文化政策)	2	佐々木 雅幸	今	一	日	一	一	一	経済学研究科生は研究科目として履修。	
		35600708	000	グローバル・リソース・マネージメント特論8 (共生のための公共経済学)	2	八木 匡	今	一	日 英	一	一	一	経済学研究科生は研究科目として履修。	

区分	年度	科目	クラス	科目名	単位	担当者 (下義：主担当)	校地	集計 年度	所属 学部	所属 科別	備考
文系	H1 ～	35600716	000	グローバル・リソース・マネジ メント特論16 (社会保険研 究)	4	堀橋 孝文	今	通年	—	—	通年。社会学研究科生は研究科科 目として履修。
		35600717	000	グローバル・リソース・マネジ メント特論17 (学生のための 福祉表現思想)	4	水原 浩信	今	春	—	—	通2コマ。社会学研究科生は研究 科科目として履修。
	H1 ～	35600721	000	GRM特論21 (終極論・原子力と人間社会)	2	岡野 八代	今	春	—	○	グローバル・スタディーズ研究科 生は研究科科目として履修。 他研究科・専攻生の履修可。
	H1 ～	35600722	000	GRM特論22 (「様々な世界」への戦略と実 践)	2	岡野 八代	今	秋	—	○	グローバル・スタディーズ研究科 生は研究科科目として履修。 他研究科・専攻生の履修可。
	H1 ～	35600724	000	GRM特論24 (経営管理論)	2	鈴木 良尚	今	春	—	—	商学研究科生は研究科科目として 履修。

VII. 経済的支援

1. GRM奨励生制度

詳細は最新の「履修生特別奨励金 給付要項」を参照してください。

2. 活動経費支援

GRMプログラムでは、文部科学省の支援を受けて、GRMプログラムの履修を認められた学生に支援をしております。

一部の例外を除いて、GRM科目コード（GRM履修要項の開講科目一覧表に明記されている科目コード）で科目登録することが必要で、他研究科の開講科目と合同で行われる科目であってもGRM科目コードで登録履修しない場合は支援の対象外です。

VIII. GRMコモンスルームとモバイル情報機器の貸出

GRMプログラムの実施環境の充実化を図るため、今出川校地烏丸キャンパス志高館2階及び京田辺校地訪知館1階にGRMコモンスルームを設置しています。これらの部屋にはテレビ会議システム、電子黒板、海外衛星放送視聴機器、PC、動画編集機や人系学生用のインフラ実験工具などを備えています。GRMコモンスルームに設置されているテレビ会議システムを利用し、今出川・京田辺の2校地を結んでの遠隔講義も実施します。また、GRMプログラムの講演会の一部は、動画で収録し、履修生向けライブラリとして提供しています。

フィールドワークの実習などで、ノートPCやビデオカメラの機器を必要とする場合は、貸出も行っています。

以下、「事務室」は、今出川校地 グローバル・スタディーズ研究科事務室、京田辺校地 理工学研究科事務室を指します。

(1) GRMコモンスルームの利用対象者

- ・ GRM履修生、GRM履修候補生、及び関係教職員とします。

ただし、これ以外に利用を許可することがあります。

(2) 利用日・利用時間

- ・ 原則として、事務取扱のある 月～金 今出川校地、京田辺校地で利用時間が異なりますので、別途案内します。
- ・ 土・日・祝日など事務取扱のない日の利用については、事前に事務室に相談してください。
- ・ コモンスルームで授業をすることがあります。その時間は利用できません。また、講演会等開催中には利用を制限する場合があります。

(3) コモンスルーム内での禁止事項

- ・ 飲食行為 機材保全等を考慮し、厳禁とします。
- ・ 迷惑行為 大声での談笑や他の利用者の迷惑となる行為は厳に慎み、節度を持って利用してください。



(4) パソコンを利用する際の注意事項

- ・ パソコンは、GRM履修生等複数の利用者が共用するものです。勝手な判断でソフトウェア等をインストールしてはいけません。また、画面その他の環境設定などのシステムに関する設定についても、勝手に変更してはいけません。
- ・ さらに、使用したデータ等をパソコンのディスク上に保存することも情報管理の面から認めていません。利用後は、必ず利用前と同じ状態に戻して終了するようにしてください。
- ・ データ等がディスクに残されていた場合は、環境復元のために管理者が機械的にデータの消去等を行いますので、必要なファイルが消去されても責任を負う事はできません。
- ・ 貸出用ノートパソコンについても同様の扱いとします。
- ・ ノートパソコンに、個人情報等を保管したまま持ち歩いてはいけません。どうしてもデータファイルを持ち運ぶ必要がある場合は、暗号化等のセキュリティ対策を施した上で、USBメモリ等に格納し、厳重に管理してください。
- ・ もし、データファイル等をディスクに残した場合、環境復元のために管理者が機械的にデータの消去等を行いますので、必要なファイルが消去されても責任を負う事はできません。
- ・ 利用後は利用前と同様の状態で返却することを原則とします。

(5) プリンターを利用する際の注意事項

- ・ GRM履修生はコモンスルーム内のプリンターを使って、自由に出力することが可能です。環境保護の観点からも、画面で確認するなどプリントアウトの枚数を出来る限り減らすようにしてください。
- ・ また、大量の出力は遠慮ください。
- ・ 用紙・トナー切れの場合は、事務室に申し出てください。ただし、すぐに対応できるとは限りませんので、あらかじめご了承ください。また、用紙・トナーの補給を頻繁に行うことはできません。

(6) 電子黒板、テレビ会議システム、インタラクティブ・ホワイトボード、赤外線ワイヤレスマイク等、プレゼンテーション設備

- ・ 利用に際して、機器の接続や各種設定を変更した場合、利用終了後には必ず、元の状態に戻してください。特にケーブルの結線を変えたままにすると、次の利用者が使えない状態になります。元に戻す自信がない場合は、結線や設定を変更してはいけません。
- ・ 電子黒板（ホワイトとブラックの各1台）を利用する際は、指定されたパソコンを利用してください。

(7) 貸出機器

- ・ 貸出機器については、事務室開室時間中に貸出を受けてください。
- ・ 貸出は基本的には、1日単位とし、複数日に利用が及ぶ場合は、できるだけ早い段階で、予約の手続きを行っておいってください。また、学外に機器を持ち出す場合はその管理、及び紛失、破損等に十分に注意してください。
- ・ 貸出機器を紛失、破損した場合は、理由の如何に関わらず、貸出を受けた本人に対して、代替機器の購入に掛かる費用を請求します。
- ・ 貸出時、返却時それぞれにおいて、カメラ、ノートパソコン等の機器本体だけでなく、ACアダプタ、増設バッテリー、メモリ、ケーブルその他の付属品、周辺機器についても注意を払って管理してください。返却時にそれら付属品を紛失した場合も、同様にそれら代替機器の費用を請求します。
- ・ カメラ、ノートパソコン等、充電が必要な機器を利用する場合には、事前に貸出を受け、利用までには必要な充電を終えておいってください。
- ・ ビデオカメラの画像保存に必要なSDメモリは、使用者自身が用意してください。ビデオカメラ本体に保存した画像ファイルについては、機械的に消去しますので注意してください。

IX. 安全管理・危機管理

1. 海外渡航時の注意事項

(1) 渡航前：事前情報収集

- ① 外務省の海外安全情報のウェブサイト（以下URL参照）を必ず確認してください。
 - ・ **外務省）海外安全情報ホームページ**：<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

補足：このサイトに掲載されている一国に関する危険情報、スボット情報、広域情報を、有機的に組み合わせて理解することが必要です。「危険情報」では、国を単位に様々な角度から収集した情報が掲載されています。「スボット情報」は、突発的に発生する武装勢力の攻撃情報なども掲載されています。さらには「広域情報」として、鳥インフルエンザのように国境を越えて対応が求められる情報も掲載されています。

GRMプログラムの困難に直面している国・地域のターゲットの一つである、イスラームのように世界中に信徒がいる場合、どこかの国で信仰を侮辱したりすると、そのリアクションが世界中で発生する可能性がありますので、国を超えた広域での安全情報の確認が必要になります。外務省のサイトはこれらの広域情報にも対応していますので、渡航前に必ず確認してください。

- ② 渡航期間に合わせて、以下を参照の上、外務省の「たびレジ」、或いは「在留届」に必ず登録してください。

日本の在外公館が「たびレジ」、或いは「在留届」登録者に安全情報をお知らせ、緊急事態発生時の安否確認を行うため、**必ず登録が必要**です。

補足：3ヶ月未満の渡航＝たびレジ、3ヶ月以上の渡航＝在留届

- ・ **外務省）たびレジ・在留届登録ホームページ**：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

(2) 渡航前：事前手続き ①

フィールドリサーチ、フィールドワーク、インターンシップなどの実習地が日本国外の場合は、外務省の渡航情報（危険情報）を確認してください。

- ・ 「レベル1：十分注意してください」「レベル2：不要不急の渡航は止めてください」が出ている場合、科目担当者、指導教員に報告、渡航の必要性を含め相談、指示を仰いでください。その上で、渡航すると決めた場合は、所属研究科に申し出てください。渡航の許可を得られた場合のみ、渡航可とします。
- ・ 「レベル3：渡航は止めてください」「レベル4：速退してください。渡航は止めてください」が出ている場合、渡航は認めません。計画を中止、変更してください。計画時から出発前までに情勢が変わり、渡航情報も変更される場合があります。出発前まで、都度確認し、上記手続を怠らないようにしてください。

(3) 渡航前：事前手続き ②

海外で活動を行う場合は、必ず海外旅行傷害保険に加入してください。海外旅行傷害保険の加入確認をもって、海外渡航を認めます。なお、万一治療・救助などが必要になった場合、莫大な費用がかかりますので、治療・救済費用無制限の保険の加入をおすすめします。

※ 同志社エンタープライズ（TEL：075-251-3027 <http://www.doshisha-ep.co.jp/>）で各種保険を扱っています（京田辺校地の研究科生については郵送等で手続も可）。

(4) 渡航中

地方都市や農村、山岳地域のように通信インフラが整っていない地域では、日本の携帯電話をローミングすることによって、最新情報を知ることが可能となります。常に最新の技術動向を知るのも、GRMプログラムを履修する学生の必須事項です。

海外渡航時の注意については、上村司氏（外務省領事局長〔当時〕）の講演（2013年8月4日 於：同志社大学）資料を、巻末に付していますので、あわせて目を通し、確実に理解するようつとめてください。

2. 学外演習、実習時の保険

本学では、ご参考までに入学時点で以下の保険は全学生を対象として自動加入しています。

- (1) 学生教育研究災害傷害保険（自動加入）
キャンパス内での各種の事故、通学中等の事故、留学中の事故（私生活上の事故は適用外）による傷害等が補償対象となります。
- (2) 学研災付帯賠償責任保険
学外演習、実習時に他人にケガをさせたり、他人の財物（装置等）を損壊したことにより破る法律上の損害賠償を補償するものです。
GRMプログラム履修中に、事故等が生じた場合は、所属研究科及び学生生活課に連絡して必要な手続きを行ってください。
詳細：http://www.doshisha.ac.jp/students/_l_support/insurance.html

同志社大学大学院博士課程教育リーダーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程

(趣旨)
第1条 この規程は、同志社大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第6条の7に基づき実施する博士課程教育リーダーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「プログラム」という。）に関し、必要な事項を定める。

(人材養成目的)
第2条 プログラムは、グローバル・リソース・マネジメントの木質を、天然資源や人的資源、社会関連資本を適切かつ公正に管理、運営することにより、共通リソースとしてインフラストラクチャーを持続可能な発展と人々の安寧と平和のために構築、改善していくことと捉え、文理融合型の教育プログラムの提供を通じて、自然科学分野における最適化問題を社会科学の側面も含めて鳥瞰し、国家資源や社会インフラが「人間が創出するシステム」であることを理解して現在の困難を解決し、将来に生じうる隘路を事前に察知した対策を講じることのできる人材を養成することを目的とする。

(プログラムの編成)
第3条 プログラムは、大学院学則第3条第1項第1号に定める区分制博士課程の研究科・専攻（以下「研究科・専攻」という。）の連携による、博士課程の前期課程と博士課程の後期課程を一貫した教育課程とする。
第4条 プログラムは、主となる研究科・専攻（以下「基幹研究科・専攻」という。）を定めて、編成する。
第5条 前項の基幹研究科・専攻以外の研究科・専攻は、連携研究科・専攻とする。
第6条 基幹研究科・専攻と連携研究科・専攻は、次のとおりとする。

基幹研究科・専攻
グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、理工学研究科数理環境科学専攻
連携研究科・専攻
神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、社会科学研究科社会福祉学専攻、社会科学研究科産業関係学専攻、法学研究科公法専攻、経済学研究科経済政策専攻、経済学研究科理論経済学専攻、経済学研究科応用経済学専攻、商学研究科商学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻
(実施組織等)

第4条 プログラムは、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻に所属する専任教員（以下「プログラム担当者」という。）により実施する。
第5条 プログラムは、プログラム責任者を置き、プログラムの実施業務を統括する。
第6条 プログラムは、プログラムの企画、運営を統括するプログラム・コーディネーターを置くことができる。
第7条 プログラム責任者は、プログラム担当者の中から学長が委嘱する。
第8条 プログラム・コーディネーターは、プログラム担当者の中からプログラム責任者が委嘱する。
第9条 プログラムは、高等教育機構高等教育院の他に置くプログラム委員会が運営する。
第10条 プログラム委員会は、プログラム担当者により構成し、プログラム責任者を委員長とする。ただし、第5項のプログラム・コーディネーターを委嘱した場合は、プログラム・コーディネーターを委員長とすることができる。
第11条 プログラム委員会が取り扱う事項については、別に定める。

(選抜定員)
第5条 プログラムの履修生（以下「履修生」という。）の選抜定員は、15名とする。
(標準履修年限)
第6条 プログラムの標準履修年限は、5年とする。
(履修対象者)
第7条 プログラムを履修することができる者は、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻に所属する学生とする。
(選抜試験)
第8条 プログラムの履修を希望する者に対しては、プレリミナリー試験（以下「P E」という。）を行う。
第9条 P Eの実施にあたっては、アドミッションポリシー、募集人数、出願資格、出願手続、試験期日、試験方法、試験場、合格発表日等出願に必要な事項を記載したプログラム選抜試験実施要項等を発表するものとする。
第10条 履修生の選抜は、前項のP Eの結果に基づき、プログラム委員会が決定する。
第11条 P Eの試験料は、徴収しない。
(教育課程及び履修方法)
第9条 プログラムの教育課程及び履修方法は、別表のとおりとする。
(博士論文研究基礎力審査)
第10条 履修生に対しては、博士課程の前期課程の第2年次終了時に博士論文研究基礎力審査（クォリファイニング試験）（以下「Q E」という。）を行い、プログラムの継続履修の可否を決定する。

第11条 履修生に必要事項は、別に定める。
第12条 Q Eの試験料は、徴収しない。
(プログラム編入生)

第11条 プログラムは、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻以外の博士課程の後期課程から、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻の博士課程の後期課程に入学する者のうち、プログラムの履修を強く望む者を、プログラム編入生として若干名を受け入れることができる。
第12条 プログラム編入生は、別に定める個別資格審査のうえ、Q Eにより選抜する。
(プログラム修了審査)
第8条 第9条の規定に基づき、所定の単位を修得済みであり、かつ、同志社大学学位規程（以下「学位規程」という。）第8条第1項第1号に基づき博士論文の審査を請求した者に対してプログラム修了審査を行う。

第9条 プログラム修了審査は、別に定める必要事項は、別に定める。
(修了)
第10条 履修生が次の各号の要件をすべて満たした場合は、プログラム責任者はプログラム委員会の議を経て、プログラムの修了を認定する。
(1) 所属研究科・専攻の所定の課程を修了すること。
(2) 第9条の規定に基づき、所定の単位を修得していること。
(3) 前条の規定に基づき、プログラム修了審査に合格すること。

(履修生特別奨励金)
第14条 学長は、履修生に履修生特別奨励金を支給することができる。
第15条 履修生特別奨励金に關して必要な事項は、別に定める。

(退学、休学等)
第15条 履修生が退学等により本学の学生でなくなつた場合は、プログラムの履修資格を失うものとする。
第16条 履修生が休学した場合は、休学期間中はプログラムを履修することができない。
第17条 履修生がプログラムの履修の辞退を希望する場合は、プログラム責任者に願ひ出て、許可を得なければならない。

(授業料)
第16条 プログラムの授業料は、徴収しない。
(学位記)
第17条 学位規程第11条第3項に基づき、プログラムを修了した学生に授与する学位記の様式は、別記のとおりとする。
(雜則)
第18条 この規程に定めるもののほか、プログラム実施に關し必要な事項は、プログラム委員会が定める。
(事務)
第19条 この規程に關する事務は、高等教育機構高等研究教育課が取り扱う。
(規程の改廃)
第20条 この規程の改廃は、同志社大学高等教育機構委員会の議を経て、大学評議會において行う。

附 則
この規程は、2016年4月1日から施行する。

別表			
教育課程	履修単位		
グローバル・リソース・マネジメント共通科目群			
GRM国際会議の組織と実践Ⅰ	2		グローバル・リソース・マネジメント発展科目群
GRM国際会議の組織と実践Ⅱ	2		GRM Ethics of Life Science and Technology in a Globalized Society
GRMフィードバックA	2		GRM Human Rights, Human Security and Humanitarian Intervention
GRMフィードバックB	2		GRM Frontiers in Human Development
GRMフィードバックCⅠ	2		GRM Economics of Asia
GRMフィードバックCⅡ	2		GRM Advanced Infrastructure Engineering
GRMフィードバックCⅢ	2		GRM Advanced Environmental Systems Engineering
GRMフィードバックCⅣ	2		GRM Earth and Planetary Environment Science
GRMフィードバックCⅤ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論1
GRMフィードバックCⅥ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論2
GRMフィードバックCⅦ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論3
GRMフィードバックCⅧ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論4
GRMフィードバックCⅨ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論5
GRMフィードバックCⅩ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論6
GRMフィードバックCⅪ	4		グローバル・リソース・マネジメント特論7
GRMフィードバックCⅫ			グローバル・リソース・マネジメント特論8
GRMフィードバックCⅬ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論9
GRMフィードバックCⅭ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論10
GRMフィードバックCⅮ			グローバル・リソース・マネジメント特論11
GRMフィードバックCⅯ			グローバル・リソース・マネジメント特論12
GRMフィードバックCⅰ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論13
GRMフィードバックCⅱ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論14
GRMフィードバックCⅲ			グローバル・リソース・マネジメント特論15
GRMフィードバックCⅴ			グローバル・リソース・マネジメント特論16
GRMフィードバックCⅵ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論17
GRMフィードバックCⅶ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論18
GRMフィードバックCⅷ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論19
GRMフィードバックCⅸ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論20
GRMフィードバックCⅹ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論21
GRMフィードバックCⅺ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論22
GRMフィードバックCⅻ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論23
GRMフィードバックCⅼ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論24
GRMフィードバックCⅽ	2		グローバル・リソース・マネジメント特論25
GRMフィードバックCⅾ			グローバル・リソース・マネジメント特論26
グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群			
基礎科目群			
GRM共生論			
GRM資源管理論			
グローバル・スタディーズ科目群			
GRM Theory and Methods in Global Society Studies	2		
GRM Good Governance and Development	2		
GRM Issues of Global Society	2		
GRM Citizenship in the Global Age	2		
GRM United Nations and Global Society	2		
GRM Some Issues on Peace Building	2		
GRM Japanese Path to Modernization and Development	2		
GRM Research Methods of Social Studies	2		
GRM Introductory Global Studies	2		
GRM特殊講義A	2		
インフラストラクチャー科目群			
GRM Introductory Science and Engineering	2		
GRM Introductory Infrastructure Engineering	2		
GRM Electric Circuit Theory	2		
GRM Energy Resource Management	2		
GRM Water Resource Management	2		
GRM特殊講義B	2		
GRMインフラストラクチャー基礎実験	2		

プログラム担当教員一覧

自由科目	
GRM外国語Ⅰ	1
GRM外国語Ⅱ	1
GRM外国語Ⅲ	1
GRM外国語Ⅳ	1
GRM外国語Ⅴ	1
GRM外国語Ⅵ	1
自由科目は、グローバル・リソース・マネジメント修了に必要な単位に算入しない。	

履修方法

- ① グローバル・スタディーズ研究科に所属する学生
同志社大学大学院学則別表Ⅱ（以下「大学院学則別表Ⅱ」という。）の研究科・専攻に定められた履修方法に加えて、グローバル・リソース・マネジメント共通科目群から8単位以上、「GRMコモン演習Ⅰ、Ⅱ」4単位、グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群のインフラストラクチャー科目群及びグローバル・リソース・マネジメント発展科目群から、インフラストラクチャー科目群の6単位以上を含む8単位以上、合計20単位以上を履修すること。
- グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群の基幹科目群の「GRM共生論」はグローバル・リソース・マネジメント発展科目群、「GRM資源管理論」はインフラストラクチャー科目群の単位として算入する。
- ② 理工学研究科に所属する学生
大学院学則別表Ⅱの研究科・専攻に定められた履修方法に加えて、グローバル・リソース・マネジメント共通科目群から8単位以上、「GRMコモン演習Ⅰ、Ⅱ」4単位、グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群のグローバル・スタディーズ科目群、グローバル・リソース・マネジメント発展科目群から8単位以上、合計20単位以上を履修すること。
- グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群の基幹科目群の「GRM共生論」はグローバル・スタディーズ科目群、「GRM資源管理論」はグローバル・リソース・マネジメント発展科目群の単位として算入する。
- ③ グローバル・スタディーズ研究科、理工学研究科以外の連携研究科・専攻に所属する学生
大学院学則別表Ⅱの研究科・専攻に定められた履修方法に加えて、グローバル・リソース・マネジメント共通科目群から8単位以上、「GRMコモン演習Ⅰ、Ⅱ」4単位、グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群のインフラストラクチャー科目群から6単位以上、グローバル・スタディーズ科目群又はグローバル・リソース・マネジメント発展科目群から2単位以上、合計20単位以上を履修すること。
- グローバル・リソース・マネジメントサブ・メジャー科目群の基幹科目群の「GRM共生論」はグローバル・リソース・マネジメント発展科目群、「GRM資源管理論」はインフラストラクチャー科目群の単位として算入する。

別記

同志社大学
学則別表Ⅱ

氏名
学 位
年 月 日

印 記
博士 ●●●●
修士 ●●●●
学 士 ●●●●
学 位
年 月 日

同志社大学
学則別表Ⅱ

氏名
学 位
年 月 日

印 記
博士 ●●●●
修士 ●●●●
学 士 ●●●●
学 位
年 月 日

	氏 名	専 門 分 野	役 割 担 当
プログラム責任者			
高等研究教育副機構長 理工学研究科電気電子工学専攻	和田 元	薄膜・表面界面物性、 核融合学、プラズマ科学	原子力発電技術、核融合発電、先進発電科学
プログラム・コーディネーター			
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	内藤 正典	イスラームと西欧の共生、 中東地域研究	多文化共生論、イスラームとの共生
アシスタント・プログラムのコーディネーター（人社系統括・文理融合プログラム担当）			
グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	小山田 英治	国際関係論	ガバナンス論、開発政治学
アシスタント・プログラムのコーディネーター（理工系統括・文理融合プログラム担当）			
理工学研究科 数理解境科学専攻	林田 明	地質学、 古地磁気学・岩石磁気学	地球環境科学、自然資源マネジメント科学
グローバル・スタディーズ研究科（基幹研究科）			
グローバル・スタディーズ専攻	中西 久枝	国際関係論、国際協力論	紛争抑止と平和構築
	岡野 八代	ジェンダー、新制度法学、 基礎法学	共生とジェンダー、正義論
	飯 普平	経済政策	中国経済の展望とグローバル化
	峯 陽一	経済政策（含経済事情）	人間の安全保障
	Ame GONON	政治社会学、 公共性の社会学	共生のための地球市民社会論
理工学研究科（基幹研究科）			
情報工学専攻	橋本 雅文	ロボティクス・メカトロニ クス、センシング情報学	インフラセンシング科学
電気電子工学専攻	長岡 直人	電力工学、電気機器工学	計算機科学、数値解析学、電力インフラ科 学・環境学担当
	辻 幹男	電子デバイス、電子機器、 電磁波工学	理工学分野の戦略的研究開発推進学、超高周 波科学・工学、電磁波環境学
	藤原 耕二	電力工学、電気機器工学	先進的電力変換学、複合電気機器学、社会イ ンフラ用電気機器学
	笹岡 秀一	通信・ネットワーク工学	通信インフラ科学、通信方式学、通信セキュ リティ科学
	吉門 進三	電子・電気材料工学	電気電子材料科学、希少資源管理科学、高効率 発電・蓄電工学
機械工学専攻	加藤 和次	電力工学、電気機器工学	電気回路学、高効率電気制御学、高信頼性イ ンフラ用制御システム学
	松川 真美	計測工学、応用物理学一般	医用電子技術インフラ、超音波工学
	千田 二郎	噴霧燃焼工学、 エネルギーサイエンス	環境エネルギー科学、分散型発電システム、 エネルギーインフラコスト
	稲葉 聡	電気化学、無機材料・物性	先進的電気化学エネルギー変換学、資源材料 科学、材料マネジメント科学
	盛満 正嗣	物理化学、無機化学、 無機材料	電気化学表面プロセス、化学エネルギー工 学、インフラ環境保全化学

	氏 名	専 門 分 野	役 割 担 当
プログラム・オフィサー			
高等教育教育機構	岩坂 将充	比較政治学、地域研究	文理融合によるプログラムの企画開発・運営 管理、キャリア形成担当、国際連携のロゴス
	岡本 岳之	海岸海洋工学	文理融合によるプログラムの企画開発・運営 管理、キャリア形成担当、国際連携のロゴス
キャリア・コーディネーター			
高等教育教育機構	上田 光明	福祉社会学	キャリア形成
連携研究科			
神学研究科 神学専攻	小原 克博	宗教学、神学、哲学・倫理 学	宗教間の共生と政治
文学研究科 哲学専攻	田端 信蔵	哲学・倫理学・思想史	共生のための思想
	林 克樹	哲学・倫理学・思想史	共生のための倫理
	理稀 孝文	社会福祉学、社会政策	福祉国家と共生
社会学研究科 社会福祉学専攻	木原 活信	社会福祉学、 ソーシャルワーク	共生のための福祉実践思想
社会学研究科 産業関係学専攻	浦坂 純子	経済政策	共生のための労働政策
法学研究科 公法学専攻	濱 真一郎	基礎法学、法哲学 法思想史	共生のための法思想
経済学研究科 経済政策専攻	八木 匡	財政学・金融論 公共投資理論	共生のための公共経済学
商学研究科 商学専攻	鈴木 良始	経営論、生産管理論 組織論	生産方式とグローバルゼーション
総合政策科学研究科 総合政策科学専攻	風間 規男	政治学	共生のための政策ネットワーク
	川浦 昭彦	経済政策	共生のための経済政策と民主化
	月村 太郎	国際関係論	国際政治と多文化共生
ビジネス研究科 ビジネス専攻	浜 矩子	国際経済のマクロ分析	国際経済のマクロ分析

(1)

同志社大学大学院リーディングプログラム

安全管理講習

平成25年8月4日

外務省領事局長 上村 司

外務省
Ministry of Foreign Affairs

(3)

シリア

●シリア危機の終結に向けた関係者の
努力が続いているが、情勢改善の見
通し立たず。
●政治の運営を巡る治安悪化に乗じて
AQ系勢力が浸透しつつあるとの見方
あり。2011年10月、イラク国境でAQ
分子がシリア側に違法入国を図り、
捕獲（報道）。
●2011年12月、首都ダマスカス
中心地で、自動車利用連綿爆弾テロ
事件が発生（AQが関与?）。以後、
ダマスカス等各地で爆弾テロが頻発。
●シリアと近隣国の間で、武装勢力、
兵器 が流動しているとの見方も。
シリア情勢がトルコ、イラン等周辺国の
治安状況に及ぼす影響も注目。
●邦人等が邦人が反政府武装勢力によるシ
リア政府襲撃、治安悪化、宗教弾圧激化、
難民人権に対する攻撃や侮辱攻撃事件に
巻き込まれる確率が大変高い状況

●シリア情勢の終結に向けた関係者の
努力が続いているが、情勢改善の見
通し立たず。
●政治の運営を巡る治安悪化に乗じて
AQ系勢力が浸透しつつあるとの見方
あり。2011年10月、イラク国境でAQ
分子がシリア側に違法入国を図り、
捕獲（報道）。
●2011年12月、首都ダマスカス
中心地で、自動車利用連綿爆弾テロ
事件が発生（AQが関与?）。以後、
ダマスカス等各地で爆弾テロが頻発。
●シリアと近隣国の間で、武装勢力、
兵器 が流動しているとの見方も。
シリア情勢がトルコ、イラン等周辺国の
治安状況に及ぼす影響も注目。
●邦人等が邦人が反政府武装勢力によるシ
リア政府襲撃、治安悪化、宗教弾圧激化、
難民人権に対する攻撃や侮辱攻撃事件に
巻き込まれる確率が大変高い状況

(2)

中東・アフリカ地域におけるテロ情勢

【概要】
●アラブの春後の紛争激化に伴う政府機能の弱体化
●リビアからの高度な武器の流出
●AQ中絶指導者サワービーは、この地域でのテロを激化
アフ・アフリカ地域から西アフリカにかけて、各地でイスラム過激派が活発化

(4)

レバノン

●シリア情勢の影響を受け、アサド・シ
リア大統領を支持する左派シリア派と、
シリア反体制派を支持する右派シリア派が対
立。特に北部内戦ではアサド派とス
ンニ派の武力衝突が激化して、これまでに
多数の犠牲者が発生。
●ベイルートでも、昨年10月に中心部
で車爆弾が爆発して8人が死亡。本年7
月には郊外で車爆弾が爆発、50人以上
が負傷。王制的な武力をもつシリア派組
織ヒズボラに対し、スンニ派過激派が対
抗。
●北東部のシリアの国境付近や南部ベ
カー・高層では、シリア政府がレバノン内
に運ばれた反体制派を逮捕・殺害したと
なるといわれている。また、ベカー・高層では、
難民も多数。

④ オンライン登録完了

③② メールアドレス・パスワード入力

会員登録

③① ユーザー登録

氏名
生年月日
メールアドレス
パスワード

②② ニュースページ

会員登録

②① アップページ

氏名
生年月日
メールアドレス
パスワード

② メールアドレス・パスワード登録

③ オンライン登録方法

【学生窓口】	
今出川校地	理工学研究科事務室 (理化学館)
京田辺校地	理工学研究科事務室 (理化学館)
グローバル・スタディーズ研究科事務室 (志高館)	[TEL] 0774-65-6200 [英-mail] jt-koujin@mail.doshiha.ac.jp
今出川校地	[TEL] 075-251-3930 [英-mail] ji-gs@mail.doshiha.ac.jp

【問合せ・連絡先】

同志社大学 高等教育研究課 (博士課程教育リサーチプログラム事務局)

今出川校地 寧靜館 1 F)

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

[TEL] 075-251-3259 / **[FAX]** 075-251-3152

[英-mail] ji-grm1d@mail.doshisha.ac.jp

[WEB] <http://grm.doshisha.ac.jp>



(目的)

第1条 同志社大学高等研究教育院（以下「院」という。）は、大学院学生のキャリア開発に資することを目的とし、学問分野・領域に共通する基礎能力の涵養、並びに特定課題に関する体系的な教育プログラムを開発及び実施する。

(事業)

第2条 院は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学問分野・領域に共通する基礎能力を涵養する新たな大学院教育プログラムの開発及び実施に関すること。
- (2) 研究科と連携した博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラム等の外部資金を活用した、特定課題に関する体系的な大学院教育プログラムの開発及び実施に関すること。
- (3) 学部・研究科が新たに取り組む全学的な教育プログラムの開発及び実施に係る支援に関すること。
- (4) 前3号の教育プログラムに必要な社会連携の推進及び調整に関すること。
- (5) その他必要なこと。

(所長)

第3条 院に所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、前条の事業を管掌する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(高等研究教育院委員会)

第4条 院には、次の事項を審議するため、高等研究教育院委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 院の事業計画に関する事項
- (2) 第2条により開発及び実施する大学院教育プログラムに関する事項
- (3) その他院の運営に係る必要な事項

2 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 学生支援センター所長
- (3) キャリアセンター所長
- (4) 教務部長
- (5) 全学共通教養教育センター所長
- (6) 学習支援・教育開発センター所長
- (7) 国際センター所長
- (8) 国際教養教育院所長
- (9) グローバル教育センター所長
- (10) 日本語・日本文化教育センター所長
- (11) 研究推進部長
- (12) リエゾンオフィス所長

3 委員会には、委員長及び副委員長を置く。委員長は前項第1号の委員、副委員長は前項第4号の委員をもってあてる。

4 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

5 委員会は、委員の過半数の出席で成立し、議事は出席委員の過半数で決する。可否同数の場合は、委員長が決する。

(教育プログラム実施組織等)

第5条 委員会には、大学院教育プログラムを開発及び実施する組織として、プログラム名称を付したプログラム委員会（以下「プログラム委員会」という。）を置くことができる。

2 プログラム委員会は、プログラムが院に設置する授業科目の担当教員、研究指導教員等（以下「プログラム担当教員」という。）で構成する。

- 3 プログラム委員会には、プログラム・コーディネーターを置き、委員長として当該教育プログラムの実施を管掌する。
- 4 プログラム・コーディネーターは、所長がプログラム担当教員の中から学長に推薦し、学長が委嘱する。
- 5 プログラム・コーディネーターは、委員会に出席し、意見を述べることができる。
- 6 プログラム委員会が取り扱う事項については、別に定める。

（任期付教員等）

第6条 院に、任期付教員、客員教員、嘱託講師、特定任用研究員等必要な教員及び研究員（以下「教員等」という。）を置くことができる。

- 2 前項の特定任用研究員は、所長、プログラム・コーディネーター及びプログラム担当教員を補佐し、教育プログラムの実施に必要となる新たな機能等を開発する。
- 3 第1項の特定任用研究員は、同志社大学大学院教員任用内規第6条に基づき、院が実施する教育プログラムの講義、演習又は実験を担当することができる。
- 4 院の教員等の任用等は、大学院研究科長会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

（研究センターとの連携）

第7条 大学院教育プログラムは、研究センターを編成し、院において実施する教育のさらなる高度化を図ることができる。

- 2 前項の研究センターの設置に関しては、同志社大学研究開発推進機構規程の定めるところによる。

（事務）

第8条 院の事務組織及び事務分掌は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

（改廃）

第9条 この規程の改廃は、部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程

2013年4月1日
制定

改正 2014年4月1日
2016年2月27日

2015年2月28日
2019年2月23日

(趣旨)

第1条 この規程は、同志社大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第6条の7に基づき実施する博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「プログラム」という。）に関し、必要な事項を定める。

(人材養成目的)

第2条 プログラムは、グローバル・リソース・マネジメントの本質を、天然資源や人的資源、社会関連資本を適切かつ公正に管理、運営することにより、持続可能な発展と人々の安寧と平和のために構築、改善していくことと捉え、文理融合型の大学院教育プログラムの提供を通じて、多角的視野、汎用性及び応用力に富んだ能力を修得し、直面する現状や課題に柔軟に対処できるようになることで、多文化共生が加速する現実の社会・組織の中で他者と協働し、問題解決に取り組める実行力を有する人材を養成することを目的とする。

(プログラムの編成等)

第3条 プログラムは、大学院学則第3条第1項第1号に定める区分制博士課程及び同第2号に定める一貫制博士課程の研究科・専攻（以下「研究科・専攻」という。）に所属する学生が、所属の教育課程とは別に履修することができる、博士課程の前期課程と博士課程の後期課程を一貫した教育課程として編成する。

2 プログラムの教育課程は、主となる研究科・専攻（以下「基幹研究科・専攻」という。）を定めて、編成する。

3 基幹研究科・専攻は、次のとおりとする。

グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、理工学研究科数理環境科学専攻

4 教育課程の編成方針は、別表のとおりとする。

(実施組織等)

第4条 プログラムは、研究科・専攻及び高等研究教育院に所属する専任教員（以下「プログラム担当教員」という。）により実施する。

2 プログラムに、プログラムの実施を管掌するプログラム・コーディネーターを置く。

3 プログラムは、プログラムの企画、運営を管理するプログラム・オフィサーを置くことができる。

4 プログラム・コーディネーターは、高等研究教育院所長がプログラム担当教員の中から学長に推薦し、学長が委嘱する。

5 プログラム・オフィサーは、プログラム・コーディネーターがプログラム担当教員の中から委嘱する。

6 プログラムは、高等研究教育院委員会のもとに置くグローバル・リソース・マネジメントプログラム委員会（以下「プログラム委員会」という。）が運営する。

7 プログラム委員会は、プログラム担当教員により構成し、プログラム・コーディネーターを委員長とする。

8 プログラム委員会が取り扱う事項については、別に定める。

(プログラム履修生)

第5条 プログラムが設置する授業科目を履修する学生のうち、第7条に定めるプログラム中間審査に合格した者をプログラム履修生という。

2 前項のプログラム履修生の定員は、15名とする。

(教育課程の履修方法)

第6条 教育課程の履修方法は、別表のとおりとする。

(プログラム中間審査及び修了審査)

第7条 プログラムは、プログラムが設置する授業科目を履修する学生に対して、プログラム中間審査(以下「中間審査」という。)及び修了審査(以下「修了審査」という。)を行うことができる。

2 中間審査及び修了審査に関して必要な事項は、別に定める。

(プログラム修了判定及び認定)

第8条 高等研究教育院委員会は、第6条の規定に基づき、所定の単位を修得し、前条に定める中間審査及び修了審査に合格した者で、かつ、同志社大学学位規程(以下「学位規程」という。)第8条第1項第1号に基づき博士論文の審査を請求した者に対してプログラム修了判定を行う。

2 学長は、前項の修了判定に合格した者に対して、研究科長会の審議を経て、プログラムの修了を認定する。

(学位記)

第9条 学位規程第11条第3項に基づき、プログラムを修了した学生に授与する学位記の様式は、別記のとおりとする。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、プログラム実施に関し必要な事項は、プログラム委員会の審議を経て、プログラム・コーディネーターが決定する。

(事務)

第11条 この規程に関する事務は、高等研究教育院事務室が取り扱う。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、高等研究教育院委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

1 この規程は、2019年4月1日から施行する。

2 2019年3月31日までにプログラムに選抜された者については、第4条を除き、従前の規定により取り扱う。

別表

教育課程の編成方針

博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」(以下「プログラム」という。)は、人間社会の物質的基盤(インフラストラクチャー)・社会的基盤・精神的基盤の3領域を統合的に扱う新しい研究領域「グローバル・リソース・マネジメント」に焦点を当てた追加型教育プログラムにより、自身の関連する専門分野を俯瞰し、独創力を培い、学術的な観点を踏まえた実践的論理思考を身につけることができる教育課程を編成、運営する。「資源・リソース」にかかる汎用性の利くテーマを設定し、多分野連携や協働性、問題解決型思考などを学ぶ全研究科・専攻の結節点として機能させる。専門性に加えて柔軟性や応用力を兼ね備えた全方位型のリーダー資質が得られるよう、グループワーク・現場実習を積極的に取り入れる。

知識・技能

プログラムは、専門分野の枠を越えた幅広い視点や異なる着想等が得られ、多様性の理解や応用性の高い能力の基礎を形成し、以後の自律的な知識や技能の拡張が可能となる科目を提供する。

文理共修領域として、人類社会の共通資源をいかに適正に配分するかという命題について学び、その解決策を共修の場を通して見出す技能を身につけることのできる科目を提供する。

思考力・判断力・表現力

プログラムが支柱とする複合的な課題について、人文・社会系と理工系の学生が共修し、議論をもとに発想の転換と、異なる学知の統合を実践的に鍛錬する科目を提供する。

学理の異なる学生が共修することにより、大学院研究科に所属する学生に求められる普遍的な力として、多角的な思考力、全体を俯瞰した判断力、理解を共有できる表現力、説得力、調整力を身につけることのできる科目を提供する。

主体性・多様性・協働性

Issue focused(課題追求型)かつSolution oriented(解決志向型)の教育手法を通じて主体的に問題解決に取り組む姿勢を身につける科目を提供する。

複合的問題に対しグループワークを用いて解決策を導くことにより、事象を多角的にとらえる多様性や他者との共同作業による協働性を習得することのできる科目を提供する。

ナンバリング	教育課程	履修単位
601	Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity	2
602	Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works	2
701	Physics in daily life	2
702	Introduction to Social Science and Humanity	2
730	Introductory Infrastructure Engineering	2
731	Introductory Earth and Environment Science	2
732	Introductory Laboratory of Infrastructures	2
733	Introductory Qualitative Research Methods	2
734	Introductory Quantitative Research Methods	2
735	Introductory Global Studies	2
650	Group Work Practice I	2
690	Group Work Practice II	2
750	Group Work Practice III	2
751	Group Work Practice IV	2
790	Group Work Practice V	2

教育課程の履修方法

同志社大学大学院学則別表Ⅱ（以下「大学院学則別表Ⅱ」という。）の研究科・専攻に定められた履修方法に加えて、この表に規定する科目を、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修要項に定める科目ナンバリングに基づき、20単位以上を履修すること。

別記

2019年2月14日
制定

(目的)

第1条 この内規は、同志社大学高等研究教育院規程（以下「院規程」という。）第5条第1項の規定に基づき設置する、同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」プログラム委員会（以下「委員会」という。）について、同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程（以下「GRMに関する規程」という。）第4条第8項の規定に基づき、委員会において取り扱う事項等を定める。

(取扱事項)

第2条 委員会は、GRMプログラムに関する次の事項を取り扱い、審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 教育課程の履修方法に関する事項
- (3) 教育課程を履修する学生のクオリファイング試験又は中間審査（以下「審査等」という。）に関する事項
- (4) 教育課程を履修する学生の修了審査に関する事項
- (5) GRMプログラムの運営並びに運営に伴う予算計画及び執行に関する事項
- (6) 「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金奨励生の推薦に関する事項
- (7) 委員会の組織及び運営に関する事項
- (8) その他委員会が必要と認める事項

(構成員)

第3条 委員会は、院規程第5条第2項の規定に基づき、次のGRMプログラム担当教員をもって構成する。

- (1) GRMプログラムが設置する授業科目の担当教員
- (2) 第2条第3号に規定する審査等に合格した学生の研究指導教員

- 2 委員会には、前項に定める委員のほか、本学内又は本学外の学識経験者若干名を加えることができる。
- 3 前項の委員は、委員長の推薦を受け、学長が委嘱する。
- 4 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会には、委員長と副委員長を置く。

- 2 委員長は、GRMに関する規程第4条第7項の規定に基づきプログラム・コーディネーターとする。
- 3 副委員長は、GRMに関する規程第3条第3項に規定する基幹研究科に所属する委員の中から委員長が委嘱する。
- 4 委員長に事故があるときは、副委員長が委員長の職務を代行する。

(運営)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 構成員の5分の1以上の者から議題及びその理由を示して委員会の開催の請求があったときは、委員長は、すみやかに委員会を招集しなければならない。
- 3 委員会は、次の各号に掲げる者を除く委員の過半数の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛成により決する。
 - (1) 休職中の者
 - (2) 在外研究員
 - (3) 国内研究員

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、高等研究教育院事務室が取り扱う。

(改廃)

第7条 この内規の改廃は、高等研究教育院委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2019年4月1日から施行する。

同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」メンターに関する申合せ

2014年11月13日
制定

改正 2015年2月19日

2019年1月31日

(目的)

第1条 この申合せは、同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「GRM」という。）の教育課程を履修する学生の学習・研究成果の向上を図ることを目的とし、GRMに置くメンターの選考及び任用等について定める。

(名称)

第2条 メンターは、GRMが実施する教育研究活動において専門的知識を要する業務の補助を担当し、またGRMの教育課程を履修する学生の学習、研究遂行上の課題等に対して日常的にアドバイスを行うことから、GRMレジデント・メンターと称する。

(業務)

第3条 GRMレジデント・メンターは、プログラム・コーディネーターの指示より、次の業務に従事し、プログラム担当教員を支援する。

- (1) GRMの教育課程に置く授業科目の開発補助
- (2) GRMプログラム担当教員が、GRMの教育課程の構築のために実施する研究活動の補助
- (3) GRMの教育課程に置く授業科目の実施及び運営補助（学外実習地・機関との調整、演習・講義の教材及び資料作成補助、集中形式の実施日等の調整、学外招へい講師、ゲストスピーカー等との調整）
- (4) GRMが企画する正課外の講演、講義等の調整及び運営補助
- (5) オフィスアワーのチューター
- (6) GRMコモンルームの機器管理
- (7) GRMが対象とする国・地域にかかる調査、情報収集及び情報提供
- (8) その他GRMの運営に必要なこと

(選考及び任用)

第4条 GRMレジデント・メンターは、同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」に関する規程（以下「GRMに関する規程」という。）第3条第1項に定める博士課程の後期課程又は一貫制博士課程の3年次以上に在学している正規学生で、所属研究科長が推薦するGRMが対象とする国・地域の事情に精通する者、社会人経験のある者、GRMを形成する専門分野にかかる優れた研究業績を有する者等から、GRMプログラム・コーディネーターが選考し、学長が決定する。

2 前条第4号から第7号の業務にのみ従事する者は、GRMに関する規程第3条第3項に定める博士課程の前期課程又は一貫制博士課程の1年次もしくは2年次に在学している正規学生から選考、任用できるものとする。

(任用期間等)

第5条 GRMレジデント・メンターの任用期間の開始日は、学年若しくは各学期の始めとし、終了日は学年若しくは各学期の終わりとする。

(勤務時間、報酬、勤務管理等)

第6条 GRMレジデント・メンターの勤務時間は、1ヶ月60時間を上限とし、その報酬はティーチング・アシスタントの報酬と同額とする。

2 第3条第4号から第7号の業務にのみ従事するGRMレジデント・メンターの勤務時間は、1ヶ月48時間を上限とし、その報酬はティーチング・アシスタントの報酬と同額とする。

3 ティーチング・アシスタントを兼ねる者は、ティーチング・アシスタントの勤務時間と合算した時間が前2項の上限を超えないものとする。

4 GRMレジデント・メンターは、リサーチ・アシスタントを兼務することができない。

5 GRMレジデント・メンターの勤務は、GRMレジデント・メンター勤務管理表及び報告書で管理する。

6 その他 G R Mレジデント・メンターの勤務に必要な事項は別に定める。

(報告書の提出)

第7条 G R Mレジデント・メンターは、年度末に速やかに、所属研究科を経由して高等研究教育院に業務実績報告書を提出するものとする。

(経費)

第8条 この任用にかかる経費は、G R Mコースワーク運営費による。

(事務)

第9条 この申合せに関する事務は、高等研究教育院事務室が取り扱う。

(改廃)

第10条 この申合せの改廃は、高等研究教育院委員会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この申合せは、2019年4月1日から施行する。

同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学生特別奨励金規程

2018年6月30日
制定

改正 2019年2月14日

(目的)

第1条 本学は、大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下「グローバル・リソース・マネジメント」という。）を履修する本学大学院博士課程前期課程及び博士課程後期課程の外国人留学生に対する経済的負担の軽減及びキャリア形成の支援を目的とし、同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」外国人留学履修生特別奨励金（以下「奨励金」という。）を給付する。

(給付資格)

第2条 奨励金の給付資格は、次の各号のいずれかに該当する外国人留学生に付与する。

- (1) グローバル・リソース・マネジメントのプレリミナリー試験（以下「P E」という。）に、2018年度までに合格し、博士学位取得及びグローバル・リソース・マネジメントの修了を目指す博士課程前期課程に在学する者
- (2) グローバル・リソース・マネジメントのクオリファイング試験（以下「Q E」という。）に合格し、博士学位取得及びグローバル・リソース・マネジメントの修了を目指す博士課程後期課程に在学する者

2 前項による給付資格を有する者が、グローバル・リソース・マネジメント外国人留学奨励生（以下「奨励生」という。）として奨励金の給付を受けるためには、奨励金給付に係る誓約書を学長に提出しなければならない。

(給付額)

第3条 奨励金の額は、P E合格者については月額7万円、Q E合格者については月額14万円とする。

(給付期間)

第4条 奨励金の給付期間は、次のとおりとする。

- (1) P E合格者については、博士課程前期課程に在学する期間のうち、1年間以内とし、標準修業年限を越えて在学する者には給付しない。
- (2) Q E合格者については、博士課程後期課程に在学する1年次から3年次の3年間とし、標準修業年限を越えて在学する者には給付しない。
- (3) 休学期間は、奨励金の給付を休止し、給付期間に算入しない。
- (4) 再入学生には奨励金を給付しない。

(運用)

第5条 奨励生の採用等、奨励金の運用については、別に定める。

(義務)

第6条 奨励生には、原則として、奨励金の返還その他の義務を課さない。ただし、奨励生が同志社大学学生の懲戒に関する規程により懲戒の処分を受けた場合には、認定を取消し、奨励金の全額又は一部を返還させることがある。

(併給)

第7条 奨励金は、別に定めるその他の奨学金等との併給はできない。

(事務)

第8条 この規程に関する事務は、高等研究教育院事務室の所管とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、研究科長会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

<概要/Course Content Summary >

This course prepares students for attendance, participation and organization of international conferences. Each class will culminate in an international conference with real participants. The students will play a major role in the planning of this final conference as well as participate in a final student-led session that addresses the core conference theme. In the beginning of the class the students will be introduced to the key conference themes and teams of students will begin working up portfolios of thematic research, as well as identifying possible speakers for the conference.

<到達目標/Goals,Aims >

Students will become familiar with interdisciplinary materials and research methodologies, develop organizational and interpersonal skills and gain experience of working in a high-level research and presentation teams.

<授業計画/Schedule >

(実 施 回 / (内容/Contents)

Week)

1	Introduction to the course
2	Lecture on the conference theme I
3	Lecture on the conference theme II
4	Lecture on the conference theme III
5	Conference theme role-play introduction
6	Conference theme role-play team and work division
7	Conference planning introduction
8	Conference planning team and work division
9	Research development and methodology lecture
10	Research development and methodology
11	Conference planning team Lecture
12	Research development and methodology
13	Rehearsal I
14	Rehearsal II
15	Rehearsal III

This course consists of two conferences, first conference will be held in the Spring semester, and the second one in the Fall semester. In April, further schedule and program will be noticed for the GRM students.

<成績評価基準/Evaluation Criteria >

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 50%

Group work is 50% of the grade. Group performance across a range of tasks is constantly evaluated.

期末レポート試験・論文 50%

A research report summarizing the student's understanding of the conference themes.

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドワークを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。

フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて秋学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

グローバル・リソース・マネジメントの履修内容に対応する国内・海外の企業や国際機関などにおいて、3週間以上滞在しインターン実習を行う。実習先・期間については相談・調整の上決定する。実習期間中は、(1)インターンシップ日誌の作成とともに、(2)実習内容に関するレポート作成準備に取り組み、実習後は、日誌とレポートを提出する。なお、本クラスは、GRM履修生のうち、主として理工学研究科の博士課程（前期課程）に所属する学生を対象とする。

<到達目標/Goals,Aims>

就業経験だけでなく、国内・海外の企業や国際機関などでのインターン実習を通して、グローバル・リソース・マネジメントで学ぶ内容がどのような形で利用されているのかを実際に目で見て学び、博士課程（後期課程）進学後の学習につなげるとともに、自らの修了後の進路を具体的に意識するようになる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

1	オリエンテーション	
2	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
3	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
4	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
5	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
6	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
7	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
8	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
9	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
10	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
11	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
12	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
13	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
14	インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
15	日誌, レポートの提出	

受入機関の事情等により、受講者と相談の上で、授業計画を変更する可能性がある

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

レポート（インターンシップ日誌） 50%

インターンシップでの業務内容を適切に日誌につけているか

成果レポート 50%

インターンシップで得た経験を的確に表現できているか

成績評価は提出された日誌・レポートおよび報告会での発表により行う。日誌は毎日必要事項をくまなくつけているかが評価のポイントである。レポートは、実習内容の要約だけでなく、それがどのように今後の自分の研究や進路に活かすことができるかに言及しているかが評価のポイントである。

<概要/Course Content Summary>

グローバル・リソース・マネジメントの履修内容に対応する国内・海外の企業や国際機関などにおいて、3週間以上滞在しインターン実習を行う。実習先・期間については相談・調整の上決定する。実習期間中は、(1)インターンシップ日誌の作成とともに、(2)実習内容に関するレポート作成準備に取り組み、実習後は、日誌とレポートを提出する。なお、本クラスは、GRM履修生のうち、主として理工学研究科の博士課程（前期課程）に所属する学生を対象とする。

<到達目標/Goals,Aims>

就業経験だけでなく、国内・海外の企業や国際機関などでのインターン実習を通して、グローバル・リソース・マネジメントで学ぶ内容がどのような形で利用されているのかを実際に目で見て学び、博士課程（後期課程）進学後の学習につなげるとともに、自らの修了後の進路を具体的に意識するようになる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 オリエンテーション	
2 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
3 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
4 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
5 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
6 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
7 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
8 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
9 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
10 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
11 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
12 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
13 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
14 インターンシップ実施	日誌作成, レポート準備
15 日誌, レポートの提出	

受入機関の事情等により、受講者と相談の上で、授業計画を変更する可能性がある

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

レポート（インターンシップ日誌） 50%

インターンシップでの業務内容を適切に日誌につけているか

成果レポート 50%

インターンシップで得た経験を的確に表現できているか

成績評価は提出された日誌・レポートおよび報告会での発表により行う。日誌は毎日必要事項をくまなくつけているかが評価のポイントである。レポートは、実習内容の要約だけでなく、それがどのように今後の自分の研究や進路に活かすことができるかに言及しているかが評価のポイントである。

< 概要 / Course Content Summary >

人や情報の国際的移動や地球規模で発生する環境問題などの国際社会が直面する様々な問題に関して、国際的調査・研究機関ないし国際的報道機関の現実に通じた担当者が、当該問題の背景と所在，問題解決のための方法論など具体的事例に則した講義または事前学習を行う。関連する機関あるいは部署において，一定期間の実習を行い，その後実習の報告および講師による講評を行うことにより，実践を通じた方法論を学ぶ。

< 授業計画 / Schedule >

(実 施 回 / (内容 / Contents)

Week)

- 第 1 回 シンクタンクの発展経緯・役割
- 第 2 回 三菱総合研究所の概要・歴史
- 第 3 回 業務形態・顧客
- 第 4 回 キャリアデザイン
- 第 5 回 グローバル事業展開
- 第 6 回 企画提案演習① (リサーチ・表現手法)
- 第 7 回 プロジェクト・ケーススタディ (安全保障)
- 第 8 回 プロジェクト・ケーススタディ (国際犯罪・治安)
- 第 9 回 企画提案演習②
- 第 10 回 企画提案演習③
- 第 11 回 三菱総合研究所等にてインターンシップ (実習)
- 第 12 回 三菱総合研究所等にてインターンシップ (実習)
- 第 13 回 三菱総合研究所等にてインターンシップ (実習)
- 第 14 回 三菱総合研究所等にてインターンシップ (実習)
- 第 15 回 三菱総合研究所等にてインターンシップ (実習)

< 成績評価基準 / Evaluation Criteria >

平常点(出席，クラス参加，グループ作業の成果等) 50%

提出物 50%

平常点 (出席，質問や討論の積極性，授業中に実施するレポート) 100%

< テキスト / Textbook >

毎回，資料を配布。

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドワークを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。

フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて秋学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドワークを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。

フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および修士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて秋学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. 実施したフィールドリサーチの成果を説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

本学博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント（GRM）」は、文部科学省によって平成24年度に複合領域型（多文化共生社会）において採択された。本科目は、GRMの掲げる多文化共生について、神学・社会学・法学・経済学を含む様々な分野から考察し、GRMとしてのより良い共生のあり方について議論し理解を深めることを目指す。

講義の内容としては、まずガイダンスを実施し、次に宗教間の共生と政治、共生のための福祉実践思想、共生のための法思想、共生のための公共経済学、の順に各担当教員が授業を行う。そして、最後にシンポジウムを開催し、担当教員・履修学生に加え、学内外からもパネリストを招聘し、GRMとしての共生についてまとめの議論を行い、本科目の総括とする。

<到達目標/Goals,Aims>

- ・共生について幅広い視野から考え議論することができるようになる。
- ・自らの考えを説得力をもって発信することができるようになる。

<授業計画/Schedule>

(実施回/Week)	(内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 (10月13日)	ガイダンス	事前指示の文献講読
2 (10月13日)	宗教間の共生と政治 1	事前指示の文献講読
3 (10月13日)	宗教間の共生と政治 2	事前指示の文献講読
4 (10月13日)	宗教間の共生と政治 3	事前指示の文献講読
5 (10月20日)	共生のための福祉実践思想 1	事前指示の文献講読
6 (10月20日)	共生のための福祉実践思想 2	事前指示の文献講読
7 (10月20日)	共生のための福祉実践思想 3	事前指示の文献講読
8 (11月17日)	シンポジウム企画・運営指導	シンポジウムに向けたグループワーク
9 (11月24日)	共生のための法思想 1	事前指示の文献講読
10 (11月24日)	共生のための法思想 2	事前指示の文献講読
11 (11月24日)	共生のための法思想 3	事前指示の文献講読
12 (12月1日)	共生のための公共経済学 1	事前指示の文献講読
13 (12月1日)	共生のための公共経済学 2	事前指示の文献講読
14 (12月1日)	共生のための公共経済学 3	事前指示の文献講読
15 (1月26日)	GRM 共生論シンポジウム	シンポジウムに向けたグループワーク

第1～4回は10月13日（土）1～4講時、第5～7回は10月20日（土）3～5講時、第8回は11月17日（土）2講時、第9～11回は11月24日（土）3～5講時、第12～14回は12月1日（土）3～5講時に実施予定である。ただし、これらの日程・時間は変更の可能性もあるため、事前にかねらず確認すること。

また、第15回にあたるシンポジウムは、GRM 資源管理論との合同で1月26日（土）の開催を予定している。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 60%

授業・ディスカッション・グループワークへの参加状況

シンポジウム 40%

シンポジウムへの参加状況

シンポジウムにおいては、議論への積極的な参加・貢献はもちろん、アトラクティブな主張についても評価の対象となる。

<参照 URL/URL>

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp/jp/> 良心学研究センター
<http://csce.doshisha.ac.jp/> 創造経済研究センター
<http://www.geocities.jp/kihara0918/> 木原活信のパーソナル・ページ
<http://www.kohara.ac/> 小原克博 On-Line

<備考/Remarks>

本科目は GRM 履修生に限らず、全研究科に開放されている。さまざまな専門・興味を持った学生の参加を歓迎する。

<概要/Course Content Summary>

The subject of this basic course covers major trends in international cooperation and development. The omnibus lecture discusses not only some aspects of the theory of peace and development but also practical challenges the globalizing world faces. It must be noted that those challenges are addressed by a wide variety of global actors including the UN organizations, NGOs, private firms as well as bilateral donors. The course consists of four successive lectures on peace, governance, development, and lessons from the Japanese experience. The students will learn the basic disciplinary approaches toward global issues and understand the effectiveness of those approaches in addressing particular issues including persistent poverty and inequality, social marginalization and discrimination, corruption, political violence, natural disasters, diseases and climate change.

<到達目標/Goals,Aims>

At the end of the semester, students are expected to be able to write an essay about major theories of international cooperation and development that are taught in this course.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

- | | |
|----|--|
| 1 | Introduction |
| 2 | The Theory of Conflict Resolution (Nakanishi) |
| 3 | The Theory of Peace-Security Nexus (Nakanishi) |
| 4 | The Theory and Practice of Gender Mainstreaming in Peace (Nakanishi) |
| 5 | The Theory of international cooperation (Oyamada) |
| 6 | The Theory of development politics (Oyamada) |
| 7 | Mechanism of international organizations and multi-bi assistance (Oyamada) |
| 8 | The Theory of human development (Mine) |
| 9 | The Theory of human security (Mine) |
| 10 | The Theory of human rights and dignity (Mine) |
| 11 | An African Perspective on Economic Modernization of Japan (Adem) |
| 12 | An African Perspective on Political Change in Japan (Adem) |
| 13 | An African Perspective on Conflict Resolution in Japan (Adem) |
| 14 | Examination (Answer all four questions asked by four lecturers) |
| 15 | Wrap-up Discussion |

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Attendance 20%

Participation in Discussion 30%

Examination 50%

Understanding of basic concepts taught in class

<テキスト/Textbook>

Textbooks and references are indicated by each lecturer. Various handouts will be distributed.

<概要/Course Content Summary>

Promotion of good governance in developing and emerging countries is one of the crucial agenda for economic, social and political development. The course will look at the issues in "governance" and "good governance" by theory, and understand why its development is vital. The topic includes the role of politics (government, civil society, private sector, donor), transparency and accountability in the government, better public service delivery, and control of corruption in the government among several others. Methodology to improve good governance in developing countries will be discussed throughout the course.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

- | | |
|---------|--|
| Week 1 | Governance and Development (1)
-Various theories- |
| Week 2 | Governance and Development (2)
-Good Governance and National Development Plan- |
| Week 3 | Local Governance and Public Service Delivery |
| Week 4 | Transparency and Accountability in Government (1) |
| Week 5 | Transparency and Accountability in Government (2) |
| Week 6 | Corruption in Developing Countries (1) |
| Week 7 | Corruption in Developing Countries (2) |
| Week 8 | Disclosure of Public Information and E-government |
| Week 9 | Public sector integrity at work (cases from several countries) |
| Week 10 | Comparative studies on good governance in developing countries (successful model) |
| Week 11 | Comparative studies on good governance in developing countries (unsuccessful model) |
| Week 12 | Tool to improve governance in the government (1)-Participation of civil society and public sector- |
| Week 13 | Tool to improve governance in the governance (2)-Donor's assistance- |
| Week 14 | Group Discussion and Presentation |
| Week 15 | Group Discussion and Presentation, and Wrap up session |

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

100%

40% Classroom participation/Discussion

30% Presentation

30% Final Paper

<テキスト/Textbook>

Reading/discussion materials will be distributed as appropriate

<参考文献/Reference Book>

OECD, UN and WB report and documents, etc

<概要/Course Content Summary >

For students of global political economy, this is a fascinating time indeed. International power structures are undergoing rapid changes, the nation-state is under siege from forces of globalization, and different conceptualizations of historical change are competing for discursive hegemony. The course is primarily about exploring contemporary political economy in such a broad sense of the term.

<到達目標/Goals,Aims >

We will review contending theories of international political economy (IPE) and International Relations (IR) by scrutinizing basic concepts of each theory, its core and auxiliary propositions as well as its policy prescriptions. We will apply each of the mainstream theories to contemporary history in order to illustrate the processes involved in making a well-informed explanation/ interpretation of significant international events. In other words, the course aims at acquainting students with basic conceptual tools appropriate for grasping the essence of the subject-matter, but less as an end in itself than as a means of instilling a sense of balance and self-confidence in them, whetting their intellectual appetite and opening up their mind to the vast and exciting knowledge which awaits them. By the end of the course students will have also acquired and developed critical thinking and writing skills about the subject-matter.

<授業計画/Schedule >

(実 施 回 / (内容/Contents)

Week)

Week 1	Introduction and preview: IPE and IR
Week 2	Comparing ideologies/perspectives of IPE
Week 3	Comparing theories of IR
Week 4	Realism
Week 5	Realism
Week 6	Liberalism
Week 7	Democratic Peace Theory
Week 8	IR theory, the “end of history” and “clash of civilizations”
Week 9	Social Constructivism
Week 10	Critical Theory, Post-modernism and Post-colonialism
Week 11	Contemporary issues I
Week 12	Contemporary issues I
Week 13	Contemporary issues II
Week 14	Contemporary issues II
Week 15	Review and summary

<成績評価基準/Evaluation Criteria >

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 20%

期末レポート試験・論文 50%

クラスで発表など 30%

<概要/Course Content Summary >

Theoretical perspectives about the social sciences had for long viewed cultures and civilizations through a vertical divide—as stratified and hierarchical. Culture had been thus marginalized as an important variable for understanding relations between societies. But after the end of the Cold War the role of culture and identity in global affairs has begun to re-capture the attention of many. We join the growing intellectual trend by highlighting the relevance of cultural forces for a deeper understanding of the dynamics within societies and relationship among them.

<到達目標/Goals,Aims >

In this course we will explore the utility of the cultural approach for deepening our understanding about the relationship between societies in addition to (rather than instead of) the scientific approach. By the end of the course students will have acquired a reasonably adequate knowledge to identify the defining features, merits and demerits of both approaches. They will have also understood more fully the role of cultural forces in global affairs. The course is reading-intensive supported by relevant documentaries.

<授業計画/Schedule >

(実 施 回 / (内容/Contents)

Week)

Week 1	On the scientific method
Week 2	Can we study society scientifically?
Week 3	On cultural approach
Week 4	Scientific method versus cultural approach
Week 5	The role of religion in international relations
Week 6	The role of ideology in international relations
Week 7	The role of language in international relations
Week 8	The role of ethnicity and race in international relations
Week 9	Culture and dialogues of civilizations
Week 10	Culture and clash of civilizations
Week 11	Culture and comparative warfare
Week 12	Culture and comparative democratization
Week 13	Culture and comparative modernization
Week 14	Culture and globalization
Week 15	Review and summary

<成績評価基準/Evaluation Criteria >

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 20%

中間レポート試験 50%

クラスで発表など 30%

<備考/Remarks >

Ali A. Mazrui, Cultural Forces in World Politics (London: Heinemann and James Currey, 1990).

Samuel P. Huntington and L. Harrison, Culture Matters: How Values Shape Human Progress (New York: Basic Books, 2000).

E. Hanson, Religion and Politics in the International System Today (New York: Cambridge University Press, 2006).

R N. Lebow, A Cultural Theory of International Relations (New York: Cambridge University Press, 2008).

<概要/Course Content Summary>

グローバル化という言葉が定着して既に 20 年近い歳月が経った。そもそも、グローバル化とは何なのか。グローバル化を推し進めている要因は何か、そして、それにより世界の構造はどう変化してきたか。本授業では、今日のグローバル規模の問題（貧富の格差、国境を超える人口移動、宗教・文明間共生、難民、人間の安全保障等）を取り上げ、その要因、影響更には問題解決策について考察する。そして、グローバル規模の課題を考究するために必要な視点とは何かについて理解を深める。具体的なケース・スタディと実務者の経験談等を通じ知識を深めると同時に、それらに対処するための処方箋について分析を行う。

<到達目標/Goals,Aims>

グローバル・スタディーズとは、何をどのように扱う学問領域なのか、グローバル・スタディーズの視角は、なぜ必要なのかを提示し、修士課程での各自のテーマ、研究方法についての示唆を与えることを目標とする。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / 内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/ Assignments)
第 1 回 オリエンテーション（講義のねらいと目標を提示し、院生の研究計画について教員が把握）	
第 2 回 グローバル化を巡る影響①（経済、政治、文化的側面）	授業中に指示
第 3 回 グローバル化を巡る影響②（経済、政治、文化的側面）	授業中に指示
第 4 回 グローバル・ガバナンス	授業中に指示
第 5 回 人口移動（移民、難民問題）	授業中に指示
第 6 回 宗教・文明間関係	授業中に指示
第 7 回 開発と貧富の格差	授業中に指示
第 8 回 環境・エネルギー・食糧問題	授業中に指示
第 9 回 ケース・スタディ①（貧困と開発）	授業中に指示
第 10 回 ケース・スタディ②（政府、市民社会、企業の役割とグローバル・ガバナンス）	授業中に指示
第 11 回 ケース・スタディ③（異なる宗教、文化の共生）	授業中に指示
第 12 回 外部講師による講義	授業中に指示
第 13 回 グループ・ディスカッション①	授業中に指示
第 14 回 グループ・ディスカッション②	授業中に指示
第 15 回 発表とまとめ（院生各自の問題意識と研究方法について、開講時との相違を院生自身が検討する）	授業中に指示

本科目は、集中講義形式を取り、2019 年 1 月にはフィールド視察等も検討している。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 50%

授業への積極的な取り組みと課外読書。

小レポート 20%

どれだけ調査, 分析できたか。

クラスで発表など 30%

どれだけ調査, 分析できたか。

<テキスト/Textbook>

適宜資料を配付

<参考文献/Reference Book>

毎回資料を配付

<備考/Remarks>

<概要/Course Content Summary>

The course aims at giving students enough knowledge in physics to understand artificial social infrastructure and natural environment. It puts particular emphasis on electrical energy explaining how electrical power is generated, transported, distributed and utilized by people. Demonstration employing small scale models of electrical generators, fluid machines and motors should enhance students' understanding of energy conversion. Simple mathematical formulations of fundamental physics rules are given, but the course does not necessarily require high mathematical skills and abilities of students.

<到達目標/Goals,Aims>

Students will be able to calculate figures and quantities necessary for resource management.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / 内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 Introduction: physical quantities	Review high school mathematics
2 Forms of energy: heat and electricity	Homework on heat transport
3 Transport of energy: wave	Homework on finding examples of wave propagation
4 Electricity and magnetism: inverse-square law	Homework on leaf electrometer
5 Electricity and magnetism: magnets and coils	Homework on drawing magnetic field lines of source
6 Electricity generation: electric motors and generators	Homework on assembling a miniature motor
7 Source of energy: combustion	Homework on assembling a miniature engine
8 Source of energy: gravity	Homework on measuring time interval of a pendulum
9 Source of energy: fluid	Homework on measuring wind energy
10 Source of energy: nuclear	Summarize opinion on utilizing nuclear power
11 Source of energy: solar	Homework on solar cell experiment
12 Fundamental equations: Newton's law	Review differential and integration operations
13 Fundamental equations: Maxwell's equation	Review expression using differential operators
14 Physics for resource management: mining	Write up a short summary on fuel processing
15 Group discussion	Prepare for the final term report

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Attendance 20%
 Class contribution 20%
 Questions and comments during class time
 Homework 20%
 One page summary
 Final term report 40%
 Resource management simulation
 Quantitative evaluation of resource is essential, and the ability to evaluate necessary amount(s) of resource will be evaluated.

<テキスト/Textbook>

Handouts will be distributed in the class.

<概要/Course Content Summary>

This course will examine Islam's metamorphosis from a monotheistic faith into lived culture and its political transformation under conditions of global connectivity. Exploring the various facets of the nexus between Islam and the world, the course investigates continuity and change in Islam's contribution to the formation of the modern world, as well as its contemporary impact on our global social reality.

<到達目標/Goals,Aims>

The main objectives of the course are: (a) to situate an awareness of Islam within the framework of globalization; (b) to introduce students to the heterodox nature of Islamic cultural and political expression; and (c) to understand Islam's contribution to the making and remaking of the contemporary world.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

1	Introduction: Islam in the World
2	Orientalism and Postorientalism
3	Pre-Islamic Society
4	Early Islam
5	Islamic Cultural Zones
6	Modernity and Islam
7	Globalization
8	Closed and Open Islam
9	Sufism
10	Cosmopolitanism and Islam
11	Islamic Feminism
12	Secularism and Islam
13	Islam and Violence
14	Islam in the Diaspora
15	The Future of Islam

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Classroom participation/discussion 50%

One final paper 50%

<テキスト/Textbook>

Ahmed, Leila, *Women and Gender in Islam: Historical Roots of a Modern Debate*. (New Haven, CT: Yale University Press., 1992).

Badran, Margot, *Feminism in Islam : Secular and Religious Convergences*. , 3rd edition.(Oxford: Oneworld., 2009).

Esposito, John L., *Islam : The Straight Path*. , 3rd edition.(New York and Oxford: Oxford University Press., 2010).

Esposito, John L., editor-in-chief., *The Oxford Encyclopedia of the Modern Islamic World. 4 volumes*. (New York: Oxford University Press., 1995).

Goodman, Lenn E., *Islamic Humanism*. (New York: Oxford University Press., 2003).

Hodgson, Marshall G.S., 'The Role of Islam in World History.' *International Journal of Middle East Studies* (1970), Vol. 1, No. 2 (April): 99-123.

Said, Edward S., *Orientalism*. (New York: Pantheon Books., 1978).

Taylor, Charles , 'Two Theories of Modernity.' *The Hastings Center Report* (1995), Vol. 25, No. 2, pp. 24-33.

<概要/Course Content Summary>

Provision of development assistance has become more holistic in recent years. This course analyzes current development challenges and examines the holistic approach by applying political economic lens development projects. Focus will be on unpacking current issues to promote inclusive and sustainable development. Use of actual cases will facilitate a clear insight into evolving development activities on the ground.

<到達目標/Goals,Aims>

Drawing from actual cases, the main goal is to enable students to examine critical development issues holistically particularly in their home country context. The cases will provide a deeper understanding of impacts as a result of development activities.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)
Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

第1回 Overview

Students will read and view assigned materials and will be expected to lead discussions on key topics. At times, written materials will be asked for submission.

第2回 Objectives and process

第3回 Country analysis

第4回 Safeguards: Environmental aspect

第5回 Safeguards: Social aspect

第6回 Cross-cutting issues

第7回 Financing

第8回 Procurement

第9回 Legal Review

第10回 Case Study

第11回 Case Study

第12回 Case Study

第13回 Presentations

第14回 Presentations

第15回 Concluding discussions

Students' background will be taken into account to enrich class discussions.

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Classroom participation/raising question/discussion: 40%

Active classroom participation is taken, among others, as proxy for efforts made.

Presentation 30%

Feedback generated and ensuing discussions will also be elements for consideration in addition to presentation content and delivery.

Individual term paper: 30%

Research depth, strength of the narrative and conclusions and grammar are the key evaluation elements.

Content understanding, efforts made, oral and written proficiency, and presentation skills form the core of evaluation criteria.

<テキスト/Textbook>

Reference materials will be communicated in advance of the lecture.

<参考文献/Reference Book>

UN and World Bank documents and reports, etc.

<概要/Course Content Summary>

Conceived as a workshop rather than a lecture-based format and primarily for humanities rather than social science students, this course offers students the chance to fine-tune and hone their academic writing skills. Every student will deliver in-class presentations (25% of the final grade) in which they assess the content of writing guides, thereby sharing the advice of writing experts who have published in this area. However, the greater majority of course assessment (75% of the final grade) depends upon in-class student discussion. In practical terms, this means the following:

* Students should have one or more works of scholarly writing in hand, of chapter or journal-article length, which they feel comfortable publicly disseminating among their peers.

* Students must deliver well-observed, constructive, and critically astute observations as feedback on other people's writings.

Accordingly, students must fully commit to attending the workshops. Missing classes will not only result in a lower grade but defeat the purpose of the course as a whole, namely to ensure that student participants emerge with significant feedback on their writing and improved knowledge of their own particular strengths and weaknesses as academic writers.

<授業計画/Schedule>

(実 施 回 / (内容/Contents)

Week)

1	Course introduction
2	Discussion
3	Discussion
4	Discussion
5	Discussion
6	Discussion
7	Discussion
8	Discussion
9	Discussion
10	Discussion
11	Discussion
12	Discussion
13	Discussion
14	Discussion
15	Discussion

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

In-class presentations 25%

Feedback to fellow students 75%

Course content will be wholly in English.

<テキスト/Textbook>

William Zinsser, *On Writing Well : The Classic Guide to Writing Nonfiction* (Quill, 2001), 308. ISBN:0060006641

Ray Bradbury, *Zen and the Art of Writing* (Joshua Odell Editions, 1996, c1994), 176. ISBN:9781877741098

<概要/Course Content Summary>

Approach to the design and implementation of development policy has evolved benefiting from a variety of instruments and means, no longer dependent only on development assistance. While the effectiveness of official development assistance has been receiving a greater scrutiny, developing governments need to work with a variety of actors whose actions influence their paths to achieving development objectives. This course examines the current development environment analyzing critical and emerging issues to understand their implications to country's development. Taking examples from developing countries, policies will be analyzed for design and implementation arrangements.

<到達目標/Goals,Aims>

Drawing heavily from actual situations on the ground, the main goal is to enable students to examine his/her country's development policy and to make appropriate recommendations. In addition, students are expected to use class discussions to improve their communication skills.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

(授業時間外の学習/Assignments)

1	Introduction and overview	reading assignments will be communicated in advance of the class. This applies to all sessions.
2	Development assistance: evolving agenda and global issues	
3	Development assistance: evolving agenda and global issues	
4	Key issues: time horizon, competing objectives, prioritization	
5	Political economy: Enabler to better analysis and results?	
6	Financing	
7	Donors and other actors	
8	Business environment and corruption	
9	Other factors: migration, remittance, foreign direct investment	
10	Humanitarian to development transition	
11	Fragile states	
12	Middle-income countries	
13	Presentation	
14	Presentation	
15	Concluding discussions	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Classroom discussions 40%

Active classroom participation is taken, among others, as proxy for efforts made.

Presentation 30%

Feedback generated and ensuing discussions will also be elements for consideration in addition to presentation content and delivery.

Report 30%

Research depth, strength of the narrative and conclusions and grammar are the key evaluation elements.

Content understanding, efforts made, oral and written proficiency, and presentation skills form the core of evaluation criteria.

<備考/Remarks>

A detailed list of reading materials is currently being assembled to be available a few weeks before the commencement of the class.

<概要/Course Content Summary>

The objective of this course is to learn basic roles played by various United Nations organizations and international organizations such as UNICEF, UNDP, the World Bank as well as various NGOs in the field of conflict prevention, conflict mitigation, post-conflict humanitarian assistance and rehabilitation. In addition, this course covers various stages of the reconstruction processes after international conflicts erupted. How various international organizations coordinate their efforts of peacebuilding activities will be also discussed. The course will cover mainly past and on-going conflicts in the Middle East and Africa including the conflict in Syria and its impacts on the global society. How to protect refugees and internal displaced persons are to be addressed, too.

<到達目標/Goals,Aims>

1. Learning basic knowledge about the roles of the United Nations and the World Bank in the peacebuilding activities
2. Acquiring various concepts such as transitional governments, transitional justice, peace and security, gender equality and etc that are employed by international organizations in conflict prevention and post-conflict reconstruction settings.

<授業計画/Schedule>

(実 施 回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 Introduction to the Course: Overview of Syllabus and Basic Understanding of International Organizations	will be provided in the class
2 Sustainable Development Goals and Global Partnership	will be provided in the class
3 From "Peace and Development" to "Peace and Security": Changing UN Framework	will be provided in the class
4 UNDP and the World Bank: How different are they today?	will be provided in the class
5 From "Post-Conflict Peacebuilding" to "Peace Operations":	will be provided in the class
6 The Role of Regional Organizations: Case Study of African Union's Conflict Resolution	will be provided in the class
7 Role of Private Sector in Achieving SDGs: Case Study 1	will be provided in the class
8 The Role of Private Sector in Achieving SDGs: Case Study 2	will be provided in the class
9 9.Global and Regional Governance, and Human Rights: The UN System and the Council of Europe	will be provided in the class
10 International Criminal Court and its Limitation	will be provided in the class
11 Climate Induced Migration: Migration as Coping Strategy?	will be provided in the class
12 Post-conflict reconstruction Part 2: Afghanistan	will be provided in the class
13 Emerging Economies and the Demise of the UN Functions	will be provided in the class
14 Students' Presentations 1	will be provided in the class
15 Students' Presentations 2	will be provided in the class

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Attendance and participation 40%

Term-end report 60%

The grade is mainly made based on short essays that the students have to write when class assignments are given. Thus, there will be no report to write in the end of the semester.

<テキスト/Textbook>

will be given during the class

will be distributed at the class

<参考文献/Reference Book>

will be provided in the class

will be provided during the class meetings

<概要/Course Content Summary>

この間、中国は経済史上まれな高度成長を実現した。今後の中国は世界経済のプレイヤーとしてますます重要な役割を果たしていくと予想される。日本との関係からいうと、資本、市場、技術などにおいて両国の相互依存関係がますます緊密化するだろう。社会主義計画経済から脱皮し、市場化、国際化を二輪とした経済発展はどのような軌跡をたどったのか。「世界の工場」から「世界の市場」へ移行しつつある中国だが、中に目を向けると、経済格差、環境汚染、腐敗など、問題が山積みであることも分かる。

<到達目標/Goals,Aims>

この講義では、中国経済を多面的に理解し、これまでのパフォーマンス、現存する問題を明らかにし、将来展望を試みる。この講義を受けることで、中国経済の過去、現在と未来を総合的に捉える力を養うことができる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 中国経済への招待 |
| 第2回 | 20世紀前半の中国経済 |
| 第3回 | 社会主義の模索と市場移行 |
| 第4回 | 三農政策の転換と食糧戦略 |
| 第5回 | 企業体制改革とその行方 |
| 第6回 | 地域開発戦略と産業・人口の集積 |
| 第7回 | 財政制度と中央-地方関係 |
| 第8回 | 金融の制度と運用 |
| 第9回 | 貧困、失業と所得格差 |
| 第10回 | 人口と社会保障 |
| 第11回 | エネルギー問題 |
| 第12回 | 経済発展と多様化する環境問題 |
| 第13回 | 対外貿易と直接投資 |
| 第14回 | 香港・台湾の経済関係と中国との関係 |
| 第15回 | 周辺諸国と中国との経済関係 |

受講者と相談の上、内容の一部を変更することがある。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) 50%

クラスで発表など 50%

<テキスト/Textbook>

梶谷 懐・藤井大輔編『現代中国経済論(第2版)』(ミネルヴァ書房, 2018年)

<参考文献/Reference Book>

随時、関係資料を配布する。

<参照 URL/URL>

<http://www1.doshisha.ac.jp/~shyan/>

<概要/Course Content Summary>

電気エネルギー工学Ⅰでは、電気エネルギーの輸送（送電）および配分（配電）に関わる基礎理論について説明する。

- (1) 電気エネルギーシステムの基本構成
- (2) 送電システムの構成・設備・特性
- (3) 配電システムの構成・設備
- (4) 送電システムの故障解析

<到達目標/Goals,Aims>

下記について理解し、説明できること。

- (1) 電気エネルギーシステムの基本構成
- (2) 送電システムの構成・設備・特性
- (3) 配電システムの構成・設備
- (4) 送電システムの故障解析

<授業計画/Schedule>

（実施回 / （内容/Contents）

（授業時間外の学習/Assignments）

Week)

第1回	電気エネルギー輸送方式	予習と復習
第2回	電気エネルギー輸送特性（送電特性）	予習と復習
第3回	架空送電線	予習と復習
第4回	地中送電線	予習と復習
第5回	分布定数回路とその集中定数等価回路—送電線	予習と復習
第6回	送電線の線路定数	予習と復習
第7回	送電システムの異常電圧—過電圧，低電圧	予習と復習
第8回	中間評価	予習と復習
第9回	誘導障害	予習と復習
第10回	中性点接地方式，高調波障害，コロナ障害	予習と復習
第11回	直流送電，配電システム	予習と復習
第12回	故障解析—多相交流論の応用	予習と復習
第13回	送電システムの故障解析1	予習と復習
第14回	送電システムの故障解析2	予習と復習
第15回	電力システムでの事故および信頼度	予習と復習

受講者の平均的な理解の程度に基づき，上記授業計画を変更する場合があります。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

中間筆記試験 50%

学期中間迄の講義内容の理解度，必要な理論を実際に利用できるかにより評価。

期末筆記試験 50%

学期後半の講義内容の理解度，必要な理論を実際に利用できるかにより評価。

<テキスト/Textbook>

雨谷昭弘・金子和博・辻村寛共著『電気エネルギーシステム工学』（日刊工業新聞社，1988年）

<概要/Course Content Summary>

共生のための倫理の構想へ向けて、ショーペンハウアーの「同苦」の倫理学の意義を考察する。春学期は「生への意志」と「苦悩」の関係を考える前提、すなわち「物自体としての意志」をめぐるショーペンハウアーに固有の思惟方法を綿密に検討する。

<到達目標/Goals,Aims>

ショーペンハウアーの「物自体としての意志」をめぐる問題構制を正確に理解できるようになる。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / 内容/Contents） Week)	（授業時間外の学習/Assignments）
1 ガイダンス	テキスト（『意志と表象としての世界』正編第二巻）を読んでおくとともに、授業中に指示された文献を読むこと（以下同様）
2 原因論（Ätiologie）が及ぶ範囲について	
3 身体と意志	
4 身体についての二重の認識	
5 意志の現象としての身体	
6 自然の内奥の本質を認識する鍵としての身体	
7 力と意志の概念的包摂関係	
8 自然界のあらゆる力の中に活動している盲目的な生への意志	
9 自然の根源力	
10 意志の客体化の諸段階としてのアイデア	
11 機会原因論	
12 低次のアイデアと高次のアイデアの関係	
13 経験的性格と叡智的性格	
14 終わることのない努力としての意志	
15 総括	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 50%

期末レポート試験・論文 50%

<テキスト/Textbook>

Arthur Schopenhauer, *Die Welt als Wille und Vorstellung I, Erster Teilband* (Diogenes). テキストを各自用意すること。

<参考文献/Reference Book>

参考文献は折にふれて紹介する。

<概要/Course Content Summary>

この演習では、「労働統計研究Ⅰ」「労働統計研究Ⅱ」で学ぶ統計解析のスキル（理論および手法）を、現実の労働問題に適用することを考える。そのため、研究のフィールドを限定しすぎることなく、修士論文に向けての受講生の問題関心を尊重した上で、どのような統計解析が可能かを探り、分析を進めたい。

<到達目標/Goals,Aims>

担当者の問題関心から、労働市場の流動化に伴う持続的キャリア形成に関連する内容を中心に、基本文献の輪読からスタートし、修士論文作成に向けての先行研究サーベイを一通り終えるようにする。必要に応じて、早い段階から実際に調査を行うことも視野に入れており、その準備も平行して始める。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / 内容/Contents） Week)	（授業時間外の学習/Assignments）
1 イントロダクション	基本文献・先行研究の読み込みおよび調査立案・実施 (4 時間)
2-14 修士論文作成に関する個別指導（調査の立案・実施を含む）	基本文献・先行研究の読み込みおよび調査立案・実施 (4 時間)
15 総括	基本文献・先行研究の読み込みおよび調査立案・実施 (4 時間)

受講生との相談により、授業計画を変更することがある。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 50%

演習への出席状況、および態度

授業内評価 50%

報告や議論の内容

<テキスト/Textbook>

市販のテキストは使用しない。

<参考文献/Reference Book>

演習中に適宜指示する。

<参照 URL/URL>

<http://www.jurasaka.com/> 浦坂純子研究室（受講生同士の意思疎通に ML と BBS を活用する。）

<備考/Remarks>

受講希望生は、「労働統計研究Ⅱ」「産業関係フィールドワーク」を含む数値情報系科目を可能な限り履修することを条件とする。また、関連する学部および他研究科設置科目、外部セミナーの受講を義務づける場合があるので注意して欲しい。

<概要/Course Content Summary>

21 世紀になり、主要国では芸術文化政策への関心が高まり、新たな文化政策の展開が始まっている。本講義はイギリス、ドイツ、フランスの最新の文化政策を検討して、日本の新たな文化政策のあり方について、論じる。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / 内容/Contents）

（授業時間外の学習/Assignments）

Week)

第1回	イントロダクション	予習復習
第2回	イギリスの文化政策 1	予習復習
第3回	イギリスの文化政策 2	予習復習
第4回	イギリスの文化政策 3	予習復習
第5回	イギリスの文化政策 4	予習復習
第6回	ドイツの文化政策 1	予習復習
第7回	ドイツの文化政策 2	予習復習
第8回	ドイツの文化政策 3	予習復習
第9回	ドイツの文化政策 4	予習復習
第10回	フランスの文化政策 1	予習復習
第11回	フランスの文化政策 2	予習復習
第12回	フランスの文化政策 3	予習復習
第13回	フランスの文化政策 4	予習復習
第14回	日本の文化政策 1	予習復習
第15回	日本の文化政策 2	予習復習

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 60%

中間レポート試験 20%

期末レポート試験・論文 20%

<テキスト/Textbook>

藤野一夫・秋野有紀『地域主権の国ドイツの文化政策』（美学出版，2017）

<参考文献/Reference Book>

ロバート・ヒューイ『文化資本』（美学出版，2017）

<概要/Course Content Summary>

This lecture focus on the public policy in developing countries. The lecture aims to provide the students with analytical tools for studying the public issues in developing countries, policy instruments for improving the problems. For this purpose, the theoretical model for analyzing the public policy will be explained. If necessary, the basics of micro-economic theory will be lectured. Finally, we would like to discuss the current issues in developing countries and solution for the problem in the class.

In the class, we will use the text book "Public Sector Economics for Developing Countries" by Michael Howard.

<到達目標/Goals,Aims>

Firstly, we aim to improve the ability of analyzing the effectiveness of public policy from economic side. Secondly, we aim to deepen the understanding what the public policy is. Thirdly, we aim to deepen the understanding on the essential structure of the current issues in developing countries.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 Introduction to public sector economics	Summarize the chapter 1 of the text book in advance.
2 Public goods and externalities	Summarize the chapter 2 of the text book in advance.
3 The role of government in market economies	Summarize the chapter 3 of the text book in advance.
4 Public expenditure analysis	Summarize the chapter 6 of the text book in advance.
5 Income distribution and poverty	Summarize the chapter 7 of the text book in advance.
6 Public utility regulation	Summarize the chapter 8 of the text book in advance.
7 Cost benefit analysis	Summarize the chapter 9 of the text book in advance.
8 Budgetary process	Summarize the chapter 10 of the text book in advance.
9 Stabilization policy	Summarize the chapter 11 of the text book in advance.
10 Taxation	Summarize the chapter 13 of the text book in advance.
11 Incidence and efficiency of taxation	Summarize the chapter 14 of the text book in advance.
12 Supply side tax policy	Summarize the chapter 15 of the text book in advance.
13 Taxes on Income and Wealth	Summarize the chapter 16 of the text book in advance.
14 Indirect tax in developing countries	Summarize the chapter 17 of the text book in advance.
15 Discussion	Prepare the discussion.

The schedule is subject to change according to the speed of understanding of the students.

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 25%

Class attendance is required.

期末レポート試験・論文 50%

Evaluate the level of understanding and ability of solving the public issues.

クラスで発表など 25%

Presentation of the summary of the chapter will be required.

Evaluate the level of understanding and ability of solving the public issues.

<テキスト/Textbook>

Michael Howard 『Public Sector Economics for Developing Countries』 (The University of the West Indies Press, 2001), ISBN: 976-640-091-1

<概要/Course Content Summary>

本講義では、統計分析、計量経済学の手法を用いて、質的データおよび量的データの分析方法を学んでいく。そのため、統計学および計量経済学に関する理論的な学習を行い、データを用いながらどのように統計学および計量経済学が実証分析で活用されているかを示す。

本講義は、経済学研究科 PSE(Professional Study in English)の科目となっております。講義の中での英語使用は、受講者構成を見て判断しますが、全体に3割を英語で行うことを予定しております。

<到達目標/Goals,Aims>

統計学の基本的考え方が理解でき、推定・検定の理論と手法を経済分析の中で活用できるようにする。計量経済学の基本的分析法である最小二乗推定に関する理解を正確に持ち、具体的にどのような計量経済学的分析、数量分析が可能であるかを理解し、自分の研究テーマの中で、実際に数量分析を適用できる能力を養成する。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / Week）	（内容/Contents）	（授業時間外の学習/Assignments）
第1回	統計と統計学：統計の利用例	授業の関連文献の検索と理解
第2回	統計分析の理論的基礎：統計学の基礎1（記述統計）	授業の関連文献の検索と理解
第3回	統計分析の理論的基礎：統計学の基礎2（多変量の統計分析）	授業の関連文献の検索と理解
第4回	統計分析の理論的基礎：標本理論	授業の関連文献の検索と理解
第5回	統計分析の理論的基礎：標本分布と中心極限定理	授業の関連文献の検索と理解
第6回	統計分析の理論的基礎：t分布と χ^2 乗分布	授業の関連文献の検索と理解
第7回	統計分析の理論的基礎：推定	授業の関連文献の検索と理解
第8回	統計分析の理論的基礎：検定	授業の関連文献の検索と理解
第9回	数量経済分析の理論的基礎：最小二乗法による線形関係の推定1	授業の関連文献の検索と理解
第10回	数量経済分析の理論的基礎：パネルデータ分析	授業の関連文献の検索と理解
第11回	数量経済分析の理論的基礎：最小二乗法による線形関係の推定2	SPSSを用いた実証分析
第12回	数量経済分析の理論的基礎：最小二乗法による線形関係の推定3	SPSSを用いた実証分析
第13回	数量経済分析の理論的基礎：時系列相関の検定	SPSSを用いた実証分析
第14回	数量経済分析の理論的基礎：クロスセクションデータ分析1（量的データ分析とGLS）	SPSSを用いた実証分析
第15回	数量経済分析の理論的基礎：クロスセクションデータ分析2（質的データ分析とプロビット分析）	SPSSを用いた実証分析

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点（出席，クラス参加，発表，グループ作業の成果等） 60%

出席状況と授業への積極性を評価。

期末レポート試験・論文 40%

レポート試験を課す。レポートでは計量経済学的分析手法を用いた質的・数量分析をどの程度しているかを評価する。

<参考文献/Reference Book>

森棟公夫『統計学入門』第2版（新世社，2001年）
 養谷千風彦『計量経済学』（多賀出版，2003年）
 森棟公夫『計量経済学』（東洋経済新報社，1999年）
 W.H. Greene, *Econometric Analysis* (Prentice Hall, 1997).

<備考/Remarks>

本科目はPSE科目である。

講義の中での英語使用は、受講者構成を見て判断しますが、全体に3割を英語で行うことを予定しております。

<概要/Course Content Summary>

政策ネットワーク論は、ある政策領域について、関係者の間にどのような関係が築かれており、その関係が政策の効果にどのような影響を及ぼすのかを研究する分析方法である。

本講義では、政治学における「モデル」の果たす役割を理解してもらうために、まずは「政策の窓」モデルを用いて分析の実践を行い、その成果を報告しあう。そのうえで、政策ネットワーク分析というモデルが盛んになった背景、基本的な概念、分析方法など、政策ネットワーク分析を行うのに必要な知識を身につけ、最後に各自が設定したテーマについて政策ネットワーク分析を行ってもらおう。

政策分析の具体的な方法を深く理解してもらうことで、政策研究において「分析すること」の意味を伝えていきたい。

授業の進め方は、履修者と相談して決めていきたいが、教員による簡単な講義、課題についての履修者の報告とディスカッションから構成するつもりである。

<到達目標/Goals,Aims>

政治学の基本的な考え方を理解し、分析モデルを使った政策研究の方法に関する知識を深め、実際に政策を研究する際に必要とされる基本的なスキルを身につけることを目標とする。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

第1回	ガイダンス (授業の進め方)	事前学習とノートの作成
第2回	「分析モデルとは何か」についての講義	事前学習とノートの作成
第3回	「政策の窓モデル」についての講義	事前学習とノートの作成
第4回	「ガバメントとガバナンス」について講義	事前学習とノートの作成
第5回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第6回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第7回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第8回	「政策ネットワーク論の概要」について講義	事前学習とノートの作成
第9回	「政策ネットワーク論の概要」について講義	事前学習とノートの作成
第10回	「防災政策ネットワークの機能と構造」について講義	事前学習とノートの作成
第11回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第12回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第13回	課題報告とディスカッション	報告の準備
第14回	レポート課題に関する講義	事前学習とノートの作成
第15回	振り返り/ネットワークキングの技法	事前学習とノートの作成

履修者の数によって、授業計画を柔軟に変更していくつもりである。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 (出席, クラス参加, 発表, グループ作業の成果等) 50%

出席が原則である

授業において積極的に発言する者には高い評価を与える

期末レポート試験・論文 50%

期末レポートを課す

課題報告の内容も期末レポートと同様に重視する。

<テキスト/Textbook>

特に指定しない。授業の中で、コピーを配布し、次回までに読んできてもらう。

<参考文献/Reference Book>

特に指定しない。授業の中で、随時紹介していく。

<概要/Course Content Summary>

公共選択あるいは非市場的意思決定の枠組みでの政策分析を解説します。授業は教科書・論文を輪読し、履修者の間で内容について議論することで進められます。

<到達目標/Goals,Aims>

履修者が、公共選択の観点から政策を考えることができるようになることを目標とします。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / （内容/Contents）

（授業時間外の学習/Assignments）

Week)

第1回	授業の進め方の説明、報告担当決定	教科書の予習・復習
第2回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第1章	教科書の予習・復習
第3回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第2章	教科書の予習・復習
第4回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第3章	教科書の予習・復習
第5回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第4章	教科書の予習・復習
第6回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第5章	教科書の予習・復習
第7回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第6章	教科書の予習・復習
第8回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第7章	教科書の予習・復習
第9回	教科書輪読、担当章の内容報告：教科書第8章	教科書の予習・復習
第10回	履修者が選んだテーマの論文内容報告（テーマ1）	報告論文の予習・復習
第11回	履修者が選んだテーマの論文内容報告（テーマ2）	報告論文の予習・復習
第12回	履修者が選んだテーマの論文内容報告（テーマ3）	報告論文の予習・復習
第13回	履修者が選んだテーマの論文内容報告（テーマ4）	報告論文の予習・復習
第14回	履修者が選んだテーマの論文内容報告（テーマ5）	報告論文の予習・復習
第15回	授業全体のまとめ、期末試験レポートに関する説明	授業内容の予習・復習

受講者の多寡、希望に応じて授業計画を変更する可能性があります。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

期末レポート試験・論文 50%

レポートの内容・完成度を評価します

クラスで発表など 25%

授業への積極的な参加を評価します

クラスへの貢献度 25%

授業への積極的な参加を評価します

自分が報告担当になっていない授業でも、議論に積極的に参加することが重要です。また、レポートに関しては、オリジナリティのある内容を評価します。

<テキスト/Textbook>

J.M.ブキャナン, G.タロック『公共選択の理論—合意の経済論—』（東洋経済新報社, 1979）, ISBN:4492311165, すでに絶版になっていますが、大学内各図書館に蔵書が複数冊あります。

James M. Buchanan and Gordon Tullock, *The Calculus of Consent: Logical Foundations of Constitutional Democracy* (University of Michigan Press, 1962).

<概要/Course Content Summary>

本講義では以下のような手順で、受講生が自分の進路選択について考え、決定する機会を提供する。

- 1) 社会情勢、とりわけ雇用に関する情勢の変化や、労働にまつわる事項を理解させる (第 3～5 回)。
- 2) 検査を通じて自己理解を深める (第 2, 7 回)。
- 3) 博士取得後に様々な分野で活躍中の人材をゲストティーチャーとして招き、講演してもらう (第 8～13 回)。
- 4) アピールシートを作成し、過去の棚卸しを行い、自己肯定感を高めたうえで自分の進路を改めて考えさせる (第 14 回)。
- 5) 求職者同士で助け合って仕事探しをする求職支援方法であるジョブクラブの導入を提案する (第 15 回)。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が自分の進路選択について考え、自分に合った進路を決定できるようになる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/ Assignments)
1 オリエンテーション	受講内容の復習
2 キャリア・デザインについて理解する	受講内容の復習
3 自分の特性を理解する I (PROG TEST)	受講内容の復習
4 自分の特性を理解する II (PROG TEST 解説)	受講内容の復習
5 社会人としてのマナーを身につけよう	受講内容の復習
6 フィールドワーク I : さまざまなキャリアを知る (業界研究)	受講内容の復習
7 フィールドワーク II : さまざまなキャリアを知る (業界研究)	受講内容の復習
8 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える①	小レポート作成
9 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える②	小レポート作成
10 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える③	小レポート作成
11 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える④	小レポート作成
12 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える⑤	小レポート作成
13 ゲストスピーカーの話を聞いて進路を考える⑥	小レポート作成
14 アピールシートの作成と討論	受講内容の復習
15 まとめ	期末レポート作成

講義担当者やゲストスピーカーの都合等により、受講生と相談の上、授業計画を変更する可能性がある。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 30%

出席と受講態度を重視する

小レポート 30%

ゲストスピーカーの話についての感想が書かれているか

期末レポート試験・論文 40%

自分のキャリアのとらえ方について書かれているか

小レポートでは、各ゲストスピーカーの話を聞いた感想を書いてもらう。期末レポートでは、この授業を通して、自分のキャリアについてどう考えるようになったかを書いてもらう。

<概要/Course Content Summary>

日本とアジアの社会保障・社会福祉のホット・ 이슈ー

本講義では現在日本とアジアの「社会保障・社会福祉のホット・ 이슈ー」「今そこにある問題」を取り上げ、理解を深めることをめざしています。

<到達目標/Goals,Aims>

学生が、社会保障の基礎理論をマスターし、アジアの社会保障の現状や今後の展望などに応用できるようにする。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

1～2 イントロダクション
 3～10 テキスト 1 の輪読
 11～18 テキスト 2 の輪読
 19～26 テキスト 3 の輪読
 27～28 議論
 29～30 まとめ

予習と復習
 予習と復習
 予習と復習
 予習と復習
 予習と復習
 予習と復習

隔週に開講し、1 回に 2 コマ連続して行なう。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

授業中に理解度確かめる

小レポート 20%

個々のトピックについての理解度確かめる

期末レポート試験 60%

自分なりの知見をどの程度確立しているか確かめる

<テキスト/Textbook>

埋橋孝文『福祉政策の国際動向と日本の選択ーポスト「三つの世界」論ー』初版 (法律文化社, 2011)

棕野美智子・田中耕太郎『初めての社会保障ー福祉を学ぶ人へー』 (有斐閣)

埋橋孝文 (編著)『生活保護』 (ミネルヴァ書房, 2013 年)

<参考文献/Reference Book>

初回授業時に示します。

<概要/Course Content Summary>

あらゆる核兵器の開発・保有・使用を許さない核兵器禁止条約が誕生し、国際社会は核軍縮・核廃絶への新たなステージに歴史的な一歩を踏み出した。また、条約採択に貢献した国際NGO「ICAN」がノーベル平和賞を受賞し、国際社会に対する市民社会の役割の大きさを示した。しかし、核武装国と日本を含む同盟国は従来の核不拡散条約(NPT)体制、核抑止論に基づく安全保障政策にこだわり、核禁条約には背を向けたままだ。そんな中で、トランプ米政権は軍事強攻策をちらつかせ、北朝鮮は核・ミサイル開発を加速。広島・長崎の犠牲を人類史上唯一とする核戦争すら懸念させる事態を招いている。他方、日本政府は福島原発事故の惨禍に見舞われながら、原発再稼働を列島各地で進めつつ原発の海外輸出にも道を広げ、「核の力」を手放そうとはしない。

広島・長崎の被爆者の「核と人類は共存できない」という戦後70余年にわたる訴えは、今まさに喫緊の課題として私たちの世界に突きつけられている。核兵器をめぐる国際社会のガバナンスはどうなるのか、それを後押しする市民社会の今後の役割と課題は何か、原子力から次世代エネルギーへの転換は進められるのか。そうした課題を念頭にリアルタイムの動きに触れながら、核をめぐる諸問題に理解を深めていく。なお、本講座は朝日新聞大阪本社「核と人類取材センター」の協力によって提供される、本学との提携講座である。

<到達目標/Goals,Aims>

核問題に精通する朝日新聞記者や有識者がおおむね週替わりで講師を務め、各分野ごとに解説、分析する。その過程を通じて「核と人間」について考察する基本知識を取得するとともに、情報収集・分析・評価の手法を学ぶ。ヒロシマ・ナガサキ、そしてフクシマを体験した日本の役割についても考え、課題解決への視野を広げる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

- | | |
|----|---------------------|
| 1 | 核兵器・原子力が提起する問題の概観 |
| 2 | 広島・長崎の被爆者の証言とその意義 |
| 3 | 同上 |
| 4 | 原爆と原発、その点と線 |
| 5 | 核不拡散条約(NPT)と核兵器禁止条約 |
| 6 | 核軍縮の歴史的展開 |
| 7 | 核不拡散の歴史的展開 |
| 8 | 福島原発事故を知る |
| 9 | チェルノブイリ原発事故の教訓 |
| 10 | 日本の原子力政策と電力業界 |
| 11 | 核テロ対策の新展開 |
| 12 | 歴史文書から見る日米の核政策 |
| 13 | 朝鮮半島をめぐる核問題と日本 |
| 14 | 「核といのちを考える」プロジェクト |
| 15 | 総括 |

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 40%

小レポート 10%

期末レポート試験・論文 50%

<テキスト/Textbook>

朝日新聞デジタル「核といのちを考える」(http://www.asahi.com/special/nuclear_peace/)に掲載された特集・情報など適宜提示

<概要/Course Content Summary>

「核なき世界」に向けた課題について、若い世代が問題意識を高め、関心を持って向き合い、参加するにはどうすればいいのか。世代を超えて情報と問題意識を共有していくための戦略とその実践について具体的な取り組みを参照しながら共に考え、アプローチの方法を考える。

その成果に向けて、講師と聴講生によるディスカッションの機会を重視したい。また、聴講生自身の研究分野に引きつけ、どのように応用できるか発表する機会も持ちたい。

本講座は朝日新聞大阪本社「核と人類取材センター」の協力によって提供される、本学との提携講座である。

<到達目標/Goals,Aims>

核問題をめぐる諸相と個々の課題を把握し、「核なき世界」への問題意識を高める。さらに、討論や発表を通じて講師や聴講生とのつながりを深め、問題意識の共有と多様性を認識して聴講生自身の思考力、実践力を養う。

<授業計画/Schedule>

（実施回 / （内容/Contents）

Week)

- | | |
|----|----------------------|
| 1 | 講義ガイダンス |
| 2 | 原爆被害を伝える意義と困難 |
| 3 | 同上 |
| 4 | 原発「安全神話」はどう作られた |
| 5 | 同上 |
| 6 | 日本の核武装論と北東アジアを考える |
| 7 | 同上 |
| 8 | 戦争の加害・被害と「核被害」の位相 |
| 9 | 同上 |
| 10 | 「核の神話」（原爆論争）について考える |
| 11 | 同上 |
| 12 | 国際NGOのさらなる役割と連携の課題 |
| 13 | 同上 |
| 14 | 「核なき世界」への戦略と実践的アプローチ |
| 15 | 総括 |

核問題の基礎知識を踏まえたうえでの講義展開を想定しているため、「グローバル・リソース・マネジメント特論21（核兵器・原子力と人間社会）春学期」の履修も勧めたい。

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 60%

期末レポート試験・論文 40%

<テキスト/Textbook>

朝日新聞デジタル「核といのちを考える」など適宜提示

<備考/Remarks>

「グローバル・リソース・マネジメント特論21（核兵器・原子力と人間社会）」（春学期）の履修も勧めたい。

<概要/Course Content Summary>

This course prepares students for attendance, participation and organization of international conferences. Each class will culminate in an international conference with real participants. The students will play a major role in the planning of this final conference as well as participate in a final student-led session that addresses the core conference theme. In the beginning of the class the students will be introduced to the key conference themes and teams of students will begin working up portfolios of thematic research, as well as identifying possible speakers for the conference.

<到達目標/Goals,Aims>

Students will become familiar with interdisciplinary materials and research methodologies, develop organizational and interpersonal skills and gain experience of working in a high-level research and presentation teams.

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

1	Introduction to the course
2	Lecture on the conference theme I
3	Lecture on the conference theme II
4	Lecture on the conference theme III
5	Conference theme role-play introduction
6	Conference theme role-play team and work division
7	Conference planning introduction
8	Conference planning team and work division
9	Research development and methodology lecture
10	Research development and methodology
11	Conference planning team Lecture
12	Research development and methodology
13	Rehearsal I
14	Rehearsal II
15	Rehearsal III

This course consists of two conferences, first conference will be held in the Spring semester, and the second one in the Fall semester. In April, further schedule and program will be noticed for the GRM students.

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 50%

Group work is 50% of the grade. Group performance across a range of tasks is constantly evaluated.

期末レポート試験・論文 50%

A research report summarizing the student's understanding of the conference themes.

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2 フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14 フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15 成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2 フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14 フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15 成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて秋学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(内容/Contents)

ガイダンス
 フィールドリサーチ事前指導
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ事後指導
 成果報告

(授業時間外の学習/Assignments)

フィールドリサーチ企画
 フィールドリサーチ企画・立案
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 成果報告準備

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

グローバル・リソース・マネジメントの履修内容に対応する国内・海外の企業や国際機関などにおいて、3週間以上滞在しインターン実習を行う。実習先・実習期間については相談・調整の上決定する。実習期間中は、(1) インターンシップ日誌の作成と(2) 実習内容に関するレポート作成準備に取り組み、実習後は、日誌とレポートの提出と、報告会の場で成果発表を行う。本クラスは、GRM履修生のうち、主として理工学研究科の博士課程(後期課程)に所属する学生を対象とすることから、コース修了後を見据え、プレゼンテーションのスキル・アップをはじめ、社会人として必要な基礎トレーニングも行う。

<到達目標/Goals,Aims>

国内・海外の企業や国際機関などでのインターン実習を通して、受講生が、グローバル・リソース・マネジメントでの学びが社会においてどのように応用できるのかを考え、コース修了後の進路のことを具体的に考えるようになる。同時に、社会で即戦力として活躍できるように種々の能力を身につける。

<授業計画/Schedule>

(実 施 回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 オリエンテーション	
2 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
3 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
4 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
5 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
6 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
7 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
8 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
9 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
10 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
11 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
12 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
13 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
14 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
15 日誌, レポート提出および報告会	

受入機関の事情等により、受講者と相談の上で、授業計画を変更する可能性がある

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

提出物(インターンシップ日誌) 33%

インターンシップでの業務内容を適切に日誌につけているか

提出物(レポート) 33%

インターンシップで得た経験を的確に表現できているか

報告会での成果発表 34%

インターンシップで得た経験を簡潔に、わかりやすく伝えられているか

成績評価は提出された日誌・レポートおよび報告会での成果発表により行う。日誌は毎日必要事項をくまなくつけているかが評価のポイントである。レポートは、実習内容の要約だけでなく、それがどのように今後の自分の研究や進路に活かすことができるかに言及しているかが評価のポイントである。報告会での報告は、前提知識のない第三者が聞いても理解できるくらいに簡潔に、わかりやすく伝えられているかが評価のポイントである。

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

グローバル・リソース・マネジメントの履修内容に対応する国内・海外の企業や国際機関などにおいて、3週間以上滞在しインターン実習を行う。実習先・実習期間については相談・調整の上決定する。実習期間中は、(1) インターンシップ日誌の作成と(2) 実習内容に関するレポート作成準備に取り組み、実習後は、日誌とレポートの提出と、報告会の場で成果発表を行う。本クラスは、GRM履修生のうち、主として理工学研究科の博士課程(後期課程)に所属する学生を対象とすることから、コース修了後を見据え、プレゼンテーションのスキル・アップをはじめ、社会人として必要な基礎トレーニングも行う。

<到達目標/Goals,Aims>

国内・海外の企業や国際機関などでのインターン実習を通して、受講生が、グローバル・リソース・マネジメントでの学びが社会においてどのように応用できるのかを考え、コース修了後の進路のことを具体的に考えるようになる。同時に、社会で即戦力として活躍できるように種々の能力を身につける。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents) Week)	(授業時間外の学習/Assignments)
1 オリエンテーション	
2 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
3 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
4 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
5 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
6 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
7 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
8 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
9 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
10 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
11 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
12 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
13 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
14 インターンシップ実施	日誌作成, レポート・報告準備
15 日誌, レポート提出および報告会	

受入機関の事情等により、受講者と相談の上で、授業計画を変更する可能性がある

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

提出物(インターンシップ日誌) 33%

インターンシップでの業務内容を適切に日誌につけているか

提出物(レポート) 33%

インターンシップで得た経験を的確に表現できているか

報告会での成果発表 34%

インターンシップで得た経験を簡潔に、わかりやすく伝えられているか

成績評価は提出された日誌・レポートおよび報告会での成果発表により行う。日誌は毎日必要事項をくまなくつけているかが評価のポイントである。レポートは、実習内容の要約だけでなく、それがどのように今後の自分の研究や進路に活かすことができるかに言及しているかが評価のポイントである。報告会での報告は、前提知識のない第三者が聞いても理解できるくらいに簡潔に、わかりやすく伝えられているかが評価のポイントである。

<備考/Remarks>

報告会は年度末に行う予定である。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実 施 回 / (内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2 フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14 フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15 成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

1	ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2	フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13	フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14	フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15	成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて春学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(実 施 回 / (内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 ガイダンス	フィールドリサーチ企画
2 フィールドリサーチ事前指導	フィールドリサーチ企画・立案
3 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
4 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
5 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
6 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
7 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
8 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
9 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
10 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
11 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
12 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
13 フィールドリサーチ実習	適切・効率的な実施と成果報告準備
14 フィールドリサーチ事後指導	成果報告準備
15 成果報告	

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

GRM および博士論文のテーマに関わる分野において、受講生各自が設定した「問い」に答えるために必要なデータや資料の収集を目的としたフィールドリサーチを、対象・関連地域にて秋学期に実施する。

本科目は、事前事後指導・実習（フィールドリサーチ）・成果報告を組み合わせで行われる。まずフィールドリサーチ企画・立案・実施のためのガイダンスを行い、その後個別に教員の指導を受けつつ、個々の学生が個人でフィールドリサーチを企画・立案・実施する。フィールドリサーチ実施後は、教員の指導のもと成果をまとめ、それを報告会において発表する。フィールドリサーチ実習は、定期的に進捗状況を報告し、評価を受けながら進める。また本科目では、フィールドリサーチにはより高度な質的／量的調査が、そして成果報告には詳細な分析と強い説得力が求められる。

<到達目標/Goals,Aims>

1. フィールドリサーチの方法論を習得する。
2. より高度な調査を含むフィールドリサーチを実施し、その成果を詳細な分析に基づいた説得的な内容にまとめる。

<授業計画/Schedule>

(内容/Contents)

ガイダンス
 フィールドリサーチ事前指導
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ実習
 フィールドリサーチ事後指導
 成果報告

(授業時間外の学習/Assignments)

フィールドリサーチ企画
 フィールドリサーチ企画・立案
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 適切・効率的な実施と成果報告準備
 成果報告準備

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

平常点 20%

講義・事前事後指導への参加状況

フィールドリサーチ企画・立案・実施内容 40%

テーマに照らして、適切・効率的であるか

成果報告 40%

説得的な内容にまとめられているか

<備考/Remarks>

報告会の日程は決定次第、受講生に案内する。

<概要/Course Content Summary>

● About Joint Seminar II

Joint Seminar II is supposed to be one of the highest level courses for Ph.D. students. Students are required to combine all knowledge, skill, and experiences acquired in previous courses. The course is, therefore, mostly conformed with group work activities except first couple lectures to provide the basic information about the topic. Group work theme will be given as a very broad one, so that students must start their activity from gathering information and data to understand the situation and to draw out their own topic. The discussion leading to the conclusion has to satisfy the accuracy in logic, multi-perspective viewpoints, and balancing generality and local condition in higher level. The conclusion and proposal have to be realistic and actually adoptable in certain degree. Group work progress has to be checked and confirmed by instructors. Two Mid-term presentations are planned to examine appropriateness of topic setting and interim progress, respectively, by all faculty members.

● Introduction of Class 2018

A disaster prevention program requires solutions and counter measures of different types from different perspectives. Constructing disaster prevention works, for example, dykes, sea walls, or earthquake resistant buildings, is one of typical solutions. However, these kinds of so-called hard solutions do not provide the maximum safety to the society. Since disaster occurs where human activities are conducted, non-engineering solutions, for example, evacuation plan, rescue plan, or institutional coordination to support those plans, are necessary to reduce damage to the society.

In emergency situations, information dissemination is one of very important factor for successful disaster prevention measures. In order to disseminate information promptly, robust and resilient system has to be constructed. However, same as the general idea shown above, constructing communication infrastructure is not enough. Coordination to the public organizations and local communities is needed. For example, no organized evacuation or prompt rescue can be made without precise and prompt information. Therefore, both technology and coordination are needed.

This course asks students to construct a plan to establish communication system for emergency situation and a plan to use the information disseminated through the network. For this purpose, couple lectures are provided to learn basics of disaster prevention, information dissemination, and institutional coordination.

<到達目標/Goals,Aims>

1. To become able to construct a comprehensive proposal for a given problem

<授業計画/Schedule>

(実施回 / (内容/Contents)

Week)

1	Introduction
2	Disaster and disaster prevention
3	Information dissemination
4	Institutional coordination in disaster prevention programs
5	Group work discussion and consultation
6	Group work discussion and consultation
7	Mid-term presentation 1
8	Group work discussion and consultation
9	Group work discussion and consultation
10	Group work discussion and consultation
11	Mid-term presentation 2
12	Group work discussion and consultation
13	Group work discussion and consultation
14	Group work discussion and consultation
15	Final presentation

(授業時間外の学習 /

Assignments)

Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Group work preparation
Report writing

<成績評価基準/Evaluation Criteria>

Attendance and contribution 25%

Mid-term presentation 15%

Final presentation 30%

Report 30%

同志社大学大学院
博士課程教育リーディングプログラム
グローバル・リソース・マネジメント

2018（平成 30）年度 年次報告書

発 行

2020 年 2 月

同志社大学 高等研究教育院

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3259 FAX 075-251-3152
E-mail ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp



 同志社大学 高等研究教育院

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL 075-251-3259

E-mail ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp